

福井大学アドミッションセンター
自己点検・評価報告書

平成27年 1 月

目 次

第1章	センターの設置の理念・目的、組織・運営	
1	沿 革	1
2	理念と目的	2
3	組織と運営	2
4	関係組織、関係委員会等	4
第2章	センターの入学者選抜に関する調査・研究	
1	活動内容と成果	6
2	活動に関する課題と改善の方策	16
第3章	センターの入試広報活動への関わり	
1	広報活動の内容と成果	18
2	広報活動に関する課題と改善の方策	25
第4章	センターの高大連携に関する実践的活動	
1	活動内容と成果	26
2	改善すべき点	32
第5章	センター教員の研究活動	
1	研 究 業 績	33
第6章	センターの施設・設備、財務と管理	
1	施設・設備の現状	37
2	財務の状況	37
3	管 理 体 制	38
4	施設・設備、財務、管理等に関する課題と改善の方策	39
資料編		43
あとがき		187

第1章 センターの設置の理念・目的、組織・運営

1 沿革

福井大学では、従来からの学校長推薦による推薦入試を実施していたが、平成13年度入試（工学部）において初めて学習意欲を重視する自己推薦型のAO入試を試行的に導入した。これは従来の工業高校等を対象とした推薦入試をAO入試に移行させたもので、募集人員は大学入試センター試験を課さないAO入試Ⅰ（20名）、大学入試センター試験を課すAO入試Ⅱ（5名）の計25名であった。また、平成14年度入試（工学部）からは、AO入試の対象を工業系以外の普通高校等にも拡大した。募集人員は、AO入試Ⅰ（40名）、AO入試Ⅱ（8名）の計48名となった。

このような背景のもと、本学では平成13年6月に本格的AO入試の導入に向けて、「アドミッションセンター設置構想」を策定し、平成14年度概算要求の重点項目としてセンター設置を文部科学省に要求した結果、平成14年4月1日に、本学にアドミッションセンター（以下「センター」という）が設置された。これに伴って、平成15年度入試では、従来の工学部推薦入試の定員枠を全て移行させて全面的・本格的にAO入試を実施した。募集人員は、AO入試Ⅰ（74名）、AO入試Ⅱ（36名）の計110名となった。

また、平成16年度入試から教育地域科学部の一部コースにおいてもAO入試を導入した。募集人員は、AO入試Ⅰ（10名）であった。その後もAO入試の実施に対する更なる検討を続け、平成19年度入試の募集人員は、教育地域科学部でAO入試Ⅰ（11名）、工学部でAO入試Ⅰ（76名）、AO入試Ⅱ（26名）の両学部合わせて計113名となった。平成20年度入試の募集人員は、教育地域科学部でAO入試Ⅰ（11名）、工学部でAO入試Ⅰ（66名）、AO入試Ⅱ（31名）の両学部合わせて計108名に、また平成21年度入試の募集人員は平成20年度入試と同様であった。平成22年度入試の募集人員は、教育地域科学部でAO入試Ⅰ（11名）、工学部でAO入試Ⅰ（56名）、AO入試Ⅱ（33名+若干名）の両学部合わせて計100名+若干名となった。

平成23年度以降の募集人員については次のとおりである。

平成23年度 教育地域科学部 AO入試Ⅰ（7名）、工学部 AO入試Ⅰ（56名）・AO入試Ⅱ（33名+若干名） 両学部合計 96名+若干名

平成24年度 教育地域科学部 AO入試Ⅰ（9名）、工学部 AO入試Ⅰ（47名）・AO入試Ⅱ（43名+若干名） 両学部合計 99名+若干名

平成25年度 教育地域科学部 AO入試Ⅰ（9名）、工学部 AO入試Ⅰ（40名）・AO入試Ⅱ（43名+若干名） 両学部合計 92名+若干名

平成26年度 教育地域科学部 AO入試Ⅰ（9名）、工学部 AO入試Ⅰ（23名+若干名）・AO入試Ⅱ（42名+若干名） 両学部合計 74名+若干名

※この間AO入試の募集人員について工学部では、AO入試Ⅰ、特に①を削減し、AO入

試Ⅱ①や一般選抜への振替を行っている。

(資料編：資料番号 1)

2 理念と目的

18 歳人口減少、高校生の学力低下、学習意欲の欠如など、最近の大学の入学試験を取り巻く環境は極めて厳しくなっている。また、将来への明確な目標や目的意識の欠如した大学生が増加している。このような中で、高校大学間の密接な連携によって“学生の「自ら学び、自ら考える力」を育てる”こと、並びに“学ぶことに積極的で意欲ある多様な学生を大学に集める”ことがセンターに課された最も重要な役割である。

センターでは、全学的な入試戦略の企画・立案を行うとともに、本学への入学志願者に対する総合的な広報活動等を行い、本学が求める入学者の確保に資することを目的とし、次の業務を行っている。

- (1) 入学者選抜方法の調査研究及び改善に関すること
- (2) 入学志願者の確保に関すること
- (3) 入試広報に関すること
- (4) 高大連携に関すること
- (5) センターの自己点検・評価に関すること
- (6) AO 入試の企画・立案及び学生募集要項の作成に関すること
- (7) その他前条の目的を達成するために必要な業務

3 組織と運営

平成 14 年 4 月のセンター設置時からセンター長は教授併任としてきたが、平成 18 年 4 月よりセンター長には理事（副学長）教育・学生担当を併任として充てることとなり、現在に至っている。センターの専任教員の定員としては、教授 1 名、准教授 1 名が配置されており、平成 17 年 4 月からは客員教授も 1 名配置されている。（平成 20 年 3 月の椿山教授の退任により、平成 20 年 4 月から平成 22 年 8 月まで教授ポストが欠員となった。平成 20 年 9 月から大久保准教授が教授に昇格したが、空席となった准教授ポストの補充が行われておらず欠員のままである。）

センターの事務については、学務部入試課において処理している。また、当面する諸問題等に関する話し合いを定期的に行うことを目的として、センター構成員と入試課とで連絡会（以下「AC 連絡会」という）を開催している。

センターの運営に関しては、センター長の下に「アドミッションセンター運営委員会」を置き、センターの組織・予算・その他運営に関する重要事項を審議している。また、入学を志望する者等の各種相談に対する助言等を行うため、センターに入試相談室を置いて

いる。毎年、夏に開催しているオープンキャンパスでは、入試相談室による入試相談コーナーを設けて、入学を志望する者や受験を控えた子どもを持つ保護者の相談に対応している。

(センター構成員)

(平成 22 年 4 月～8 月)

センター長	理事 (副学長) 教育・学生	寺岡 英男
専任教員	教 授	—
専任教員	准教授	大久保 貢
その他職員	客員教授	東光 正浩

(平成 22 年 9 月～平成 24 年 3 月)

センター長	理事 (副学長) 教育・学生	寺岡 英男
専任教員	教 授	大久保 貢
専任教員	准教授	—
その他職員	客員教授	東光 正浩

(平成 24 年度)

センター長	理事 (副学長) 教育・学生	寺岡 英男
専任教員	教 授	大久保 貢
専任教員	准教授	—
その他職員	客員教授	長谷川重弘

(アドミッションセンター運営委員会構成員)

(平成 22 年度)

委員長	理事 (副学長) 教育・学生	寺岡 英男
委 員	教授 (8 月までは准教授)	大久保 貢
委 員	教育地域科学部	山本 博文
〃	〃	佐分利 豊
〃	医学部	安田 年博
〃	〃	横田 義史
〃	工学部	都司 達夫
〃	〃	高木 丈夫
〃	入試課長	伊藤 文雄

(平成 23 年度)

委員長	理事（副学長）教育・学生	寺岡英男
委員	教授	大久保 貢
委員	教育地域科学部	佐分利 豊
〃	〃	坂田 登
〃	医学部	安田 年博
〃	〃	村松 郁延
〃	工学部	都司 達夫
〃	〃	高木 丈夫
〃	入試課長	吉川 ひとみ

(平成 24 年度)

委員長	理事（副学長）教育・学生	寺岡 英男
委員	教授	大久保 貢
委員	教育地域科学部	坂田 登
〃	〃	横井 正信
〃	医学部	安田 年博
〃	〃	老木 成稔
〃	工学部	都司 達夫
〃	〃	高木 丈夫
〃	入試課長	吉川 ひとみ

4 関係組織、関係委員会等

平成 19 年 9 月 15 日に高等教育推進センターが設置された。高等教育推進センターの目的は、「本学の教育理念と目標を達成するために、学部、大学院及び関連する各学内共同教育研究施設等と連携協力し、具体的な施策を企画・実施するとともに、中長期的な課題について提言し、教育及び修学支援の充実を図ること」とされており、この目的を達成するための業務として、「(1) 入学者選抜方法の充実に関すること。(2) 教育内容・方法の充実及び教育の評価に関すること。(3) 学生の修学支援の充実に関すること。(4) その他センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。」の 4 つが定められている。

高等教育推進センターには、3 つの部門（入試企画部門、FD・教育企画部門、学生支援部門）が置かれており、その中の入試企画部門の部門長を高等教育推進センター長の指名を受けてアドミッションセンター専任教員（大久保）が担当している。

入試企画部門においては、本学の教育目的を達成するための新しい入試の在り方等に係る基本的な課題に取り組み、次の5つの事項について、全学的な方策等の企画立案・提言を行うこととなっている。

- (1) 入学者選抜方法の研究
- (2) 入学者の成績追跡調査
- (3) 入試に係る調査・広報
- (4) 高大連携事業
- (5) その他センターが必要と認めた事項

関係する委員関係としては、全学入学試験委員会（委員（専任教員））、入学者選抜方法研究小委員会（委員（専任教員））、入試広報・高大連携小委員会（委員（専任教員））、AO入試小委員会（委員（専任教員））、アドミッションセンター運営委員会（委員（専任教員））、高等教育推進センター運営委員会（委員（専任教員））、高等教育推進センター入試企画部門（部門長（専任教員））、開放講義等連絡協議会（委員（専任教員））、がある。

また、工学部及び大学院工学研究科入試委員会には専任教員がオブザーバーとして参加している。

第2章 センターの入学者選抜に関する調査・研究

1 活動内容と成果

本学のアドミッション・ポリシーを根幹として、主に AO 入試の形態・内容・方法などを不断に検討し、選抜母体である各学部と十分連携・協調して実施し、その選抜方法と評価基準を改善する活動を行い入学者選抜のあり方について研究を行っている。そして、入学後の学生の学業成績の追跡調査やアンケート調査の実施とその分析を行い、その結果を学部にフィードバックするなど入学者選抜に関する実践的研究を行っている。また、AO 入試合格後のスクーリングや入学前教育も学部の協力を得て、センター主導で行っている。さらに、AO 入試に限らず、広い視野で入試一般についての動向を把握して、学内に適切な情報を提供している。

1-1 入学者選抜方法に関する情報の収集

入学者選抜方法に関する情報を収集するため、高校や受験産業を訪問し入学志願者に関する情報入手と解析を実施した。得られた調査結果を学部の入試委員会等において報告を行った。また他国立大学アドミッションセンター専任教員による情報交換会を主催し、また他大学主催の情報交換会に参加した。

1-1-1 高校訪問して入学志願者に関する情報入手

- (1) 平成 22 年度 県内外高校 75 校訪問して入学志願者に関する情報を入手した。
(県内 35 校、県外 40 校)
- (2) 平成 23 年度 県内外高校 81 校訪問して入学志願者に関する情報を入手した。
(県内 35 校、県外 46 校)
- (3) 平成 24 年度 県内外高校 91 校訪問して入学志願者に関する情報を入手した。
(県内 35 校、県外 56 校)

1-1-2 受験産業からの入学志願者に関する情報入手

大手予備校などの入試研究会などから情報を入手、分析し、その結果をアドミッションセンター連絡会で報告した。

1-1-3 入試関係の講演会

- ・第1回入試フォーラム『新しい視座から入試広報を考える』 (平成 22 年 7 月)
「学生募集・選抜・広報とアドミッションセンター」
筑波大学アドミッションセンター長 白川 友紀 氏

「在学生による入試広報活動の効果と課題」

広島大学入試センター准教授

永田 純一 氏

(資料編：資料番号 2)

・アドミッションセンター入試講演会 (平成 23 年 12 月)

「近年の入試動向と高校生の大学・学部選択理由」

(株) ベネッセ教育研究開発センター

竹内 正興 氏

1-1-4 アドミッションセンター専任教員交換会

(1) 国立大学アドミッションセンター専任教員情報交換会 (東京)

実施日：平成 22 年 9 月 3 日

実施場所：大学入試センター

参加者：大久保 貢 (福井大学)、倉元直樹、西郡大 (東北大学)、大谷 奨、
島田康行、本多正尚 (筑波大学)、吉村 宰、木村拓也、池田光壱 (長
崎大学)、佐藤喜一 (新潟大学)、林篤裕 (九州大学)、金澤悠介 (立
教大学)、大澤公一 (山口大学)、椎名久美子 (大学入試センター)、
安野史子 (国立教育政策研究所)

(資料編：資料番号 3)

(2) 国立大学アドミッションセンター専任教員情報交換会 (東京)

実施日：平成 22 年 11 月 12 日

実施場所：大学入試センター

参加者：大久保 貢 (福井大学)、倉元直樹 (東北大学)、本多正尚 (筑波大学)、
木村拓也 (長崎大学)、椎名久美子 (大学入試センター)

(資料編：資料番号 4)

(3) 国立大学アドミッションセンター専任教員情報交換会 (東京)

実施日：平成 23 年 8 月 29 日

実施場所：大学入試センター

参加者：大久保 貢 (福井大学)、倉元直樹 (東北大学)、木村拓也、池田光壱
(長崎大学)、内田照久、椎名久美子 (大学入試センター)、安野史子
(国立教育政策研究所)

(資料編：資料番号 5)

(4) 国立大学アドミッションセンター専任教員情報交換会（東京）

実施日：平成 23 年 10 月 28 日

実施場所：大学入試センター

参加者：大久保貢（福井大学）、大澤公一（山口大学）、倉元直樹（東北大学）、
並川努（新潟大学）、西郡大（佐賀大学）、大津起夫、椎名久美子（大学入
試センター）

オブザーバー参加：

菊池賢一（東邦大学）、内田照久（大学入試センター）、安野史子（国立教
育政策研究所／大学入試センター）

（資料編：資料番号 6）

(5) 国立大学アドミッションセンター専任教員情報交換会（東京）

実施日：平成 24 年 3 月 14 日

実施場所：大学入試センター

参加者：大久保貢（福井大学）、倉元直樹（東北大学）、佐藤喜一、濱口哲、並
川努（新潟大学）、西郡大（佐賀大学）、本多正尚（筑波大学）、内田照
久、鈴木則夫、椎名久美子（大学入試センター）

（資料編：資料番号 7）

(6) 国立大学アドミッションセンター専任教員情報交換会（東京）

実施日：平成 25 年 3 月 21 日

実施場所：大学入試センター

参加者：大久保貢（福井大学）、倉元直樹（東北大学）、大澤公一（山口大学）、
菊池賢一（東邦大学）、立脇洋介、安野史子、椎名久美子（大学入試セ
ンター）

（資料編：資料番号 8）

1-2 AO 入試選抜（日程・内容・方法など）の提案と実施

本学の AO 入試は平成 13 年度入試から工学部、平成 16 年度入試から教育地域科学部に
おいて導入された。AO 入試 I では工学部の 1 学科を除いて 2 回来学させ複数の角度から評
価する丁寧な入試を実施している。一方で、AO 入試 I ではセンター試験を課さないことか
ら高校関係者や学内教員から大学教育に耐えうる基礎学力は大丈夫かと疑問視されている。
そこで、AO 入試入学生の入学後の学業成績の追跡調査を行い、その結果を学部、学科、コ
ースへ報告している。今後、アドミッションポリシーに沿った入試を多角的に手堅く継続
して行うことが良質の学生を多く志願させるために必要である。AO 入試選抜の提案として
日程、情報公開および AO 入試の実施におけるセンターの関わりについて以下に示した。

(1) 実施日程、募集人数、募集タイプ

平成 23 年度 AO 入試 I の工学部の日程について、考えられる決定要因を種々検討した結果、第 1 次選考日と最終選考日の間隔が 4 週間あったのに対して、平成 24 年度 AO 入試 I では実施学部の理解と協力の下に 3 週間早めて実施した。なお、これらの変更により試験内容が簡略化されることはない。

平成 24 年度 AO 入試 I の臨床教育科学コース、障害児教育コースの募集人員について平成 23 年度 AO 入試 I までそれぞれ 2 名、3 名であったが、これまで入学した学生の追跡調査した結果、それぞれの募集区分で 1 名増とした。一方、工学部電気・電子工学科では学生の学業成績を追跡調査した結果、AO 入試 I ①（普通科・理数科）の学生募集を取り止め、新たに AO 入試 II ①の学生募集（募集人員 10 名）を行うこととし、AO 入試 II ②（工業系）の募集人員を 2 名減とした。そして AO 入試 I の第 1 次選考は模擬講義・小テストであったが、書類選考のみとした。

平成 25 年度 AO 入試 I ①の工学部知能システム工学科では学生の学業成績を追跡調査した結果、AO 入試 I ①（普通科・理数科）の学生募集（募集人員 7 名）を取り止めた。

(2) 選抜内容の情報公開

本学の AO 入試選抜の具体的内容は未だ公式には公開されず、全国的に見ても AO 入試の内容を完全公開している大学は極めて少数である。AO 入試の選抜内容を公開することは情報公開の観点からももちろん必要なことであるが、それにも増して AO 入試をより良い健全なものにするために回避できないという点で非常に重要である。

(3) アドミッションセンターの AO 入試への関わり

①「書類選考」

アドミッションセンターでは AO 入試の第 1 次選考において志願者全員の書類選考（志望理由書、自己推薦書、調査書）を実施した。センターの書類選考では採点のガイドラインを作成し実施した。また、教育地域科学部、工学部の AO 入試小委員会において、ガイドラインについて報告した。

1-3 入学者選抜方法別による学業成績の追跡調査

大学教育の急激な大衆化が進むとともに、大学入学志願者のバックグラウンドが極めて多様化している。このような状況に対応するため、従来の学力試験（一般選抜：前期日程、後期日程）だけでなく、AO 入試や推薦入試など多様な選抜基準を用いた入学者選抜試験が全国的に増加している。その結果、「大学教育に耐えうる基礎学力は大丈夫か」とか「期待したように積極的に大学生活を送っているか」など、多様な選抜基準による入試に対して疑問視する声が学内教員のみならず、高校教員などからも出ている。これに対しアドミッ

ションセンターではこの疑問視する声に応えるため、医学部、工学部の入学者について、入学後の学業成績の追跡調査を実施した。

(1)「医学部医学科 平成 15、16、17、18 年度入学生を対象とした入学後の学業成績の追跡調査」

平成 15 年度入学生：前期日程入試 55 名、後期日程入試 20 名、推薦入試 20 名、平成 16 年度入学生：前期日程入試 53 名、推薦入試 20 名、平成 17 年度入学生：前期日程入試 54 名、後期日程入試 20 名、推薦入試 20 名、平成 18 年度入学生：前期日程入試 55 名、後期日程入試 20 名、推薦入試 20 名の大学入試成績と入学後の学業成績の相関、入学者選抜方法別による入学後の学業成績、推薦入試の面接評価点と入学後の学業成績の相関、福井県内出身者とそれ以外の集団間の入学後の学業成績について追跡調査を行った。

医学科の平成 15、16、17、18 年度入学生の大学入試成績と入学後の学業成績の相関は、認められなかった。また、入学者選抜方法別による学業成績の有意な差は認められなかった。推薦入試の面接評価点と入学後の学業成績は年度ごとに若干のばらつきが認められるが、有意な差は認められなかった。

上記の結果を医学部入試委員会で発表した。(平成 22 年 6 月)

(2)「医学部看護学科 平成 17、18、19、20 年度入学生を対象とした入学後の学業成績の追跡調査」

平成 17 年度入学生：前期日程入試 29 名、後期日程入試 15 名、推薦入試 16 名、平成 18 年度入学生：前期日程入試 30 名、後期日程入試 15 名、推薦入試 15 名、平成 19 年度入学生：前期日程入試 30 名、後期日程入試 15 名、推薦入試 15 名、平成 20 年度入学生：前期日程入試 30 名、後期日程入試 15 名、推薦入試 15 名の大学入試センター試験と入学後の学業成績の相関、個別学力検査（小論文）と入学後の学業成績の相関、入学者選抜方法別による入学後の学業成績、入学者選抜方法別の面接評価点と入学後の学業成績の相関について追跡調査を行った。

大学入試センター試験総合点と入学後の学業成績の相関関係を調査した結果、前期日程入試および後期日程入試において相関は認められず、また個別試験（小論文）と入学後の学業成績の相関関係を調査した結果、前期日程入試および後期日程入試において相関は認められなかった。次に入学者選抜方法別による学業成績の追跡調査を行った結果、入学者選抜方法別による学業成績は年度ごとに若干のばらつきが認められるが、有意な差は認められなかった。募集区分毎による面接評価点と学業成績の相関も認められなかった。

(3)「工学部 平成 22 年度卒業論文着手判定不合格者（留年生）の原因分析」

平成 22 年度卒業論文着手判定不合格者（平成 19 年度入学生）の原因分析を入学者選抜方法別に実施した。その結果、前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率は 13～

14%で、一方、AO入試入学生は24%であることがわかった。そして、AO入試入学生の留年率を入試区分（普通科・理数科高校、工業科・総合学科高校）別に分析した結果、工業科・総合学科高校出身学生の留年率は普通科・理数科高校出身学生の半分であることがわかった。このAO入試入学生における普通科・理数科高校出身学生と工業科・総合学科高校出身学生の留年率の違いは何に起因しているのか、を明らかにする必要がある。今後、留年率を低減するために入学生の学業成績の追跡調査を継続的に実施し、入学者選抜方法の改善に資することが重要である。

（資料編：資料番号 9）

（4）「工学部 平成23年度入学生を対象とした留年の原因追及」

平成23年度卒業論文着手判定不合格者（平成20年度入学生）の原因分析を入学者選抜方法別に実施した。その結果、前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率は17～18%で、一方、AO入試入学生は24%であることがわかった。前年度と比較すると、前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率は増加傾向であるのに対し、AO入試入学生の留年率は前年度と同じであった。そして、AO入試入学生の留年率を入試区分（普通科・理数科高校、工業科・総合学科高校）別に分析した結果、普通科・理数科高校出身学生の留年率は工業科・総合学科高校出身学生の留年率の約3倍以上であることがわかった。前年度と比較すると、普通科・理数科高校出身学生の留年率は増加傾向にあるのに対し、工業科・総合学科出身学生の留年率は減少傾向であることがわかった。このAO入試入学生における普通科・理数科高校出身学生と工業科・総合学科高校出身学生の留年率の違いは何に起因しているのか、を明らかにする必要がある。今後、留年率を低減するために入学生の学業成績の追跡調査を継続的に実施し、入学者選抜方法の改善に資することが重要である。

（資料編：資料番号 10）

（5）「工学部 平成24年度入学生を対象とした留年の原因追及」

平成24年度卒業論文着手判定不合格者（平成21年度入学生）の原因分析を入学者選抜方法別に実施した。その結果、平成21年度入学生に関して前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率は19%で、一方、AO入試入学生は27%であることがわかった。前年度と比較すると、AO入試入学生、前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率は増加傾向である。そして、AO入試入学生の留年率を入試区分（普通科・理数科高校、工業科・総合学科高校）別に分析した結果、普通科・理数科高校出身学生の留年率と工業科・総合学科高校出身学生の留年率がほぼ同様であることがわかった。各学科の入学者選抜方法別の留年率について、ある学科ではすべて入学者選抜方法で約3割以上留年しているのに対し、すべての入学者選抜方法で約1割留年している学科もある。この留年率の違いは何に起因しているのかを明らかにする必要がある。今後、留年率を低減するために入学生の学

業成績の追跡調査を継続的に実施し、入学者選抜方法の改善に資することが重要である。

(資料編：資料番号 11)

1-4 入試の点検・評価

(1) 平成 22 年度入試 医学部医学科の志願倍率減少（実質倍率 前期日程 1.73、後期日程 1.36）の原因分析

平成 22 年度入試 医学部医学科で志願倍率が減少した原因を分析するため、県外の高校や大手予備校を訪問し聞き取り調査を行った結果、大手予備校の得点率の影響、情報誌に福井大学医学部医学科の偏差値が上がると掲載されたこと、後期日程の選抜方法、東海、関西からの志願者離れが考えられる。その対策として、東海、関西地区の高校を訪問して「医学科の売り」をアピールし、本学医学科に対する要望等を聞いて今後の入試広報の戦略にする、入学後の学業成績の追跡調査結果を踏まえて、募集区分や募集定員の見直し、選抜方法の改善などを検討する、高大連携活動も志願者確保に有効であることから、県外の高校との連携も検討する、本学医学科の学生がどのようにして志願を決めているかをいくつかの観点から分析するなどが必要である。

上記の結果を医学部入試委員会で発表した。(平成 22 年 6 月)

(2) 入学者選抜方法研究委員会（入選研）の有効利用

入学者選抜方法研究小委員会に関して多大な労力をかけた分析を行っても、そこから明らかになった問題点を吸い上げて改善に繋がる組織も存在しない等の課題が指摘されている。そこで、入試分析を担当しているメンバーが一同に会して、「座談会」を開催し、この会で得られた成果・問題点について、どのように共有化するのか等について話し合いを行った結果、医学部（看護学科）と工学部では調査分析した結果の報告会を開催することになった。

1-5 AO 入試合格者のスクーリング

平成 22 年度～平成 24 年度に AO 入試合格者のためのスクーリングを実施した。このスクーリングの目的は次の 2 つである。

- ① 入学前教育のねらいを徹底させることにより、その効果を高めたい。
- ② 自分が入学する学部、学科、コースの教育研究内容についてできるだけ具体的なイメージを抱かせることにより、入学までの 4 ヶ月間の勉学の励みにする。

(1) 「平成 23 年度 AO 入試合格者のためのスクーリング」

平成 22 年 11 月 27 日に AO 入試合格者のためのスクーリングを実施した。実施内容は教育地域科学部、工学部の両学部長の歓迎の挨拶、AO 入試入学生の学業成績と大学生活、教育地域科学部と工学部の AO 入試入学生の話、入学前教育の英語と数学の担当者からその

ねらいについて講演した。その後、合格したコース、学科へ移動し懇談を行った。参加した高校生は、熱心に聞き入っていたことが印象的であった。

(資料編：資料番号 12)

(2)「平成 24 年度 AO 入試合格者および推薦入試 I 合格者 (教育地域科学部) のためのスクーリング」

平成 23 年 10 月 29 日に工学部 AO 入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。実施内容は平成 23 年度 AO 入試合格者のためのスクーリングと同様な内容で実施した。また平成 23 年 11 月 26 日に教育地域科学部 AO 入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。そして、平成 23 年 12 月 24 日に教育地域科学部推薦入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。平成 23 年度から AO 入試 I については工学部と教育地域科学部が別日程で実施することになった。そして初めて推薦入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。終了後のアンケート結果、高校生の内奥の部分で啓発できたのではないかと考えている。

(資料編：資料番号 13)

(3)「平成 25 年度 AO 入試合格者および推薦入試 I (教育地域科学部) のためのスクーリング」

平成 24 年 10 月 27 日に工学部 AO 入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。実施内容は平成 24 年度 AO 入試合格者のためのスクーリングと同様な内容で実施した。また平成 24 年 12 月 1 日に教育地域科学部 AO 入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。そして、平成 24 年 12 月 22 日に教育地域科学部推薦入試 I 合格者のためのスクーリングを実施した。実施内容は平成 24 年度 AO 入試合格者のためのスクーリングと同様な内容で実施した。終了後のアンケート結果、工学部の合格者にとって入学後、微分、積分などの数学の重要性を感じ取った。

(資料編：資料番号 14)

(資料編：資料番号 15)

1-6 AO 入試合格者の入学前教育

AO 入試 I 合格者の入学前教育は、<入学準備プログラム>と<コース・学科の課題>の組み合わせで実施した。また、AO 入試 I 合格者に入学前教育のねらいを徹底させることにより、より教育効果を高めること及び入学するコース・学科についてより具体的なイメージを抱かせて勉学に励ませること等を目的としてスクーリングを実施した。

<入学準備プログラム>・・・アドミッションセンターが担当

英語 (必須) と数学又は国語の 2 科目について、3 回の課題テストを実施する。

英語については 1 回目の課題テストの結果により、以後の 2 回分については習熟度に応じた課題とする。(工学部で実施されている補習授業 (英語ステップアップ、数学ステップ

アップ) との繋がり観点からもより大きい教育効果が達成されると期待される。))

英語と数学については、問題作成と採点及び添削指導を行う (成績集計、レベル分け、教材の印刷製本・発送等を含む。)

国語については、ベネッセコーポレーション社の教材を使い、採点及び添削指導を行う。

<コース・学科の課題>・・・各学部のコース・学科が担当

各コース・学科の専門に関連する課題についてのレポートを課す。

《入学準備プログラムの進行スケジュール》

実施期間 : 2010. 11 ~ 2011. 3

対 象 : 平成 23 年度 AO 入試 I 合格者

	第 1 回		第 2 回		第 3 回	
課題テスト	(英語)	(数学・国語)	(英語)	(数学・国語)	(英語)	(数学・国語)
11/10(水)	教材発送					
11/26(金)	提出期限					
12/17(金)	答案返却	提出期限	教材発送			
1/07(金)		答案返却	提出期限			
1/28(金)			答案返却	提出期限	教材発送	
2/14(月)				答案返却	提出期限	
3/04(金)					答案返却	提出期限
3/16(水)						答案返却

実施科目 : 英語及び数学または国語の 2 科目

(資料編:資料番号 16)

1-7 新入生のアンケート調査

新入生アンケートは入学者の意識や資質の分析を目的に実施した。新入生へのアンケート調査を継続して実施し、経年変化をも含めて検討する。新入生がどのような動機や希望を持って福井大学に入学してきたか、入学後の勉学に対する抱負などについてのデータは、入学者選抜方法の改善 (選抜方法や入試科目) だけでなく、今後の大学教育の在り方を検討するデータとしても重要である。本学ではこれまで一般選抜 (前期日程、後期日程) や推薦入試、さらに平成 13 年度からアドミッション・オフィス (AO) 入試を導入するなど多様な形態の入学者選抜を実施し、優秀かつ多様な能力を持った人材に門戸を開くように努めている。そこで、これらの選抜方法を正しく評価するため、これらの入試方法により入学してきた新入生の資質を多面的に分析して、今後の入学者選抜方法の在り方を検討する資料としても重要である。

(1) 平成 22 年度新入生アンケート

教育地域科学部では、現在の専門を学んでいることに誇りに思うかの設問に前期日程、後期日程入試入学生では約 6 割の学生が誇りを持っているのに対し、推薦入試入学生では約 8 割、AO 入試入学生では約 9 割の学生が誇りを持って学んでいることが分かった。次に授業で分からない時、どうしているのかの設問に入学選抜方法に関係なく約 4 割の学生が「友達に聞いている」、約 3 割の学生が「自分で調べている」、約 1 割の学生が「大学の先生に聞いている」、約 1 割が「そのままにしている」であった。

工学部では、現在の専門を学んでいることに誇りに思うかの設問に教育地域科学部と同様に前期日程、後期日程入試入学生では約 6 割の学生が誇りを持っていることが分かった。一方、AO 入試入学生では約 7 割の学生が誇りを持って学んでいること明らかになった。次に授業で分からない時、どうしているのかの設問に入学選抜方法に関係なく約 5 割の学生が「友達に聞いている」、約 4 割の学生が「自分で調べている」、約 1 割の学生が「大学の先生に聞いている」、約 1 割が「そのままにしている」であった。

平成 22 年度新入生アンケートではこれまでの新入生アンケートに高校時代の履修状況に関する設問を付け加えて実施した。高校での科目履修状況を調査し、入学後の初年次成績を追跡調査した。その結果、工業科・総合学科出身学生の数学と物理に履修不足が認められた。また工業科・総合学科出身学生の入学後の初年次成績（専門基礎科目）は普通科・理数科出身学生の成績と比較して有意な差が認められた。高校時代の履修不足による学力の補完について高大双方で対策を講ずることが必要と考える。

(資料編：資料番号 17)

(2) 平成 23 年度新入生アンケート

教育地域科学部では、アドミッション・ポリシーを知っていたかの設問に前期日程、後期日程入試入学生では 8～9 割の学生が知らなかったのに対し、AO 入試入学生では全員が知っていて、推薦入試入学生では約 4 割が知っていることが分かった。満足度については、前期日程、後期日程入試入学生では約 5 割の学生が満足しているのに対し、AO 入試入学生では全員満足している。一方、推薦入試 I 入学生では半数、推薦入試 II 入学生では 8 割の学生が満足していることが分かった。以上のことから AO 入試というのは、学生とのマッチングの点で成功していることがわかる。

工学部では、前期日程、後期日程入試入学生で約 9 割の学生がアドミッション・ポリシーを知らなかった。一方、AO 入試入学生では約 7 割の学生が知っていることが分かった。満足度に関しては、前期日程、後期日程入試入学生の約 3～4 割の

学生が満足しているのに対し、AO入試入学生では約6割の学生が満足していることが明らかになった。

またアドミッション・ポリシーの情報源としては教育地域科学部と工学部とも大学公開資料、オープンキャンパス、ホームページの順であることが分かった。

(資料編：資料番号 18)

(3) 平成24年度新入生アンケート

教育地域科学部で進学先を選ぶ段階で実際に役立ったことがあるのは、すべての入学者選抜方法ではオープンキャンパスであった。入学者の一番多い前期日程入試入学生ではオープンキャンパスが約3割、大学公開資料、ホームページの順で役立ったことが分かった。次に授業で分からない時、どうしているのかの設問に全体的に友達に聞いているが約5割、自分で調べているが約3割、そのままにしているが約1.5割、大学の先生に聞くが0.5割であった。

工学部では進学先を選ぶ段階で役立ったのは、前期日程、後期日程入試入学生ではホームページ、高校の進路指導、オープンキャンパスの順であった。一方、AO入試入学生ではオープンキャンパス、高校の進路指導、大学公開資料であった。このように入学者選抜方法別により進路選択時に役立つものは異なることが分かった。授業で分からない時、どうしているかの設問では教育地域科学部と同様、「友人に聞く」、「自分で調べる」、「そのままにしておく」の順であった。

(資料編：資料番号 19)

2 活動に関する課題と改善の方策

2-1 今後の予定

- (1) AO入試の趣旨を生かし全国的な動向を勘案しながら日程の見直しは必要と考える。AO入試の日程、選抜方法については高校教育と大学教育の接続の観点から高校教員と大学教員との緊密なネットワークを構築して高大双方が信頼できる選抜方法などについて検討を行う予定である。
- (2) AO入試の選抜方法の情報公開はアドミッションセンターが主導して他大学の例を参考にしながら学部・コース・学科と協議していく予定である。
- (3) 各学部の学業成績の追跡調査については入学者選抜方法別に実施しているが、今後、卒業後の進路について就職支援室と連携しながら実施する予定である。
- (4) 数学と英語の入学前教育に関して、今後もアドミッションセンターが出題から添削まで行う予定である。

- (5) アドミッションセンター専任教員情報交換会で得られた情報を各学部へフィードバックして、本学の入試の改善に資する予定である。

2-2 改善を要する点

- (1) AO入試の選抜内容は各コース、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーに基づいて検討されるべきである。そして公開内容について説得性のある一定のガイドラインを検討する必要がある。アドミッションセンターではこの重要な課題に対する貢献は今まで充分でなかった。今後、学部コース・学科と連携して解決が必要である。
- (2) これまでアドミッションセンターからの一方的に報告している学業成績の追跡調査結果について学部コース・学科の意見・感想を調査する。その結果に基づいて、コース・学科に役立つよう追跡調査の改善を図る必要がある。また、工学部の留年問題に関する追跡調査を行い、その原因を追及する必要がある。
- (3) 入学前教育を実施しているが、提出された答案をみると白紙ややる気のないものが見受けられる。これらを防止する観点からアドミッションセンターと高校側が連携してより効果的な方策を考える必要がある。
- (4) アドミッション・ポリシーに適応した个性的かつ継続性のある問題作成への支援が必要である。

第3章 センターの入試広報活動への関わり

1 広報活動の内容と成果

平成14年度にアドミッションセンターが設置され、本学のアドミッションセンター独自の入試広報活動が開始された。それ以来、現在まで県内の高校はもちろん、多くの県外の高校にも出向き、広報活動を行ってきた。特に愛知・三重・岐阜等の東海地区、滋賀・京都等の関西地区、石川・富山に積極的に高校訪問を拡大していき、現在では定着してきている。また、静岡・大阪等にも出向き高校訪問の地域を広げつつある。国立大から県外の高校訪問をすることにより、高校現場からは驚きの様子が見受けられ本学の広報活動の熱心さが理解されるようになった。

また、アドミッションセンターでは、平成19年度以降はセンター専任教授1名と客員教授1名が主に広報活動に当たっており、各地域で開催される進学説明会に積極的に参加し、福井大学についての教育方針・教育内容・教育実績等についての理解が高校教員・高校生・保護者等に確実に広まっている。以下「高校訪問による大学PR・入試説明」「高校・地域における大学説明会」、「本学における入試相談」における広報活動の現状について報告する。

1-1 高校訪問による大学PR・入試説明

昨今の高校現場においては、日々数多くの大学・短期大学・専門学校等の関係者が、進学担当者に面会を求めて訪れている。高校の進学担当者が代わる代わるその対応に当たっているが、その担当者も授業や校務の合間に対応し、とても多忙を極めている。

従って、アポイントを取った時間に面会ができないことがあったり、こちらも交通事情等で約束の時間に訪問できないことがあったりするなど、事前のアポイントをとることについてはいろいろと不都合なことが生じていた。

そこで、平成23年度から、アポイントなしで本学受験の高い可能性のある県外の高校を中心に高校訪問を実施している。この年は、アポイントなしの最初の試みなのでアドミッションセンターの教員2人でレンタカーを利用して訪問した。時期は10月下旬からで一般入試学生募集要項を10部程度持参して学校訪問をし、本学のPR・入試説明を行った。主に持参したものは他に「福井大学案内」、「入学志願者資料集」「工学部・教育地域科学部学科案内パンフ」等である。それらを基に広報活動を実施した。

高校側の諸事情を考慮にいれ、訪問時間帯を午前中であれば10時から12時までの時間帯、午後であれば1時から3時までの時間帯で訪問するように計画した。しかも、高校現場での説明時間は10分から15分になるように計画をたてた。しかし、高校側からの質問等で説明時間が伸びるのは仕方がないが、一方的に大学の説明で時間が伸びると対応の高校側関係者の業務に支障をきたし、逆に不快感を持たれたりし、逆効果になるので十分説

明時間については配慮して実施した。

高校側は国立大学が直接募集要項を持参し、しかも県外の高校に広報活動を行っていることに對し、本学の熱心さを十分に理解してくれて、本学に對し好印象をもとらすことができた。しかし、アドミッションセンター専任教員2名とも一定期間、同時に本学不在という事態になるので、日頃の業務に支障をきたすという弊害も生じた。そこで、平成24年度は、専任教員が一人ひとり別々に訪問することになった。さらに、レンタカーは慣れない車を運転することになるので、安全面を考慮に入れてマイカーで訪問を実施した。

平成24年度に高校訪問をして感じたことは、就職率が国立大学の中で5年連続1位であったり、「福井大学はなぜ就職に強いのか」という本が平成24年3月に出版したりして高校現場に本学に對する信頼がより強くなったということである。訪問中、高校側からよく聞かされたことは、「本学希望の生徒は増えているが平成25年度入試については本学工学部が昨年度に比べ難化しているというのを受験業者から聞かされている。」という声を異口同音に聞かされた。このように、何か大学が特徴を持っていれば高校側は強い信頼感と関心を持つということが実感させられた。また、初年度教育に力を入れていることや、研究等における大学の教育力も広報活動を展開するうえで好材料であった。特に、工学部においては、長きに渡って広報活動を実施していることが徐々に実を結んでいるようだ。

今後は、工学部はなお一層の広報活動は当然であるが、教育地域科学部・医学部も工学部同様PR・広報活動に今まで以上に努力を注ぎたいと思っている。しかし、いくら広報活動を行うにしても大学の教育力がしっかりしていなければPRする材料がないということになるので、益々大学教育の充実を祈念するとともに広報活動のより効果的な工夫を模索していきたい。

また、福井大学では、工学部のAO入試において専門学科(工業高校等)の募集人員枠を設けている。現在、募集人員はAO入試I(大学入試センター試験を課さない)では15名AO入試II(大学入試センター試験を課す)では10名の計25名の募集人員がある。AO入試で入学してくる工業高校出身の学生は、ほとんどが明確な目的意識を持っており充実した学生生活を送り、成績も伸びているとの結果が追跡調査等から出ている。そこで、県内・県外ともに工業高校受験者の獲得にも力を注いでいる。特に、国立大学に進学実績のある工業高校を中心に訪問し、北陸・近畿・中京地区はもとより長野県・静岡県等の工業高校も訪問している。ここ数年は県内よりも県外の工業高校からの合格者を多く出している。よって、県内の多くの工業高校にも出願するように、1学期の保護者会までにAO入試学生募集要項を直接本学から持参している。

アポイントなしの学校訪問

平成23年度から、本学への受験実績があり、しかも本学の受験が増える可能性のある県外の高校数校に、10月後半から12月中旬にかけて募集要項を持参してアポイントなしで学校訪問している。

平成 23・24 年度訪問実施高校

石川県：大聖寺高校、小松明峰高校、金沢西高校、桜丘高校、星稜高校、錦丘高校
金沢高校、小松高校

富山県：富山東高校、魚津高校、桜井高校、南砺総合福野高校、高岡南高校、大門高校
呉羽高校

京都府：西舞鶴高校、宮津高校、網野高校、福知山高校、福知山成美高校、京都共栄学園
高校、鳥羽高校、成章高校、山城高校、洛北高校、東山高校

滋賀県：東大津高校、守山高校、水口東高校、八日市高校、虎姫高校、米原高校

岐阜県：各務原西高校、長良高校、岐山高校、大垣南高校、加納高校

三重県：津東高校、津西高校、桑名高校、川越高校、四日市南高校

愛知県：新川高校、五条高校、一宮南高校、小牧南高校、高蔵寺高校、旭野高校

知立東高校、豊田南高校、豊田北高校、岡崎西高校、安城東高校、刈谷北高校

大阪府(平成 23 年度のみ)：泉陽高校、生野高校、高津高校、豊中高校、千里高校

大阪府の高校は効果があまりないので、平成 24 年度は見送り。

1-2 高校・地域における大学説明会

(1) 高校における大学進学説明会

説明会は高校独自で開催される場合と進学情報専門業者が仲介して開催される場合がある。また、毎年主に開催される時期は5月から7月にかけて開催される場合が多い。その場合は3年生中心であるが、1・2年対象の学校もある。低学年から実施している高校は、早くから大学進学の意欲を引出し、学習意欲を高め充実した高校生活を送るのを目的としている。9月から12月にかけても開催される場合があるが、その数はわずかである。1月から3月にかけては1・2年生対象に開催される。

高校での説明会は、時間は主に50分程度であるが、大学進学を希望する生徒が対象だから説明会を聞く高校生の態度はまさに真剣である。

平成 22 年度

4月28日 足羽高校

5月8日 北陸高校、12日 福井商業高校、15日 丹南高校、22日 丹生高校、
27日 岐阜県立武義高校

6月5日 愛知県立春日井東高校、11日 鯖江高校、21日 岐阜県立大垣南高校

7月7日 京都府立京都すばる高校

10月8日 滋賀県立河瀬高校、28日 岐阜県立大垣西高校

11月4日 丹生高校・科学技術高校

2月4日 滋賀県立安曇川高校、9日 京都府立西乙訓高校、
10日 愛知県立美和高校、17日 京都府立菱創高校

平成 23 年度

- 5 月 11 日 福井商業高校、 14 日 科学技術高校、 21 日 丹生高校
6 月 4 日 愛知県立春日井東高校、 7 日 京都府立工業高校、 10 日 鯖江高校、
11 日 三国高校、 18 日 私立金沢高校、 20 日 岐阜県立大垣南高校
7 月 7 日 京都府立京都すばる高校、 22 日 石川県立鶴来高校、
25 日 静岡県立浜松工業高校
8 月 22 日 静岡県立吉原高校
10 月 20 日 滋賀県私立光泉高校
11 月 2 日 科学技術高校、 7 日 丹生高校、 10 日 私立名古屋高校
12 月 10 日 静岡県立吉原工業高校、 16 日 私立愛知啓成高校、 22 日 啓新高校
2 月 4 日 滋賀県立安曇川高校、 9 日 京都府立西乙訓高校、
17 日 京都府立城南菱創高校、
23 日 静岡県立沼津工業高校・静岡科学技術高校、
24 日 愛知県立尾北高校・日進西高校
3 月 8 日 兵庫県立姫路工業高校・姫路南高校、 15 日 足羽高校、
22 日 武生東高校

平成 24 年度

- 5 月 7 日 愛知県立大府高校、 12 日 科学技術高校、 16 日 滋賀県立河瀬高校
19 日 石川県立鶴来高校、 23 日 福井商業高校
6 月 8 日 京都府立工業高校・鯖江高校、 9 日 愛知県立春日井東高校、
14 日 京都府立網野高校、 18 日 武生工業高校、
21 日 岐阜県立大垣南高校
22 日 滋賀県立河瀬高校、 30 日 私立岡崎城西高校
7 月 6 日 京都府立京都すばる高校、 12 日 愛知県立江南高校、
13 日 京都府立北嵯峨高校・徳島県立徳島科学技術高校
11 月 1 日 京都府立西舞鶴高校、 5 日 福井県立丹生高校、 13 日 私立名古屋高校
21 日 岐阜県立加茂高校
12 月 6 日 富山県立氷見高校、 21 日 啓新高校
2 月 14 日 羽水高校

(2) 地域における大学進学説明会

県内における説明会はほとんど参加している。福井市内の会場で行う場合、時には大変盛況で本学からは数名のスタッフが対応し、とても忙しいのが現状である。やはり、「福井

大学に進学したい。あるいは関心がある。」という地元の高校生が多いのは力強い限りである。しかし、県内でも他の地域ではそれほど説明会に参加する生徒は多くはない。それは、業者の実施する時期・時間帯に問題があるのかも知れない。しかし、説明を聞く生徒の顔は真剣である。

県外に関しては、北陸地区、中京地区、関西地区等に参加している。ただし、各地域の前年度の参加状況を睨みながら次年度の説明会への参加を決めている。県外の生徒も県内の生徒同様、真剣そのものである。福井大学の教育内容は当然のアピールポイントであるが、本学がここ数年就職率全国1位ということは、県外の生徒・保護者も知っているのが多く、このことは本学の説明を行ううえでの好材料の一つとなっている。

平成 22 年度

4月21日 名古屋吹上ホール

6月3日 福井県民ホール、 8日 福井フェニックスプラザ、 16日 福井フェニックスプラザ、 24日 武生パレスホテル、 28日 多田記念大野有終会館

7月9日 名古屋工業大学、 10日 名古屋国際会議場、16日 ニューサンピア敦賀、17日 大阪城ホール、 24日 大阪国際会議場

8月8日 福井新聞社

9月10日 小浜市中央公民館、 16日 福井フェニックスプラザ
24日 福井フェニックスプラザ、 26日 河合塾千種校

10月2日 大阪城ホール、 11日 信州大学、 16日 新宿エルスター
17日 河合塾麴町校、 23日 河合塾大阪校

11月12日 織協ビル、 13日 秀英予備校名古屋校、 23日 河合塾大阪校
27日 河合塾名古屋校

3月14日 福井フェニックスプラザ

平成 23 年度

4月14日 福井県民ホール、 15日 吹上ホール

5月23日 大阪マーチャンダイズマート

6月4日 吹上ホール、 7日 福井フェニックスプラザ、 13日 高岡文化ホール、
15日 金沢もてなしドーム、 16日 福井フェニックスプラザ、
17日 名古屋大学、 18日 愛知県体育館、 27日 大野商工会議所

7月3日 グランキューブ大阪、 9日 池袋サンシャインシティ、
12日 インテックス大阪、 15日 織協ビル、 16日 名古屋国際会議場、
16日 敦賀あいあいプラザ、 24日 吹上ホール、
31日 パシフィコ横浜

9月12日 ウイング・ウイング高岡、 13日 オークスカナルパークホテル富山、

14日 もてなしドーム、 15日 福井フェニックスプラザ、
15日 安城市民会館、 16日 武生パレスホテル、
19日 本多の森ホール(金沢市)、 22日 福井フェニックスプラザ、
25日 河合塾千種校・福井市文化会館、 28日 ガレリア亀岡
10月2日 信州大学、 3日 大阪国際交流センター、
7日 一宮スポーツセンター、 7日 吹上ホール、
14日 岐阜市民会館、 16日 河合塾麴町校、
22日 河合塾医進館、 30日 駿台予備校市谷校
11月12日 メルパルク京都

平成24年度

4月19日 吹上ホール
5月11日 織協ビル、 13日 名古屋国際会議場
6月5日 福井フェニックスプラザ、 13日 金沢駅もてなしドーム、
14日 福井フェニックスプラザ、 15日 多田記念大野有終会館、
15日 オークスカナルパークホテル富山、
17日 愛知大学名古屋キャンパス、
18日 サン・サンホーム小浜
7月7日 ポートメッセ名古屋、 8日 名古屋国際会議場、
16日 池袋サンシャインシティ、 17日 織協ビル、
21日 大阪国際会議場、 22日 吹上ホール、 29日 パシフィコ横浜
8月26日 グランキューブ大阪
9月6日 メルパルク京都、 8日 岐阜市文化センター、
12日 金沢駅もてなしドーム、 13日 福井フェニックスプラザ、
14日 ANAクラウンプラザホテル富山、
20日 福井フェニックスプラザ、 21日 武生パレスホテル、
22日 名古屋国際会議場、 24日 福井フェニックスプラザ、
25日 金沢駅もてなしドーム、 30日 河合塾千種校
10月2日 金沢駅もてなしドーム、 5日 吹上ホール、 8日 信州大学
12日 岐阜市民会館、 14日 河合塾麴町校、
20日 河合塾、 18号館名駅校、 28日 駿台予備校市谷校、
28日 駿台予備校大阪南校、
30日 大阪国際交流センター
11月7日 みやこめっせ、 11日 駿台予備校京都駅前校、
15日 敦賀プラザ萬象、 26日 武生パレスホテル
12月1日 河合塾新名古屋校

(3) 他大学との連携による大学進学説明会

① 東海・北陸・信州地区国立 12 大学入試広報連絡会

他大学との連携による大学進学説明会として東海・北陸・信州地区国立 12 大学入試広報連絡会（福井大学、金沢大学、富山大学、信州大学、静岡大学、浜松医科大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、名古屋工業大学、愛知教育大学、岐阜大学、三重大学）を設立して、名古屋、松本等で進学説明会を実施している。

(資料編：資料番号 20)

(資料編：資料番号 21)

(資料編：資料番号 22)

(資料編：資料番号 23)

(資料編：資料番号 24)

(資料編：資料番号 25)

② 北陸地区国公立大学 4 大学入試広報連絡会

北陸地区国公立大学 4 大学入試広報連絡会（福井大学、金沢大学、富山大学、石川県立大学）を設立して、名古屋、京都で進学説明会を実施している。

(資料編：資料番号 26)

(資料編：資料番号 27)

(資料編：資料番号 28)

1-2 大学における入試相談

アドミッションセンターには高校生・保護者・高校の進路担当者等が問い合わせの手段として、直接電話をかけてきたり、メールをしてきたりしているが、それらすべてにアドミッションセンター職員・入試課職員が真摯に対応している。

また、高校の進路担当者が直接本学を訪問し、本学の教育内容・就職状況等を尋ねたり、入試の概要について質問したりするが、その際もアドミッションセンター職員がすべて対応している。さらに、高校の PTA・保護者会が団体で大学を訪問し、大学構内の施設・設備を視察する場合があるが、その対応にもあたっている。いずれにしても、福井大学を理解してもらえる絶好の機会ととらえ丁寧に対応している。

さらに、従来から、オープンキャンパスでは「入試相談コーナー」を設けている。オープンキャンパスでは、ほとんどの高校生や保護者は、希望する学部・学科の施設・設備を見学したり、説明を聞いたりするために参加しているので、「入試相談コーナー」への参加は例年少ない。しかし、このコーナーへの来訪者は福井大学への入学を熱望しているために、いろいろなことを尋ねてくるので、じっくりと入試相談ができるのである。

2 広報活動に関する課題と改善の方策

2-1 高校訪問による大学PR・入試説明

平成 23 年度から、アポイントなしで本学受験の高い可能性のある県外の高校を中心に高校訪問を実施している。時期は 10 月下旬からで一般入試学生募集要項を 10 部程度持参して学校訪問をし、本学の PR・入試説明等の広報活動を実施している。高校側は国立大学が直接募集要項を持参し、しかも県外の高校に広報活動を行っていることに対し、本学の熱心さを十分に理解してくれて、本学に対し好印象をもとらすことができている。しかし、現状としては、各県すべての高校を訪問するのではなく本学への出願数が比較的多い高校や国公立志向の高い高校等を考慮に入れて訪問しているが、今後どの県あたりまで訪問を広げるのか、各県あたり何校訪問するのが妥当か、さらにどの基準で訪問する学校を決めていくのかが今後の課題である。さらに、訪問する時期や時間、さらに説明する時間や内容等についてどのような場合が一番効果的になるのかも、今後の検討課題である。

2-2 高校・地域における大学説明会

福井フェニックスプラザ等の会場で実施される福井市内での業者主催の大学説明会には、多くの生徒・保護者が本学についての説明を聞きにくるので、とても多忙であるが、多忙である時間帯は特に 17 時 30 分頃から 18 時 30 分ごろまでである。

また、7 月中旬に実施される説明会は福井市内での会場でも参加者は少ない。これは説明会の開始時間が 14 時頃で早いのと、期末考査終了後でもあり学校行事等の関係で参加しにくい。高校生が説明会に参加しやすい時期と時間を業者とともに検討する時期だと思う。県内の他地区ももう少し参加者が多く来る手だてを考える必要もあるだろう。業者と高校生が一人でも多く参加する方法を話し合うことも必要であろう。同時に、有名進学校の生徒の参加が少ないのも今後の課題である。県外の説明会においてもどの地域の説明会にどの時期に参加するのが効果的か検証し検討する時期に来たと思う。

高校での大学説明会はとても効果がある。説明を聞く生徒・教員とも真剣でとても充実した説明会になる。これも、高校側からの要望を待つだけでなく、積極的に出かけていく手立てを考えなければならないと思う。

2-3 本学における入試相談

オープンキャンパスの参加は、3 年生が多いのは当然であるが年々 1・2 年生の参加が増えてきている。これは、とても良い傾向で本学に早くから興味・関心を持ってもらい、それが本学への志望動機に繋がるからである。このことは、高校の進路指導が 1 年生のときからきちんとなされていたり、アドミッションセンターが高校訪問において 1・2 年生のときから参加させてほしいとお願いしたりしているからだと思われる。

なお、オープンキャンパスでは「入試相談コーナー」を設けて、高校生・保護者・高校教員等の相談に応じている。

第4章 センターの高大連携に関する実践的活動

1 活動内容と成果

高校と大学との教育における円滑な接続を図る観点から入試、教育、研究の広報を主眼とした高大連携活動を積極的に実施している。これまでに科学研究費補助金の採択により平成22年度は1件、平成23年度は1件、平成24年度は1件の高大連携探究プロジェクトを実践した。このように大学説明会や出前講義などのような情報伝達型の高大連携でなく、高校生の資質をいかにして伸ばしていくかという観点からの教育支援を視野に入れた取組みとして高大連携を行っている。高大連携活動によって出来るだけ大学での教育内容や教育環境の正確な情報を伝えることにより、大学教育について確かなイメージを抱かせるとともに入学後のミスマッチを防止する。今後、高校側とのパイプをより強固なものとし、単発で一過性のものではなく、より組織的で広範な取組みにしていきたいと考える。

1-1 高大連携課題研究の実践

・平成22年度

- ・・・科研費 基盤研究[C] (期間：H21～H23)
「学びの基盤を育てる高大接続教育を創造する課題探求実践の推進」
(研究代表者 大久保 貢) [研究経費 4,200 千円]により実施した。

課題テーマ：「プラスチック成形加工の基礎を学ぶ」

連携高校：愛知県立一宮南高校、岐阜県立海津明誠高校、静岡県立吉原工業高校、敦賀気比高校

(資料編：資料番号 29)

・平成23年度

- ・・・科研費 基盤研究[C] (期間：H21～H23)
「学びの基盤を育てる高大接続教育を創造する課題探求実践の推進」
(研究代表者 大久保 貢) [研究経費 4,200 千円]により実施した。

課題テーマ：「バイオエタノールの生成」

連携高校：敦賀気比高校

科研費の最終年度により総括として、高大連携シンポジウム「高大連携への期待」を開催した。

(資料編：資料番号 30)

・平成24年度

- ・・・科研費 基盤研究[C] (期間：H24～H26)
「普通科高校と大学の連携による高大接続教育を創造する課題研究の実践」(研究代表者 大久保 貢) [研究経費：3,900 千円]により実施した。
課題テーマ：「コンピュータを使った音声・音楽情報処理」

連携高校：福井県立金津高校、岐阜県立大垣南高校、京都府立工業高校、敦賀気比高校

(資料編：資料番号 31)

これまでアドミッションセンターが中心となって平成 15 年度から 21 年度まで 7 年連続で文部科学省の高大連携事業：サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業の採択（14 件 採択）により高校生に「工学基礎学力」である問題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などの育成に貢献してきた。平成 22 年度から平成 24 年度までは科研費の採択により引き続き高大連携課題研究の実践を行った。これらの事業に参加した生徒が大学に入学後の活動状況を追跡調査した結果、目的意識を持ちしかも意欲的に勉学に励んでいることが判明している。

図 1. に高大連携課題研究に参加した高校生の感想を示した。これらの図から参加した生徒はこの事業により問題解決能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力などの重要性を認識した事が分った。また、この事業により高校までの学び（受け身型の学習）と大学における学び（自分で問題を探し解決する学び）の違い感じ取っていることが明らかになった。そして参加した生徒の中から明確な目的意識を持った本学 AO 入試志願者が現れ合格し入学している。

私の班は同じ学校の人ばかりだったので、困ることはあまりありませんでしたが、一緒に作業していくうえで、また仲良くなったと思います。また、このような企画があったら参加したいです。
TAの方がわかりやすく教えてくれ、かつ優しい人だったので3日間過ごしやすかったです。ただ、時間が足りず、考察や問題解決が十分にできず残念でした。私は文系の学部を目指しているので、今回の講義や実験内容はあまり慣れないものでしたが、プレゼンテーションで人に伝える力、文章力の大切さがよく分かりました。大学にある器具はどれも普段目にすることがなかったし、これからも、もうないと思うので3日間は本当に貴重な時間となりました。大学に進学するのが楽しみになったし、知ることの楽しさも分かりました。ありがとうございました。
少しだが大学でどのようなことをするのが分かった。
今回の高大連携授業では、自分の想像以上にプラスチックを知ることができました。他校の生徒さんやTAの方と仲良くなれたし、パワーポイントを使用することで言葉を選んだり表現力に悩まされましたが、全ていい刺激になりました。このような機会があれば、また参加したいと思います。3週に渡って貴重な体験ができました。ありがとうございました。
実際におこなった実験をまとめ発表することが今まであまりなかったので、とてもいい経験になりました。高校ではできない実験で楽しかったです。
発表が最後の最後まで完成できなかったのが心残りだった。もう少し力を入れていれば、もっときれいなプレゼンができたのではないかと思うと少し気持ちが落ち込むが、実験は楽しく有意義な時間を過ごせたんじゃないかと思った。何はともあれ、いろんなことが学べたいい3日間でした。
今回、身近なプラスチックについて多くのことを学び、たくさんを知ることができてよかったです。

図 1. 高大連携課題研究に参加した高校生の感想

1-2 工学部体験入学

(ねらい)

工学部体験入学は、県内理数科（3校）からの依頼により理数科の進行を目的に平成13年度から実施した活動である。その後、学内担当者の意見や参加者のアンケートや志願状況などを踏まえた結果、平成19年度から理数科（3校）だけでなく県内高校を対象に実施している。この活動のねらいはオープンキャンパスや出前講義などの一過性の高大連携活動でなく、大学と高校が連携して2日間継続の大学の専門教育を体験させることにより、高校生の学習意欲を喚起し、問題解決能力、論理的思考力などを育成することである。工学部全8学科が対応している。

アドミッションセンターでは、県内高校に対して参加の募集を行い、各学科への配属、そして、体験入学終了後のアンケート調査結果の集計まで協力している。

平成22年度の参加高校は以下のとおりである。

金津高校、鯖江高校、丸岡高校、大野高校、武生東高校、敦賀工業高校、敦賀気比高校、丹生高校。

学科	感想
機械工学科	高校の勉強とは一味違う勉学を基本とした発展的、専門的な授業を受けることができたので、大学でどういった授業をするのかについてよく分かった。むずかしかったけど自分なりに考え、今後の考えの参考になることができると思った。大変だったけど、とても有意義な時間を過ごすことができた。また機会があれば参加したいと思う。
	今回の体験入学をふまえて、この大学が何について学習し、何について研究をしているのかが分かりました。ふだん体験することができない体験をすることができたので、貴重な時間だと思いました。これらの体験や講義をふまえたうえで、いっそう勉学に励みたい。
電気・電子工学科	今回、福井大学工学部の体験入学に参加して、高校の数学や理科がとても基礎になっているということがわかりました。また、体験入学での先生たちがとても優しく親切に教えてもらえたので理解しやすかったです。とても、とても楽しかったです。
	講義を受けて、高校で習うこととは違うことを学ぶことができた。少し分からなかったこともあるけれども、興味深い話を聞くことができたし、自分の進みたい道の参考にすることができた。
建築建設工学科	2日間いろいろな話を聞いて、より建築に興味をもった。ぜひとも、この学科をうけたいと思った。
	すごくわかりやすく将来に役立つ内容でよかったですと思います。将来は、耐震についての仕事につきたいので、ぜひ入って勉強したいです。

以上のような結果を参加した高校や学科の方にフィードバックした。

(資料編：資料番号 32)

1-3 福井県工業高校の課題研究発表会への参画

工業高校では専門教科の中で座学のほかに実習や課題研究の科目を導入している。この課題研究のねらいは座学で学んだことが実際「もの」とか「システム」に、ものづくりを通してどのように位置づけているかということを経験的に学習することで創造性を育む土壌になっている。福井県高等学校文化連盟工業部会では工業科を有する県内高校 6 校の代表による「福井県工業高校の課題研究発表会」を実施している。アドミッションセンターでは第 1 回目（平成 15 年度）から第 10 回目（平成 24 年度）まで 10 年連続で専任教員（大久保教員）を派遣し、審査委員長として高校生の発表のコメント、審査、講評を行った。

1-4 高大連携数理教育研究会

平成 21 年度「大学教育推進プログラム」において「学士力涵養の礎となる初年次教育充実」が採択された。このプログラムは以下の 4 つのテーマで構成されている。

- ① 専門基礎教育の拡充。
- ② 数理教育を核とした複合型高大連携の推進。
- ③ ジェネリック・スキル教育の体系化。
- ④ 「JIBUN ポートフォリオ」による自己教育の習慣形成。

この 4 つのテーマのうちの③において「高大連携数理教育研究会」をアドミッションセンター教員が世話人となって設立した。

この研究会は、県内外の高校の先生方と本学工学部の教員との情報交換により、高大双方の教育現場に効果をもたらす数学および理科の教育方法を研究し実践することを目的としている。定期的で開催している研究会では高校側から数学、理科の授業方法や生徒の理解度そして大学入試に関する要望等について、一方、大学側から数学の授業方法や学生の学習に対する意欲や気質等について、それぞれ発表を行っている。その発表に対して意見交換することにより、今までわからなかった高大双方の教育現場の現状や問題点が少しずつ明らかになり、お互いの共通認識が醸成されつつある。また、先進的な高大連携活動を実践している大学を視察した結果を報告し、これからの活動の参考にしている。

今後、数理科目について双方での授業参観や高大接続のための数理科目の教材開発、大学入試方法の改善について議論を行う予定である。

（平成 22 年度の研究会）

- 高大連携数理教育研究会を 3 回開催した。（第 4 回～第 6 回）

（資料編：資料番号 33）

（資料編：資料番号 34）

（資料編：資料番号 35）

- 高校における授業参観（平成 23 年 2 月）

大学教員 12 名が県内高校（高志高校、羽水高校）の「数学」、「物理」の授業参観と高大双方の意見交換を行った。

【意見交換】

- ・医学科の入試問題は 110 分で解かせるのは無理がある。この量ならもう 30 分与えてほしい。
- ・非常にていねいな授業をされている事に感心しました。生徒に指名して授業を進行されている点が、大学では中々まねが出来ません。生徒数も多くなく、この位の人数でないと望ましい授業はできないのかもしれない。
- ・実際の授業を参観することで、研究会で見聞きしていたよりも明確な印象を高校の授業について持つことができた。今後は福井大学に入学してくるレベルの学生の理解度などについても情報交換できればよいかと思います。

（平成 23 年度の研究会）

- 高大連携数理教育研究会を 4 回開催した。（第 7 回～第 10 回）

（資料編：資料番号 36）

（資料編：資料番号 37）

（資料編：資料番号 38）

（資料編：資料番号 39）

- 大学における授業参観（平成 23 年 6 月）

高校教員 20 名が本学の「数学」、「物理」の授業参観と高大双方の意見交換を行った。

【高校側からの意見】

- ・学生が前向きに静かに講義を受けていて感心しました。学生の参加する姿勢、意欲を感じました。
- ・大学入試のために問題が解けるようにならないといけない部分もあるのだが、それ以上に物理の本質とは何かということを伝えていき、興味を持ってもらうことが大切だと感じた。
- ・大学入学後の生徒がどのような学力、どのような点が不足しているのかということを知ることができましたことが、とても良かったと思っています。

（平成 24 年度の研究会）

- 高大連携数理教育研究会を 4 回開催した（第 1 回～第 4 回）。

（資料編：資料番号 40）

（資料編：資料番号 41）

（資料編：資料番号 42）

（資料編：資料番号 43）

■ 高校における授業参観（平成 24 年 6 月）

大学教員 12 名が県内高校（藤島高校、科学技術高校）の「数学」の授業参観と高大双方の意見交換を行った。

【意見交換】

- ・バスを借り上げ、高校にも急な要請で手間をかけさせたと思いますが、それに応分の成果があったと思います。大学で広く参加者を募って、他の教員にも一度参加していただく価値があると思います。
- ・藤島高校では、思った以上に高度な内容まで教えていることに感心しました。ただし、生徒がどこまで本質的なレベルで理解しているかは不明です。自分も高校時代にこの程度(以上)の授業を受けていて大変なつかしく思いました。
- ・今回見せていただいた藤島高校の 2 クラスの授業は、「とにかく早く進めなければ」という心情の場面と、深く教えてイメージも持たせ生徒の知的好奇心にも火をつけたいという心情の場面が対照的に示されていたと思う。

■ 大学における授業参観（平成 25 年 1 月）

高校教員 20 名が本学の「数学」の授業参観と高大双方の意見交換を行った。

【高校側からの意見】

- ・高校教員が大学授業をみることは、入試問題だけに目をとらわれている教員には大切なことだと考えます。これからもこのような公開授業を続けていって頂きたいと思います。
- ・熱心な授業で温かさがあって、よかったなーと思いました。理論的なところと発展元にふれられると、よかったのかなーとは思いますが、研究会の中で $S(f, \Delta)$ 、 $s(f, \Delta)$ 等も話しされているということで工学部に必要な数学というものもよくわかりました。高校の数学教育のあり方についても考えさせられます。
- ・「積分でなぜ面積が求まるのか」授業で一応扱いますが、入試問題を解けるようにするための時間を多くとり、定義に関して深くやれませんが、本日の重積分の講義をお聞きしていると、高校の授業で深く扱わなければと思いました。本日は授業を参観させて頂き、ありがとうございました。

今後の予定

- (1) 今後も体験入学などの高大連携活動を継続的に実施して、本学のアドミッションポリシーの浸透を図りたいと考える。
- (2) 高大連携活動に参加した生徒の本学への志願状況および入学後の学業成績の追跡調査を実施する予定である。検証結果をまとめて「大学入試研究ジャーナル」に投稿する。

2 改善すべき点

- (1) 体験入学のテーマについて、大学側が一方的に決定して高校側に提案するのではなく、高校と大学双方が実施テーマや内容について事前打ち合わせを行う必要がある。
- (2) 高校時代の課題研究の実践が大学入学後の成績の伸びに大きく影響を及ぼしていることが判明している。上述の課題研究の実践は平成15年度から平成24年度まで10年連続でSPPや科研費の採択（すべて研究代表者：大久保が研究代表）により行ってきた。しかしながら、現在の高校教育は10年前の高校教育と比較するとほとんど変化していない。この要因としては、課題研究の評価結果が大学入試に活用されていないことが考えられる。そこで、このような状況の中、課題研究の実践により培った多様な学習成果を評価する手法を開発して、その評価結果を大学入試の選抜材料の一部に活用する必要がある。

第5章 センター教員の研究活動

1 研究業績

1-1 アドミッションセンターの研究業績一覧（平成22～24年度）

区 分	22年度	23年度	24年度	合計
審査付学術論文	2	1	1	4
解説、総説	8	3	1	12
学会等発表	3	4	3	10

1-2 個人業績一覧

（平成22～24年度の審査付論文、解説、総説、学会等発表）

【大久保 貢】

審査付学術論文

- [1] 福井大学工学部新入生における高校時代の履修状況と入学後の初年次成績—平成21年度新入生アンケートに基づく調査研究（1）—
大久保 貢、金澤 悠介、倉元 直樹
大学入試研究ジャーナル、21、59-67（2011.03）
- [2] 福井大学 AO 入試入学生の意識と態度に見られる特徴について—平成21年度新入生アンケートに基づく調査研究（2）—
大久保 貢、金澤 悠介、倉元 直樹
大学入試研究ジャーナル、21、135-142（2011.03）
- [3] AO 入試入学生の追跡調査—福井大学工学部の事例—
大久保 貢、金澤 悠介、倉元 直樹
大学入試研究ジャーナル、22、145-153（2012.03）
- [4] 一般入試選抜における各地区（北陸地区、東海地区、関西地区）からの志願状況の年次推移—福井大学工学部の事例—
大久保 貢
大学入試研究ジャーナル、23、21-26（2013.03）

解説、総説

- [1] 草の根の高大連携活動と AO 入試
大久保 貢、他 9 名
東北大学出版会「高大接続関係のパラダイム転換と再構築」、41-52（2011.03）

- [2] 医学部医学科 入学者選抜方法の改善検討に資するための追跡調査報告書
 【2003年度～2008年度 入学生を対象】
大久保 貢
 医学部医学科 追跡調査報告書 (2010)
- [3] 医学部医学科 平成 22 年度入試 志願者減少の原因と対策一河合塾訪問調査より一
大久保 貢
 医学部医学科 平成 22 年度入試 志願者減少の原因と対策報告書 (2010)
- [4] 医学部看護学科 入学者選抜方法の改善検討に資するための追跡調査報告書
 【2005年度～2008年度 入学生】
大久保 貢
 医学部看護学科 追跡調査報告書 (2011)
- [5] GPA に基づく学際実験・実習の教育効果の検証
大久保 貢
 学際実験・実習の教育効果の検証報告書 (2010)
- [6] 高大連携授業の感想 ～キャンパス大使の試み～
大久保 貢
 キャンパス大使 (静岡県立吉原工業高校) 報告書(2010)
- [7] プラスチック成形加工の基礎を学ぶ
大久保 貢
 科研費 (基盤研究 C) 学びの基盤を育てる高大接続教育を創造する課題探求実践の
 推進 報告書(2010)
- [8] 数理教育を核とした複合型高大連携の推進 ～第 1 回数学分科会～
大久保 貢
 福井大学工学部 GP News Letter No 2 (2010)
- [9] 高大双方による授業参観
大久保 貢
 福井大学工学部 GP News Letter No 3 (2010)
- [10] 大学における授業参観
大久保 貢
 福井大学工学部 GP News Letter No 4 (2011)
- [11] 高大連携数理教育研究会のまとめ
大久保 貢
 福井大学工学部 GP News Letter No 5 (2011)
- [12] コンピュータを使った音声・音楽情報処理
大久保 貢
 科研費 (基盤研究 C) 普通科高校と大学の連携による高大接続教育を創造する課題
 研究の実践 報告書(2012)

学会等発表

- [1] 今、高大連携の何が問題か～高校生のだどのような資質をどのように伸ばすべきか～
大久保 貢
平成 22 年度 北海道高大連携フォーラム シンポジスト (2010)
- [2] 福井大学工学部新入生における高校時代の履修状況と入学後の初年次成績—平成 21 年度新入生アンケートに基づく調査研究 (1) —
大久保 貢、金澤 悠介、倉元 直樹
全国大学入学者選抜研究連絡協議会 第 5 回大会 研究発表予稿集, (2010)
- [3] 福井大学 AO 入試入学生の意識と態度に見られる特徴について—平成 21 年度新入生アンケートに基づく調査研究 (2) —
大久保 貢、金澤 悠介、倉元 直樹
全国大学入学者選抜研究連絡協議会 第 5 回大会 研究発表予稿集, (2010)
- [4] 学士力を涵養する初年次教育の取り組み
本田知己、大久保 貢、他 3 名
第 59 回年次大会工学教育研究講演会 (2011)
- [5] 福井大学工学部における学士力を涵養する初年次教育の取り組み
本田知己、大久保 貢、他 3 名
日本設計工学会北陸支部平成 23 年度研究発表講演会(2011)
- [6] AO 入試入学生の追跡調査—福井大学工学部の事例—
大久保 貢、金澤 悠介、倉元 直樹
全国大学入学者選抜研究連絡協議会 第 6 回大会 研究発表予稿集, (2011)
- [7] 「導入教育の理論とその現実」
大久保 貢
平成 23 年度 全国大学入学者選抜研究連絡協議会 大会テーマ指定討論会
パネリスト (2011)
- [8] 大学教育 (工学部) における大学入試センター試験の功罪
大久保 貢
大学入試センター試験と理科 (化学) 教育を考える、第 17 回化学教育サロン(2012)
- [9] 一般入試選抜における各地区 (北陸地区、東海地区、関西地区) からの志願状況の
年次推移—福井大学工学部の事例—
大久保 貢
全国大学入学者選抜研究連絡協議会 第 7 回大会 研究発表予稿集, (2012)
- [10] 学士力涵養のためのジュネリック・スキル教育の体系化
本田知己、大久保 貢、他 3 名
日本設計工学会 2012 年度春季研究発表講演会(2012)

1-3 研究経費取得の状況

1-3-1 科学研究費補助金

氏名	交付年	交付金額(千円)	科研費の種別	採択研究題目
大久保 貢	2010	1170	基盤研究 (C)	学びの基盤を育てる高大接続教育を創造する課題探求実践の推進
大久保 貢	2011	1300	基盤研究 (C)	学びの基盤を育てる高大接続教育を創造する課題探求実践の推進
大久保 貢	2012	2080	基盤研究 (C)	普通科高校と大学の連携による高大接続教育を創造する課題研究の実践

1-3-2

学内競争的配分経費（教育に関する評価経費）

氏名	交付年	交付金額(千円)	採択研究題目
大久保 貢	2010	500	高大接続教育を創造する課題探求実践の推進と AO 入試の改善

1-4 社会との連携

氏名	自治体名	委員会等の名称	役職	時期
大久保 貢	福井県教育委員会	福井県工業高校課題研究発表会	審査委員長	2011. 2
大久保 貢	福井県教育委員会	福井県工業高校課題研究発表会	審査委員長	2012. 2
大久保 貢	福井県教育委員会	福井県工業高校課題研究発表会	審査委員長	2013. 2

第6章 センターの施設・設備、財務と管理

1 施設・設備の現状

平成14年4月に設置された当初は、教員室は暫定的に工学部の教員室を間借りしていた。平成15年4月から「アドミッションセンター・留学生センター（平成25年4月から国際交流センターに改称）」棟の2階に移転し、同棟2階の施設・設備を入試課事務室と共同使用している。

(平成25年4月1日現在)

区 分	施設面積 (㎡)
センター長室兼会議室	24
教授室	17
准教授室	17
客員教授室	14
合 計	72

2 財務の状況

平成22年度から平成24年度の予算及び決算の推移状況は次のとおりである。

<予算の推移>

(単位：千円)

区 分	22年度	23年度	24年度
特定事項経費	9,443	6,884	6,825
校費相当	4,850	5,004	5,165
職員旅費相当	1,200	1,000	1,000
諸謝金相当	670	440	380
講師等旅費相当	50	210	50
客員教授(手当)交通費	2,673	230	230
教育研究基盤経費	855	845	845
センター長裁量経費	69	343	343
教授分	512	502	502
准教授分	274	0	0
計	10,298	7,729	7,670

※客員教授手当は、平成22年度までは特定事項経費に含まれていたが、平成23年度からは人件費として特定事項経費外に措置されることとなった。

<決算の推移>

(単位：千円)

区 分	22 年度	23 年度	24 年度
特定事項経費	9,494	7,182	7,262
校費相当	5,434	5,450	5,528
職員旅費相当	1,006	1,037	1,080
諸謝金相当	379	325	470
講師等旅費相当	66	172	0
客員教授（手当）交通費	2,609	198	184
教育研究基盤経費	783	562	850
センター長裁量経費	0	230	343
教授分	452	332	507
准教授分	331	0	0
計	10,277	7,744	8,112
過不足（予算計－決算計）	21	△15	△442

※H24 年度予算超過分については、翌年度の予算により精算（減額）されることになる。

3 管理体制

AC 連絡会を開催し、当面する諸問題等に関する話し合いを定期的に行うことで、センター長の下、管理運営が円滑になされている。予算の執行にあたっては、アドミッションセンター運営委員会において、事前に審議・承認を得た上で、予算の管理については、センターの事務を行う入試課で行っている。その他の重要事項についてもアドミッションセンター運営委員会で諮る体制をとっている。

4 施設・設備、財務、管理等に関する課題と改善の方策

センター規程第 9 条において、「センターの庶務は、学務部入試課において処理する。」と規定されている。センターとその事務を担当する入試課が施設を共有し、同じ場所にあることによって、日頃から情報共有、意思疎通が円滑に行われており、センター運営の点からも非常に効率的・有効な体制となっている。

入試課の職員は入試課長を含めて 8 人が配置されている。入試課の構成は、平成 24 年 4 月現在、入試課長 1 人、課長補佐 1 人、入試企画調整係 3 人（非常勤職員 1 人を含む。）、入学試験第一係 1 人、入学試験第二係 2 人となっており、入試広報に関しては主に、入試課長と課長補佐が、入試情報処理に関しては主に入試企画調整係がセンターと協力しながら実施する体制となっている。入試広報に関しては、医学部松岡キャンパス学務室入学試験係（3 人）も実施しているほか、学務部就職支援室や教務課、広報センター等とも連携・協力を行っている。

しかしながら、入試課においては多様な入試とそれに費やされる業務が年々増加しており、センターの事務について手が回らないといった状況も度々発生しており、センター教員自らが事務的な業務をこなしているのが現状となっている。

センター運営の面からは、欠員のままとされている准教授ポストを埋めると共に、センター専従の事務職員を配置するといった体制の整備・強化が望まれる。

また、平成 19 年 9 月に高等教育推進センターが設置され、高等教育推進センター 3 部門の一つとして入試企画部門が置かれた。高等教育推進センターの設置に当たっては、アドミッションセンターの吸収（統合）も検討されていたが、アドミッションセンター設置の経緯や「アドミッションセンター」といった名称が高等学校だけではなく、社会的にも広く浸透していることなどもあり見送られることとなった。入試企画部門とアドミッションセンターの機能分担については、大きくは高等教育推進センターの企画・提言を受けて、アドミッションセンターがその実行を担っているともいえるが、外部からは入試に関わるセンターが 2 つ存在することになり分りにくいのではないかという指摘がなされている。一方では、全学的な入試戦略の企画・立案について、アドミッションセンターがこれまで以上に関わり、各学部等に対して主導的な役割を果たすことを期待する声もある。いずれにしろ、組織的な見直しについては今後とも、全学的な理解を得ながら進めていくことが求められている。

<資料>

福井大学アドミッションセンター規程

平成 16 年 4 月 1 日

福大規程第 45 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、福井大学学則（平成 16 年福大規則第 1 号）第 8 条第 3 項の規定に基づき、福井大学アドミッションセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、全学的な入試戦略の企画・立案を行うとともに、本学への入学志望者に対する総合的な広報活動等を行い、もって本学が求める入学者の確保に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の調査研究及び改善に関すること。
- (2) 入学志望者の確保に関すること。
- (3) 入試広報に関すること。

- (4) 高大連携に関すること。
- (5) センターの自己点検・評価に関すること。
- (6) AO入試の企画・立案及び学生募集要項の作成に関すること
- (7) その他前条の目的を達成するために必要な業務
(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) アドミッションセンター長（以下「センター長」という。）
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

2 センター長及び専任教員の選考に関する必要な事項は、別に定める。
(職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 専任教員は、センターの業務を処理する。
- 3 その他の職員は、センターの業務に従事する。
(兼任教員)

第6条 センターに、兼任教員を置くことができる。

- 2 兼任教員は、センターの業務に協力する。
- 3 兼任教員は、所属する部局の長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 4 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。
(運営委員会)

第7条 センターの円滑な運営を図るため、福井大学アドミッションセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。
(入試相談室)

第8条 入学を志望する者等の各種相談に対する助言等を行うため、センターに入試相談室（以下「相談室」という。）を置く。

- 2 相談室に関する必要な事項は、別に定める。
(庶務)

第9条 センターの庶務は、学務部入試課において処理する。
(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月17日福大規程第42号）

- 1 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程による改正後の福井大学アドミッションセンター規程第 6 条第 3 項の規定に基づき最初に任命される兼任教員の任期は、同条第 4 項の規定にかかわらず、平成 22 年 3 月 31 日までとする。

福井大学入試相談室内規

平成 16 年 5 月 27 日

学 長 裁 定

(目的)

第 1 条 この内規は、福井大学アドミッションセンター規程（平成 16 年福大規程第 4 5 号）第 8 条第 2 項の規定に基づき、入試相談室（以下「相談室」という。）について、必要な事項を定める。

(業務)

第 2 条 相談室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学に入学を志望する者等（以下「入学志望者等」という。）の各種相談に対する助言
- (2) 入学志望者等に対する情報の提供
- (3) 入試相談業務についての連絡調整

(組織)

第 3 条 相談室に、室長及び相談員を置く。

- 2 室長は、アドミッションセンター（以下「センター」という。）専任の教員をもって充てる。
- 3 室長は、相談室の業務を掌理する。
- 4 相談員は、次に掲げる者をもって充てる。
 - (1) センターの専任教員
 - (2) 各学部の教員 若干名
- 5 前項第 2 号の相談員は、学部長の推薦に基づきセンター長が委嘱する。
- 6 前項の相談員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠相談員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 相談員は、相談業務に従事する。

(事務)

第 4 条 相談室の事務は、学務部入試課において処理する。

(雑則)

第 5 条 この内規に定めるもののほか、相談室の運営について必要な事項は、室長が別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成 16 年 5 月 27 日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される第 3 条第 4 項第 2 号の相談員の任期は、同条第 6 項の規定にかかわらず、平成 18 年 3 月 31 日までとする。

附 則（平成 21 年 3 月 17 日改正）

この内規は、平成 2 1 年 4 月 1 日から施行する。

資料編

- 【資料番号 1】平成20年度～平成26年度 AO入試募集人員
- 【資料番号 2】第1回入試フォーラム『新しい視座から入試広報を考える』スケジュール
- 【資料番号 3】平成22年度理事長裁量経費「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会」打合せ会および研究会プログラム
- 【資料番号 4】平成22年度理事長裁量経費「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会」打合せ会および研究会プログラム (Ver. 2)
- 【資料番号 5】平成23年度理事長裁量経費「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究手法の体系化の試み」－大学入試研究会－
至：2011. 8. 29
- 【資料番号 6】平成23年度理事長裁量経費「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究手法の体系化の試み」－大学入試研究会－
至：2011. 10. 28
- 【資料番号 7】平成23年度理事長裁量経費「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究手法の体系化の試み」－大学入試研究会－
至：2012. 3. 14
- 【資料番号 8】平成24年度理事長裁量経費「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究手法の体系化および成果発信の試み」－大学入試研究会－ 至：2013. 3. 21
- 【資料番号 9】平成22年度卒業論文着手判定不合格者の原因分析
- 【資料番号 10】平成23年度卒業論文着手判定不合格者の原因分析
- 【資料番号 11】平成24年度卒業論文着手判定不合格者の原因分析
- 【資料番号 12】平成23年度AO入試Ⅰ合格者のためのスクーリング
- 【資料番号 13】平成24年度推薦入試Ⅰ合格者のためのスクーリング
- 【資料番号 14】平成25年度AO入試Ⅰ合格者のためのスクーリング
- 【資料番号 15】平成25年度推薦入試Ⅰ合格者のためのスクーリング
- 【資料番号 16】工学部AO入試入学生の学業成績と意識・態度の調査結果と入学前教育の効果とその改善
- 【資料番号 17】平成22年度新入生を対象とするアンケート
- 【資料番号 18】平成23年度新入生を対象とするアンケート
- 【資料番号 19】平成24年度新入生を対象とするアンケート
- 【資料番号 20】国立12大学合同進学説明会 案内 (平成23年度入試)
- 【資料番号 21】国立12大学最後の願書配布会 案内 (平成24年度入試)
- 【資料番号 22】国立12大学合同進学説明会 案内 (平成24年度入試)
- 【資料番号 23】国立12大学合同進学説明会 案内 (平成23年度入試)
- 【資料番号 24】国立12大学最後の願書配布会 案内 (平成25年度入試)

- 【資料番号 25】 国立12大学合同進学説明会 案内（平成25年度入試）
- 【資料番号 26】 北陸国立 3 大学理工系進学説明会 案内（平成23年度入試）
- 【資料番号 27】 国立大学合同相談会 案内（平成24年度入試）
- 【資料番号 28】 4 大学合同進学相談会 案内（平成24年度入試）
- 【資料番号 29】 平成22年度高大連携事業「テーマ：プラスチック成形加工の基礎を学ぶ」報告書
- 【資料番号 30】 文部科学省「大学教育推進プログラム」による高大連携シンポジウム新聞記事
- 【資料番号 31】 高大連携課題探究型実践プロジェクト（情報・メディア系）実施要項
- 【資料番号 32】 2010年度工学部体験入学・アンケート結果
- 【資料番号 33】 第4回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 34】 第5回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 35】 第6回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 36】 第7回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 37】 第8回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 38】 第9回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 39】 第10回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 40】 第1回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 41】 第2回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 42】 第3回高大連携数理教育研究会 議事録
- 【資料番号 43】 第4回高大連携数理教育研究会 議事録

平成20年度～平成26年度 AO入試募集人員

平成20年度

※募集人員変更箇所を ___ で示す

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I			
			①	②		
学校教育課程		芸・保教育コース 美術教育サブコース	2			
		生活科学教育コース	4			
		臨床教育科学コース	2			
		障害児教育コース	3			
		教育地域科学部 計	11			
工学部	学科	AO入試 I		AO入試 II		
		①	②	①	②	
		機械工学科	12	—	5	3
		電気・電子工学科	7	5	—	—
		情報・メディア工学科	—	—	10	5
		建築建設工学科	5	5	—	—
		材料開発工学科	8	2	—	—
		生物応用化学科	8	2	—	—
		物理工学科	—	—	6	2
		知能システム工学科	7	5	—	—
		工学部 計	47	19	21	10
		66		31		
		97				
合 計		77		31		
		108				

平成21年度

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I			
			①	②		
学校教育課程		芸・保教育コース 美術教育サブコース	2			
		生活科学教育コース	4			
		臨床教育科学コース	2			
		障害児教育コース	3			
		教育地域科学部 計	11			
工学部	学科	AO入試 I		AO入試 II		
		①	②	①	②	
		機械工学科	12	—	5	3
		電気・電子工学科	7	5	—	—
		情報・メディア工学科	—	—	10	5
		建築建設工学科	5	5	—	—
		材料開発工学科	<u>8</u>	<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
		生物応用化学科	8	2	—	—
		物理工学科	—	—	若干名	若干名
		知能システム工学科	7	5	—	—
		工学部 計	<u>39</u>	<u>17</u>	<u>23</u>	<u>10</u>
		<u>56</u>		<u>33</u>		
		<u>89</u>				
合 計		<u>67</u>		<u>33</u>		
		<u>100</u>				

平成22年度

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I		
	学校教育課程	芸・保教育コース	美術教育サブコース	2	
		生活科学教育コース		4	
		臨床教育科学コース		2	
		障害児教育コース		3	
教育地域科学部 計		11			

工学部	学科	AO入試 I		AO入試 II	
		①	②	①	②
	機械工学科	12	—	5	3
	電気・電子工学科	7	5	—	—
	情報・メディア工学科	—	—	10	5
	建築建設工学科	5	5	—	—
	材料開発工学科	—	—	8	2
	生物応用化学科	8	2	—	—
	物理工学科	—	—	若干名	若干名
	知能システム工学科	7	5	—	—
	工学部 計	39	17	23	10
		56		33	
		89			
	合 計	67		33	
		100			

平成23年度

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I		
	学校教育課程	芸・保教育コース	美術教育サブコース	2	
		臨床教育科学コース		2	
		障害児教育コース		3	
教育地域科学部 計		7			

工学部	学科	AO入試 I		AO入試 II	
		①	②	①	②
	機械工学科	12	—	5	3
	電気・電子工学科	7	5	—	—
	情報・メディア工学科	—	—	10	5
	建築建設工学科	5	5	—	—
	材料開発工学科	—	—	8	2
	生物応用化学科	8	2	—	—
	物理工学科	—	—	若干名	若干名
	知能システム工学科	7	5	—	—
	工学部 計	39	17	23	10
		56		33	
		89			
	合 計	63		33	
		96			

平成24年度

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I		
	学校教育課程	芸・保教育コース	美術教育サブコース	2	
		臨床教育科学コース		3	
		障害児教育コース		4	
		教育地域科学部 計	9		

工学部	学科	AO入試 I		AO入試 II	
		①	②	①	②
	機械工学科	12	—	5	3
	電気・電子工学科	—	3	10	—
	情報・メディア工学科	—	—	10	5
	建築建設工学科	5	5	—	—
	材料開発工学科	—	—	8	2
	生物応用化学科	8	2	—	—
	物理工学科	—	—	若干名	若干名
	知能システム工学科	7	5	—	—
		32	15	33	10
	工学部 計	47		43	
		90			
合 計		56		43	
		99			

平成25年度

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I		
	学校教育課程	芸・保教育コース	美術教育サブコース	2	
		臨床教育科学コース		3	
		障害児教育コース		4	
		教育地域科学部 計	9		

工学部	学科	AO入試 I		AO入試 II	
		①	②	①	②
	機械工学科	12	—	5	3
	電気・電子工学科	—	3	10	—
	情報・メディア工学科	—	—	10	5
	建築建設工学科	5	5	—	—
	材料開発工学科	—	—	8	2
	生物応用化学科	8	2	—	—
	物理工学科	—	—	若干名	若干名
	知能システム工学科	—	5	—	—
		25	15	33	10
	工学部 計	40		43	
		83			
合 計		49		43	
		92			

平成26年度

教育地域科学部	課程	コース・サブコース	AO入試 I			
	学校教育課程	芸・保教育コース	美術教育サブコース	2		
		臨床教育科学コース		3		
		障害児教育コース		4		
教育地域科学部 計		9				
工学部	学科		AO入試 I		AO入試 II	
			①	②	①	②
	機械工学科		若干名	—	4	3
	電気・電子工学科		—	3	10	—
	情報・メディア工学科		—	—	10	5
	建築建設工学科		5	5	—	—
	材料開発工学科		—	—	8	2
	生物応用化学科		5	若干名	—	—
	物理工学科		—	—	若干名	若干名
	知能システム工学科		—	5	—	—
	工学部 計		10	13	32	10
23			42			
合 計		32		42		
		74				

第1回入試フォーラム『新しい視座から入試広報を考える』スケジュール

アドミッションセンターでは、入試の改革、改善、質の向上に資するため、学内外から講師を招き、入試に関するフォーラムを開催したいと考えております。

つきましては、第1回入試フォーラムとして「新しい視座から入試広報を考える」をテーマに、全国の大学より事例を学びながら、本学の入試広報の議論を深める一助となることを願い、下記のとおり開催します。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

■日 時：平成22年7月23日（金）

■場 所：本学文京キャンパス総合研究棟I 13階大会議室

■プログラム：

15:00 開催挨拶

15:05 講演 「学生募集・選抜・広報とアドミッションセンター」

筑波大学アドミッションセンター長

白川 友紀 氏

16:05 休憩

16:15 講演 「在学生による入試広報活動の効果と課題」

広島大学入試センター准教授

永田 純一 氏

17:15 全体質疑

17:30 閉会

◆問合せ：アドミッションセンター 准教授

高等教育推進センター入試企画部門長 大久保 貢

内 線：2670

メール：ohkubo@u-fukui.ac.jp

平成 22 年度理事長裁量経費
「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会」
打合せ会および研究会 プログラム

日時：2010 年 9 月 3 日（金）13:30～17:00

場所：大学入試センター視聴覚室

【打合せ会】 13:30～14:30

- 今年度の活動スケジュールについて
- 来年度の入研協研究会での企画セッションに向けて

【休憩】 14:30～14:40

【研究会】 14:40～16:20

1. 大学入学者選抜制度が高校教育に及ぼす波及効果について ―成績評価への影響の傍証―
（研究発表：質疑応答 30 分）

倉元直樹（東北大学高等教育開発推進センター）

2. E 学科入学者選抜方法の改善検討に資するための追跡調査（研究発表：質疑応答 30 分）

大久保貢（福井大学アドミッションセンター）

3. E 学科 平成 22 年度入試志願者減少の原因と対策（話題提供：質疑応答 20 分）

大久保貢（福井大学アドミッションセンター）

4. 筑波大学入試改善アンケート調査報告（話題提供：質疑応答 20 分）

本多正尚（筑波大学アドミッションセンター）

【休憩】 16:20～16:30

【ディスカッション】 16:30～17:00

平成 22 年度理事長裁量経費

「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会」

打合せ会および研究会 プログラム (Ver.2)

日時：2010 年 11 月 12 日 (金) 13:30～17:00

場所：大学入試センター視聴覚室

【研究会】 13:30～14:30

1. 入試科目選択が大学成績に与える影響 (仮題) (研究発表：質疑応答 20 分)

本多正尚 (筑波大学アドミッションセンター)

2. 入試データから留年のリスク要因を探る—東北大学医学部医学科に関する予備分析

(研究発表：質疑応答 20 分)

倉元直樹 (東北大学高等教育開発推進センター)

3. 二次試験問題の質を測る——作題に関する合格者アンケートの結果から

(研究発表：質疑応答 20 分)

木村拓也 (長崎大学アドミッションセンター)

【休憩】 14:30～14:45

【打合せ会】 14:45～17:00 <途中、休憩 1 回をはさむ予定>

- 幹事会での検討結果報告 (事前に送付したまとめの確認)
- 来年度の入研協研究会での企画セッションに向けた検討 (幹事会まとめを受けて)
- 入研協で発表可能な題材の持ち寄り (1 人 10 分程度 + 欠席者からの資料紹介)

平成 23 年度理事長裁量経費
「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする入試研究手法の体系化の試み」
—— 大学入試研究会 ——

日時：2011 年 8 月 29 日（月）15:00～17:30

場所：大学入試センター視聴覚室

【自己紹介】 15:00～15:10

【研究発表 1】 15:10～15:35

大学入試センター試験における高校新卒志願者の地域別大学出願状況の年次推移
内田 照久（大学入試センター）

【研究発表 2】 15:35～15:55

全国及び都道府県別進学動向の経年変化
安野 史子（国立教育政策研究所／大学入試センター）

【休憩】 15:55～16:05

【研究発表 3】 16:05～16:25

どんな学生に入学前教育は効果があったのか？—— 長崎大学入学前教育の試み(1)
木村 拓也（長崎大学）

【研究発表 4】 16:25～16:45

入学前の学習を促す科学実験講義 —— 長崎大学入学前教育の試み(2)
池田 光壺（長崎大学）

【総合討論】 16:45～17:30

平成 23 年度理事長裁量経費
「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする入試研究手法の体系化の試み」
—— 大学入試研究会 ——

日時：2011 年 10 月 28 日（金）15:00～17:40

場所：大学入試センター視聴覚室

【挨拶】 15:00～15:05

【話題提供】 15:05～16:25（質疑応答 20 分×4 件）

1. 山口大学の志願者状況について（平成 14 年度～平成 23 年度入試）
大澤 公一（山口大学）
2. 平成以降の S 大学における志願者動向（仮）
西郡 大（佐賀大学）
3. 志願者数等にもつわるエトセトラ（仮）
倉元 直樹（東北大学）
4. 一般入試選抜を対象とした志願者の動向分析
大久保 貢（福井大学）

【休憩】 16:25～16:40

【総合討論】 16:40～17:40

平成 23 年度理事長裁量経費
「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする入試研究手法の体系化の試み」
—— 大学入試研究会 ——

プログラム（暫定版）

日時：2012 年 3 月 14 日（水）13:30～17:00

場所：大学入試センター視聴覚室

【発表 1】 13:30～14:45（質疑応答込 25 分×3 件）

1. 企画セッションの趣旨説明

倉元 直樹（東北大学）

椎名 久美子（大学入試センター）

2. 中核受験者層におけるセンター試験を利用する私立大学への出願状況

内田 照久（大学入試センター）

鈴木 規夫（大学入試センター）

3. 交通機関の開通等が受験動向に与える影響

本多 正尚（筑波大学）

【休憩】 14:45～15:00

【発表 2】 15:00～15:50（質疑応答込 25 分×2 件）

4. 新潟大学における過去 10 年間の志願者・入学者の動向について

並川 努（新潟大学）

佐藤 喜一（新潟大学）

濱口 哲（新潟大学）

5. 18 歳人口の減少がもたらす入試の現状をどう把握するか？

～今後の入試戦略に向けた基礎分析～

西郡 大（佐賀大学）

【休憩】 15:50～16:00

【総合討論】 16:00～17:00

平成 24 年度理事長裁量経費
「個別大学アドミッションセンター教員を中心とする入試研究手法の体系化および成果発信の試
み」
—— 大学入試研究会 ——

プログラム（打合せ会，研究発表会）

日時：2013 年 3 月 21 日（木）11:00～15:00

場所：大学入試センター視聴覚室

【打合せ会】 11:00～11:55

- 企画セッションの段取り（司会，指定討論者など）
- 企画セッション趣旨説明
- シンポジウムについて

【昼休み】 12:00～12:55

【研究発表会】 12:55～15:00（質疑応答込 25 分×5 件）

発表 1 12:55～13:20

大学入試制度の変更は何をもたらしたのか？—主として昭和 62 年度の例を中心に—
倉元 直樹（東北大学）

発表 2 13:20～13:45

国立大学の入試倍率の変遷について（仮題）

安野 史子（国立教育政策研究所）

発表 3 13:45～14:10

前期日程における受験科目数の減少によって入学者に変化が見られるのか
大澤 公一（山口大学）

発表 4 14:10～14:35

試験日程の変更に伴う受験者層の変化の考察

菊地 賢一（東邦大学）

発表 5 14:35～15:00

大学共通テストにおける障害者特別措置の変遷

立脇 洋介（大学入試センター）

※ 備考：今回の発表 1 と発表 2 の順番は，入研協での発表順とは逆です。

平成 22 年度卒業論文着手判定不合格者の原因分析

3-1 はじめに

工学部の留年率（平成 21 年度）は、過年度留年率と現役の全体留年率が前年度より 2.2 ポイント改善し、28.9%で、また現役だけでは前年度より 5.1 ポイント改善し、16.6%であった。留年率は前年度と比較すると改善の方向であるが、留年に至った原因の分析は常に学部をあげて取り組まなければならない課題として認識する必要がある。そこで、平成 19 年度入学生を対象に平成 22 年度卒業論文着手判定の不合格者の原因分析を行った。

3-2 調査方法

対象学生：平成 19 年度入学生（3 年編入生、私費留学生は含まない）

（AO入試入学生 109 名、前期日程入試入学生 267 名、後期日程入試入学生 182 名）
 成績 = 3x（優の取得単位数）+ 2x（良の取得単位数）+ 1x（可の取得単位数）
 総合成績 = 共通教育の成績 + 専門基礎の成績 + 専門科目の成績

3-3 各学科の留年率

工学部の各学科の留年率（平成 19 年度入学生）を図-3.1 に示した。

図-3.1 より D 学科では 31%の学生が留年し、一方、F 学科、H 学科では 10%未満の学生が留年していることがわかった。前年度の合格率（現役）と今年度の合格率（現役）を比較すると、D 学科と F 学科の 2 学科だけが今年度の合格率が減少したが、他の 6 学科は逆に増加した。特に H 学科では 18.1 ポイントも合格率が増加した。

3-4 入学者選抜方法別の留年率

次に工学部における留年率を入学者選抜方法別に分析した結果を図-3.2 に示した。

入学者選抜方法別に留年率を分析したところ、前期日程入試入学生や後期日程入試入学生の留年率は 13 ~ 14%で、一方、AO入試入学生の留年率は 24%であることがわかった。AO入試で入学した学生の留年率は前期日程入試入学生及び後期日程入試入学生より約 10%多くなっている。

3-5 各学科の入学者選抜方法別の留年率

次に各学科の留年率（入学者選抜方法別）を図-3.3 に示した。

各学科の留年率を入学者選抜方法別に分析した結果、C 学科以外の学科で AO入試入学生の留年率が前期日程入試入学生、後期日程入試入学生に比べて高くなっていることがわかった。図-3.2、図-3.3 の結果より、なぜ AO入試入学生の留年率が全体的に高

いのか、その原因を探る必要がある。そこで留年率と大学入試の受験倍率との相関を調査したところ、AO入試では、D学科の場合、受験倍率が5.0倍にも関わらず留年率が41.7%であった。このようにAO入試では受験倍率と留年率との相関はあまり認められないようである。一方、一般入試（前期日程入試、後期日程入試）について調査したところ、受験倍率が1.5倍未満になると留年率が25%以上になっていた。一般入試入学生の留年率を減少させるには、志願者を増加させて少しでも優秀な志願者を集めることが重要である。次にAO入試入学生の留年率の原因をさらに探るため、AO入試の入試区分（普通科・理数科、工業科・総合学科）別に留年率を分析する。

3-6 AO入試の留年生の内訳

AO入試入学生の留年率について、入試区分（普通科・理数科、工業科・総合学科）別に分析した結果を図-3.4に示した。

AO入試では高校における普通科・理数科と工業科・総合学科に分けて選抜している。図-3.4の結果より工業科・総合学科高校出身学生の留年率が普通科・理数科高校出身学生の留年率の半分であることがわかった。そして、図-3.2より工業科・総合学科高校出身学生の留年率は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率とほぼ同じになっている。

3-7 入学者選抜方法別のプレズメントテスト数学の成績

AO入試入学生の留年率と入学時の成績の関係を探るため、入学者選抜方法別にプレズメントテスト数学の成績を図-3.5に示した。AO入試入学生の入学後の学業成績の追跡調査については、初年次に履修する専門基礎科目の成績が前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の成績と比較してやや低下していることをすでに報告している。

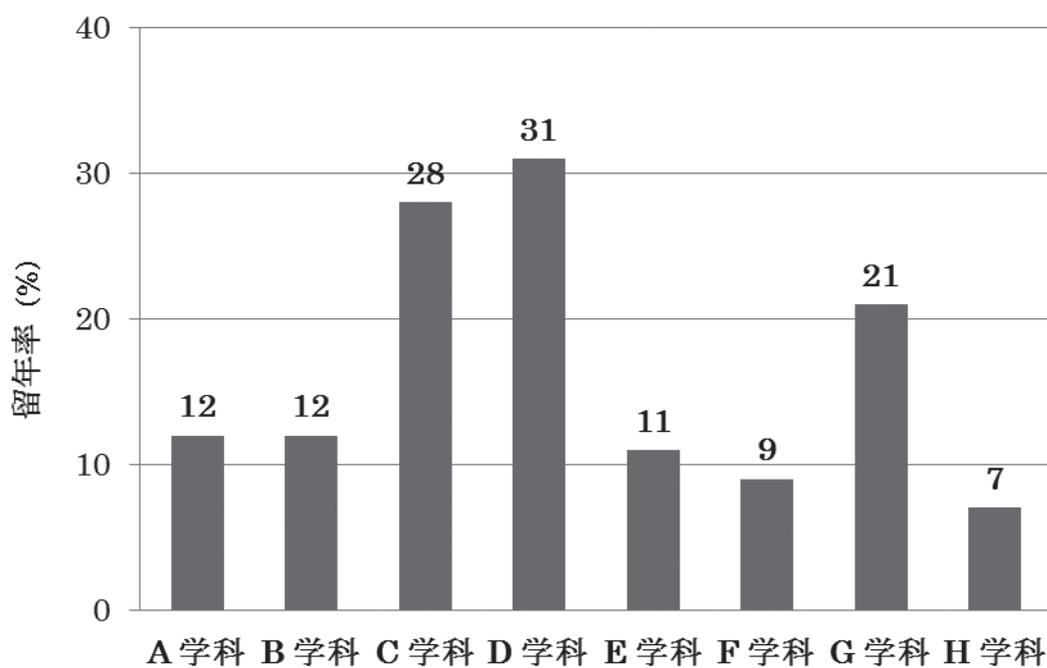
図-3.5の結果よりAO入試入学生のうち工業科・総合学科高校出身学生の入学時のプレズメントテスト数学の成績は、前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の成績の半分以下であった。しかし、上述したように工業科・総合学科高校出身学生の留年率は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率と比べほぼ同じであった。一方、AO入試入学生のうち普通科・理数科高校出身学生のプレズメントテスト数学の成績は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の成績と比較するとやや低下している。そして普通科・理数科高校出身学生の留年率は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の約2倍になっている。これらの結果から、AO入試入学生のうち普通科・理数科高校出身学生の方が工業科・総合学科高校出身学生より入学後の成績が振るわないことが明らかになった。このAO入試入学生における普通科・理数科高校出身学生と工業科・総合学科高校出身学生の留年率の違いは何に起因しているのかを探る必要がある。今後、このような調査を継続的に実施して同様な傾向が続くのか、または単年度の現象なのかを見極めて入試方法の改善に資することが重要である。そして、AO入試合格者への入学前教育の更なる充実を図る必要がある。アドミッションセンターが中心となってAO入試合格者に対して実施している入学前教育には一定の効果が認められることを報告²⁾した。しかしながら、これらの結果

を見る限り、入学前教育の効果は十分とは言えず更なる対策が必要と考える。

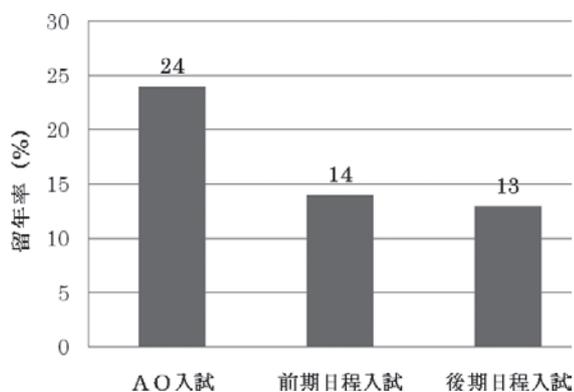
《参考文献》

- 1) 大久保貢・都司達夫 「福井大学AO入試入学者の学業成績・学生生活」 『大学入試研究ジャーナル』 16, 71-76 (2006)
- 2) 大久保貢・東光正浩 「福井大学AO入試『入学前教育』と入学時の成績」 『大学入試研究ジャーナル』 20, 227-232 (2010)

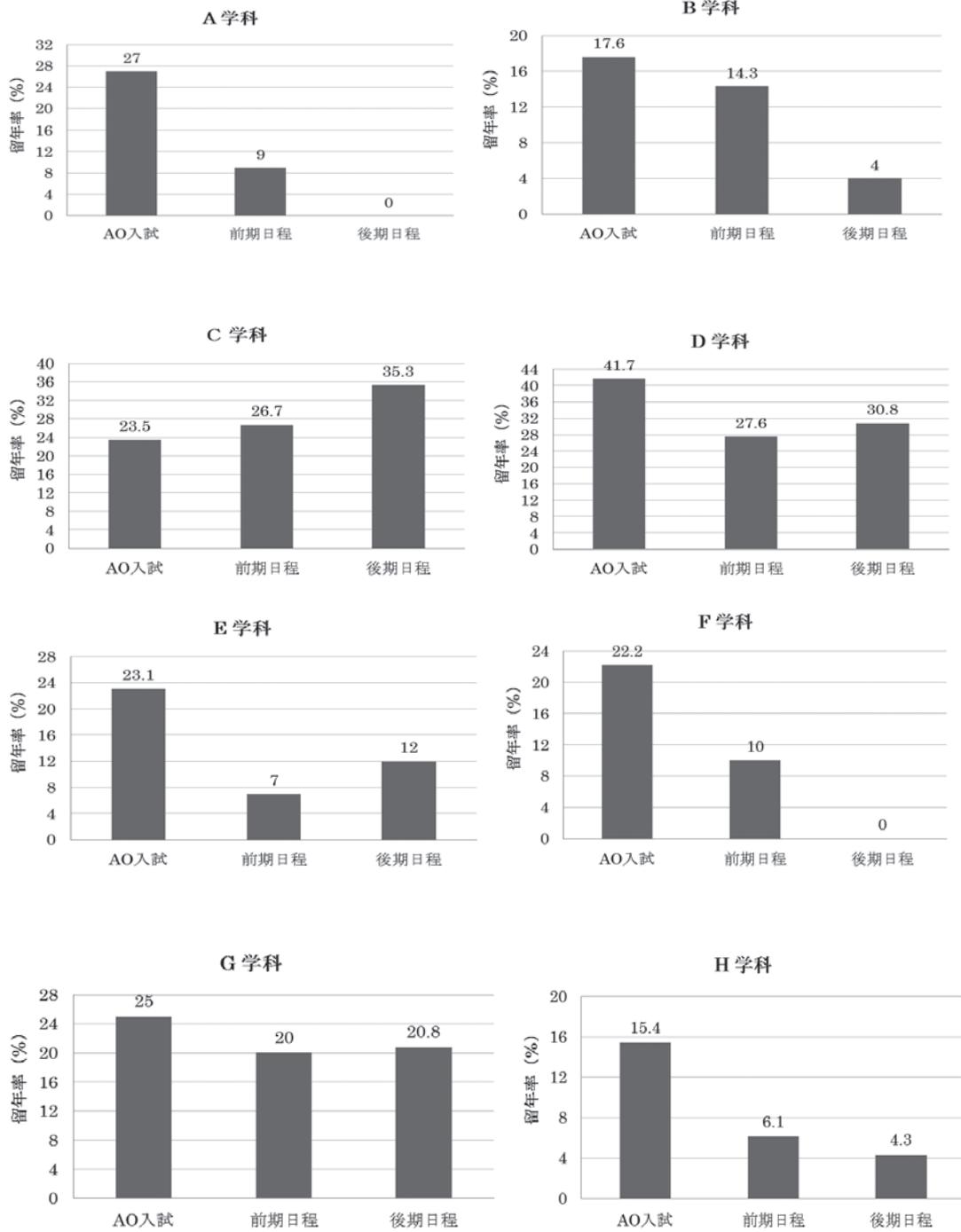
【図のページ】



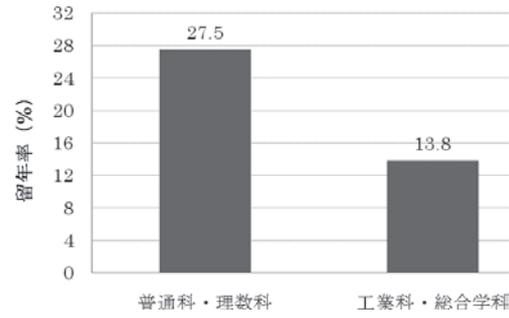
図－3. 1 留年率（平成 19 年度入学）



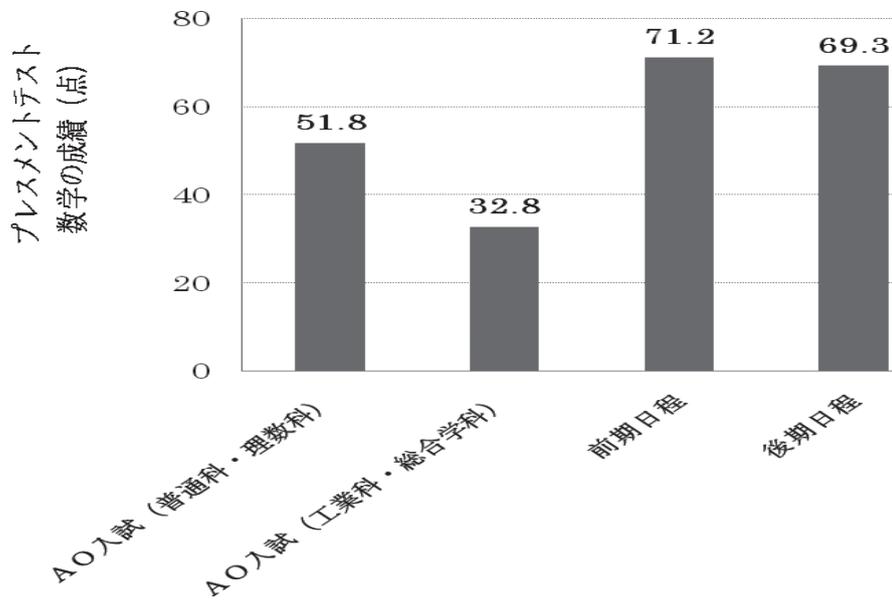
図－3. 2 入学者選抜方法別の留年率（平成 19 年度入学）



図－3.3 各学科における留年率（入学者選抜方法別）



図－3. 4 AO入試留年生の内訳



図－3. 5 プレズメントテスト数学の成績 (平成 19 年度入学生)

平成 23 年度卒業論文着手判定不合格者の原因分析

3-1 はじめに

工学部の留年率（平成 22 年度）は、現役だけでは前年度より 3.2 ポイント増加し、19.8%であった。留年率は前年度と比較すると増加の方向であるが、留年に至った原因の分析は常に学部をあげて取り組まなければならない課題として認識する必要がある。そこで、平成 20 年度入学生を対象に平成 23 年度卒業論文着手判定の不合格者の原因分析を行った。

3-2 調査方法

対象学生：平成 20 年度入学生（3 年編入生、私費留学生は含まない）

（AO入試入学生 102 名、前期日程入試入学生 283 名、後期日程入試入学生 189 名）

成績 = 3x（優の取得単位数）+ 2x（良の取得単位数）+ 1x（可の取得単位数）

総合成績 = 共通教育の成績 + 専門基礎の成績 + 専門科目の成績

3-3 各学科の留年率

工学部の各学科の留年率（平成 22 年度入学生）を図-3.1 に示した。

図-3.1 より A 学科では 28%、D 学科では 27% の学生が留年し、すべての学科で 10% 以上の学生が留年していることがわかった。前年度の留年率（現役）と今年度の留年率（現役）を比較すると、C 学科と D 学科と G 学科の 3 学科だけが今年度の留年率が減少したが、他の 5 学科は逆に増加した。特に A 学科では 16 ポイントも留年率が増加した。

3-4 入学者選抜方法別の留年率

次に工学部における留年率を入学者選抜方法別に分析した結果を図-3.2 に示した。

入学者選抜方法別に留年率を分析したところ、前期日程入試入学生や後期日程入試入学生の留年率は 17 ~ 18% で、一方、AO入試入学生の留年率は 24% であることがわかった。AO入試で入学した学生の留年率は前期日程入試入学生及び後期日程入試入学生より約 6 ポイント多くなっている。

3-5 各学科の入学者選抜方法別の留年率

次に各学科の留年率（入学者選抜方法別）を図-3.3 に示した。

各学科の留年率を入学者選抜方法別に分析した結果、D 学科、F 学科、H 学科以外の 5 学科で AO入試入学生の留年率が前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率に比べて高くなっていることがわかった。図-3.2、図-3.3 の結果より、なぜ AO入試入学生の留年率が全体的に高いのか、その原因を探る必要がある。そこで留年率と大学入

試の受験倍率との相関を調査したところ、AO入試ではA学科の場合、受験倍率が（AO入試Ⅰ：3.5倍、AO入試Ⅱ：4.1倍）にも関わらず留年率が40%であった。このようにAO入試では受験倍率と留年率との相関はあまり認められないようである。一方、一般入試（前期日程入試、後期日程入試）について調査したところ、後期日程入試ではD学科の場合、受験倍率が1.7倍で留年率が35%になっていた。一般入試入学生の留年率を減少させるには、志願者を増加させて少しでも優秀な志願者を集めることが重要である。次にAO入試入学生の留年率の原因をさらに探るため、AO入試の入試区分（普通科・理数科、工業科・総合学科）別に留年率を分析する。

3-6 AO入試の留年生の内訳

AO入試入学生の留年率について、入試区分（普通科・理数科、工業科・総合学科）別に分析した結果を図-3.4に示した。

AO入試では高校における普通科・理数科と工業科・総合学科に分けて選抜している。図-3.4の結果より普通科・理数科高校出身学生の留年率が工業科・総合学科高校出身学生の留年率の3倍以上であることがわかった。そして、図-3.2より工業科・総合学科高校出身学生の留年率は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率の半分以下であることがわかった。

3-7 入学者選抜方法別のプレズメントテスト数学の成績

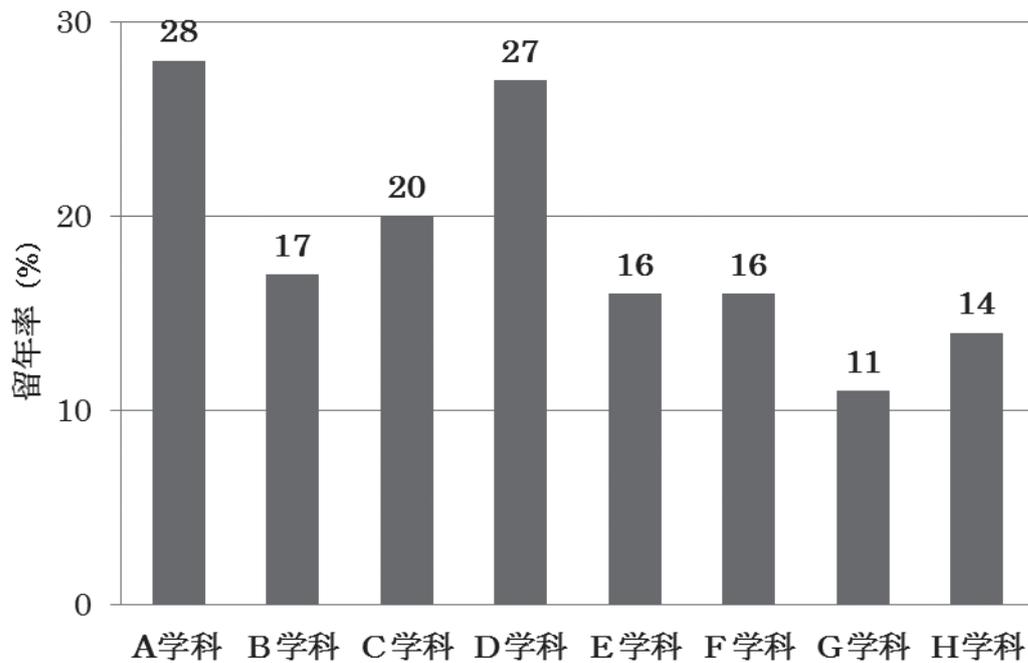
AO入試入学生の留年率と入学時の成績の関係を探るため、入学者選抜方法別にプレズメントテスト数学の成績を図-3.5に示した。AO入試入学生の入学後の学業成績の追跡調査については、初年次に履修する専門基礎科目の成績が前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の成績と比較してやや低下していることをすでに報告している。

図-3.5の結果よりAO入試入学生のうち工業科・総合学科高校出身学生の入学時のプレズメントテスト数学の成績は、前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の成績の約58%であった。しかし、上述したように工業科・総合学科高校出身学生の留年率は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率と比較すると半分以下であった。一方、AO入試入学生のうち普通科・理数科高校出身学生のプレズメントテスト数学の成績は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の成績と比較するとやや低下している。そして普通科・理数科高校出身学生の留年率は前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の約1.6倍になっている。これらの結果から、AO入試入学生のうち普通科・理数科高校出身学生の方が工業科・総合学科高校出身学生より入学後の成績が振るわないことが明らかになった。このような調査を前年から実施した結果、昨年と同様な傾向が見られた。このAO入試入学生における普通科・理数科高校出身学生と工業科・総合学科高校出身学生の留年率の違いは何に起因しているのかを探る必要がある。そして、AO入試合格者への入学前教育の更なる充実を図る必要がある。アドミッションセンターが中心となってAO入試合格者に対して実施している入学前教育には一定の効果が認められることを報告²⁾した。しかしながら、これらの結果を見る限り、入学前教育の効果は十分とは言えず更なる対策が必要と考える。

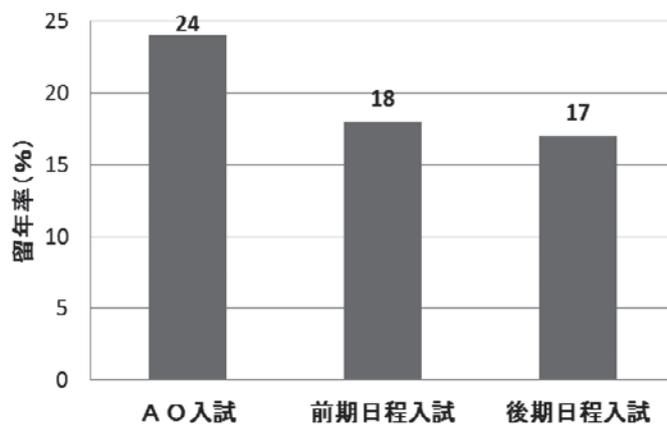
《参考文献》

- 1) 大久保貢・都司達夫 「福井大学AO入試入学者の学業成績・学生生活」 『大学入試研究ジャーナル』 16, 71-76 (2006)
- 2) 大久保貢・東光正浩 「福井大学AO入試『入学前教育』と入学時の成績」 『大学入試研究ジャーナル』 20, 227-232 (2010)

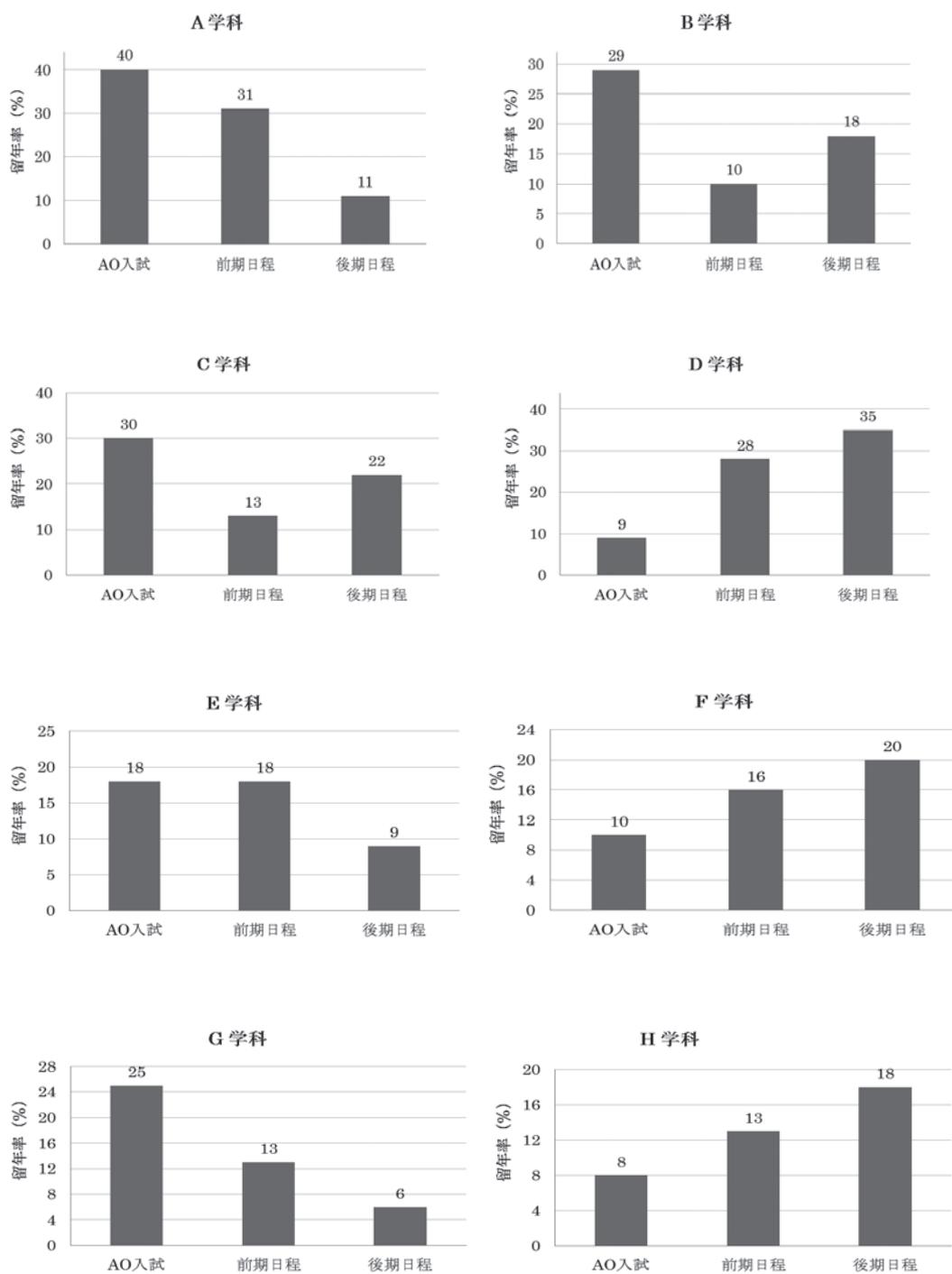
【図のページ】



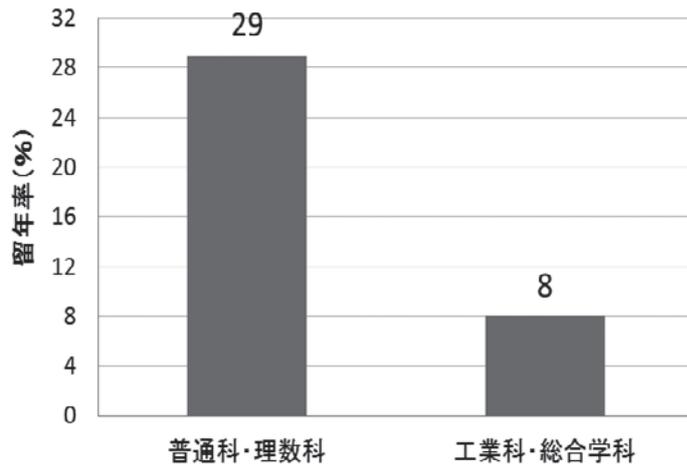
図－3. 1 留年率（平成20年度入学）



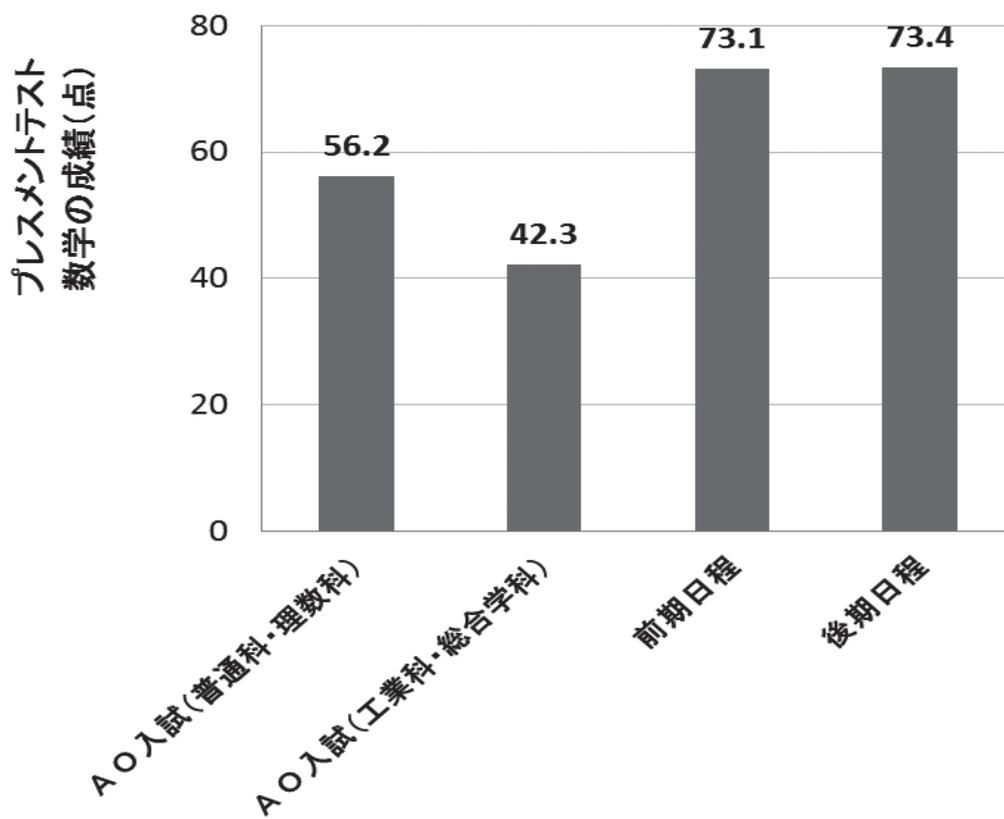
図－3. 2 入学者選抜方法別の留年率（平成20年度入学）



図－3. 3 各学科における留年率（入学者選抜方法別）



図－3. 4 A O入試留年生の内訳



図－3. 5 プレズメントテスト数学の成績（平成 20 年度入学生）

第3章 平成24年度卒業論文着手判定不合格者の原因分析

3. 1 はじめに

工学部の留年率（平成24年度）は、現役だけでは前年度より0.5ポイント増加し、20.3%であった。留年率は前年度と比較すると増加の方向であるが、留年に至った原因の分析は常に学部をあげて取り組まなければならない課題として認識する必要がある。そこで、平成21年度入学生を対象に平成24年度の卒業論文着手判定の不合格者の原因分析を行った。また平成23年度、平成22年度の結果との比較も行った。

3. 2 調査方法

【対象学生】平成19年度入学生（現役）：AO入試入学生109名、前期日程入試入学生267名、後期日程入試入学生182名（3年編入生、私費留学生は含まない）
平成20年度入学生（現役）：AO入試入学生102名、前期日程入試入学生283名、後期日程入試入学生189名（3年編入生、私費留学生は含まない）
平成21年度入学生（現役）：AO入試入学生91名、前期日程入試入学生279名、後期日程入試入学生187名（3年編入生、私費留学生は含まない）

3. 3 各学科の留年率

工学部の各学科の留年率（平成19年度入学生、平成20年度入学生、平成21年度入学生）を図-3.1に示した。

この図より平成20年度～平成21年度入学生は、すべての学科で10%以上留年していることが分かった。平成19年度、平成20年度、平成21年度の3年間を比較すると、8学科のうちB学科が2年連続で留年率が増加し、D学科では3年連続で約3割の学生が留年していることが明らかになった。一方、平成21年度入学生におけるE学科、F学科、G学科、H学科の約10%の学生が留年していることが分かった。

3. 4 入学者選抜方法別の留年率

次に工学部における留年率を入学者選抜方法別に分析した結果を図-3.2に示した。

平成19年度～平成21年度入学生を対象に入学者選抜方法別に留年率を分析したところ、全体的にすべての入学者選抜方法で増加傾向であることが分かった。特に、AO入試入学生では3年連続で20%以上の学生が留年していることが明らかになった。これまでにAO入試入学生の初年次成績を追跡調査した結果、専門基礎科目の成績が振るわないことが明らかになっている。そしてAO入試入学生の留年者の専門基礎科目の成績を調査した結果、成績が下位に低迷していた。今後、AO入試合格者への入学前教育、入学後のステップアップ授業などを検証する必要がある。

また、この3年間を見る限り前期日程入試入学生、後期日程入試入学生とも留年率が増加傾向である。

3. 5 各学科の入学者選抜方法別の留年率

次に各学科の留年率（入学者選抜方法別）を図-3.3に示した。

平成21年度入学生に関して各学科の留年率を入学者選抜方法別に分析した結果、B学科、C学科、G学科、H学科でAO入試入学生の留年率が前期日程入試入学生、後期日程入試入学生の留年率に比べて高くなっていることがわかった。そしてAO入試に注目すると、B学科、C学科、G学科で留年率が前年より増加傾向であることが明らかになった。一方、前期日程入試では、D

学科、H 学科で前年より増加傾向であった。また後期日程入試では、A 学科で増加傾向であり、特に D 学科では 3 年連続で 3 割以上留年していることが分かった。

次に AO 入試入学生の留年率の原因をさらに探るため、AO 入試の入試区分（普通科・理数科、工業科・総合学科）別に留年率を分析する。

3. 6 AO入試の留年生の内訳

AO 入試入学生の留年率について、入試区分（普通科・理数科、工業科・総合学科）別に分析した結果を図-3. 4 に示した。

AO 入試では高校における普通科・理数科と工業科・総合学科に分けて選抜している。図-3. 4 の結果より普通科・理数科高校出身学生では 3 年連続で約 3 割留年していることが分かった。一方、工業科・総合学科出身学生では昨年まで減少傾向であったが、今年度は昨年度と比較して増加したことが明らかになった。

《参考文献》

- 1) 大久保貢・都司達夫 「福井大学 AO 入試入学生の学業成績・学生生活」『大学入試研究ジャーナル』 16, 71-76 (2006)

【図のページ】

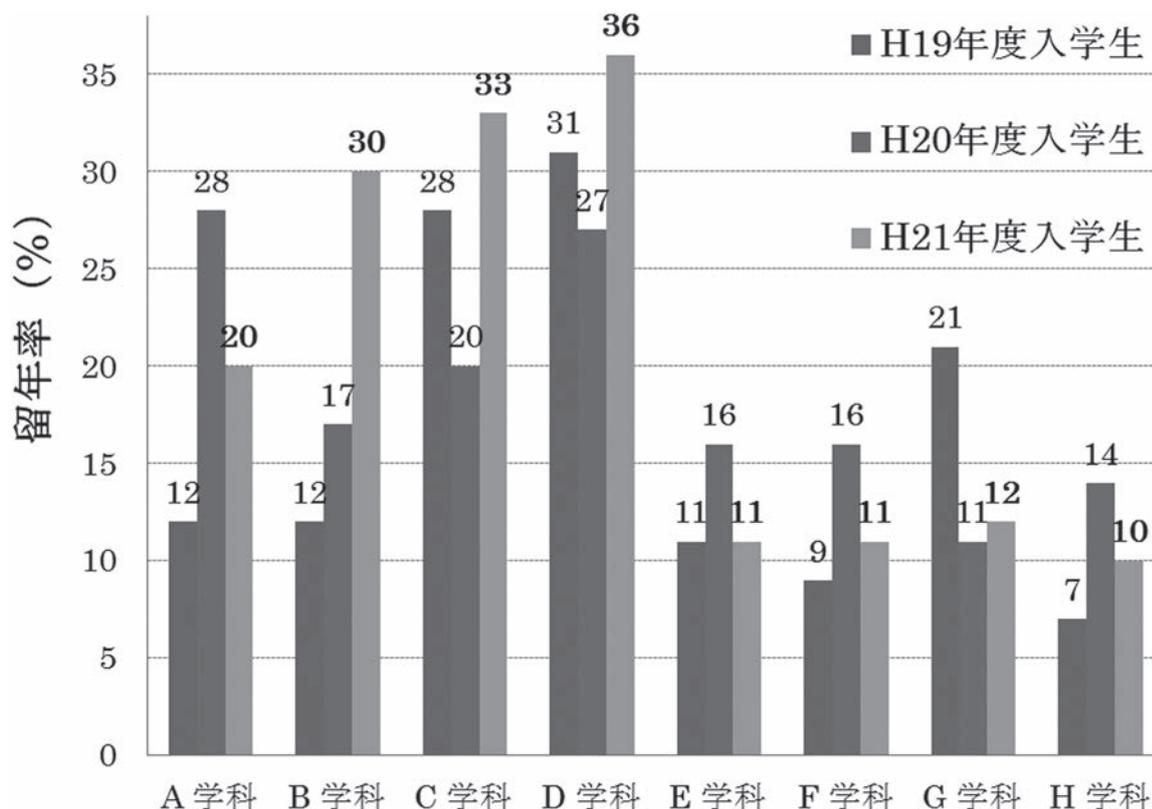


図-3. 1 留年率（平成 19、20、21 年度入学生）

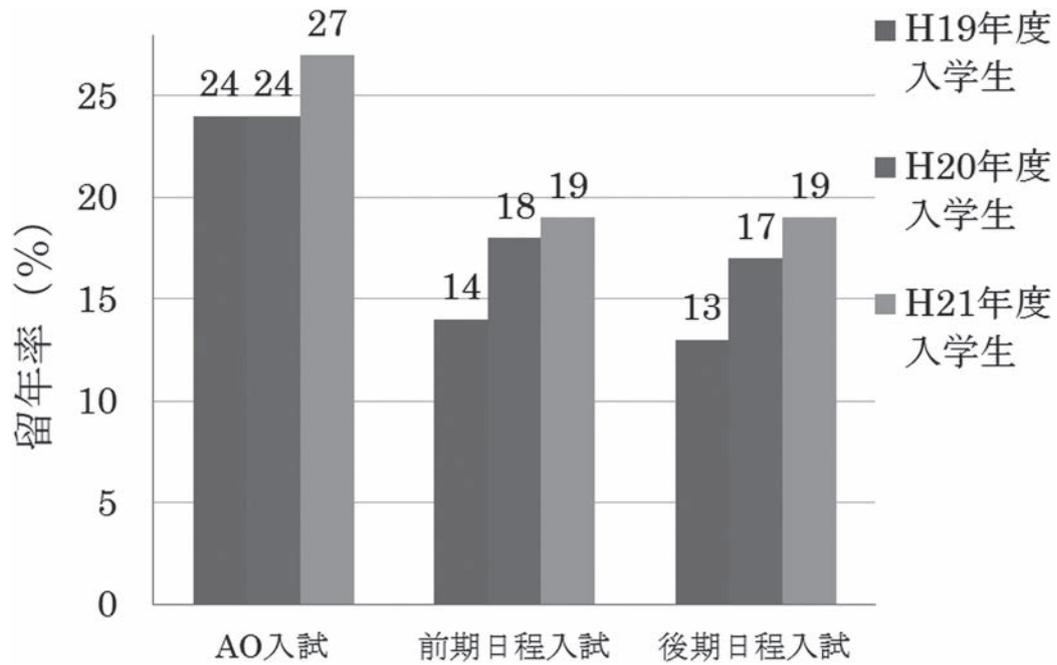
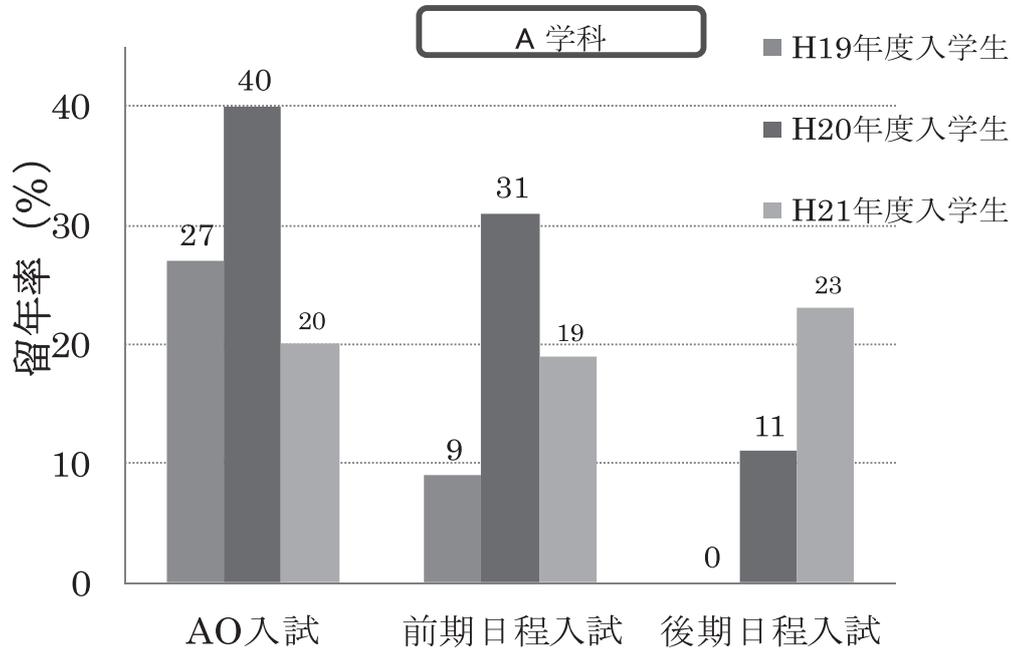
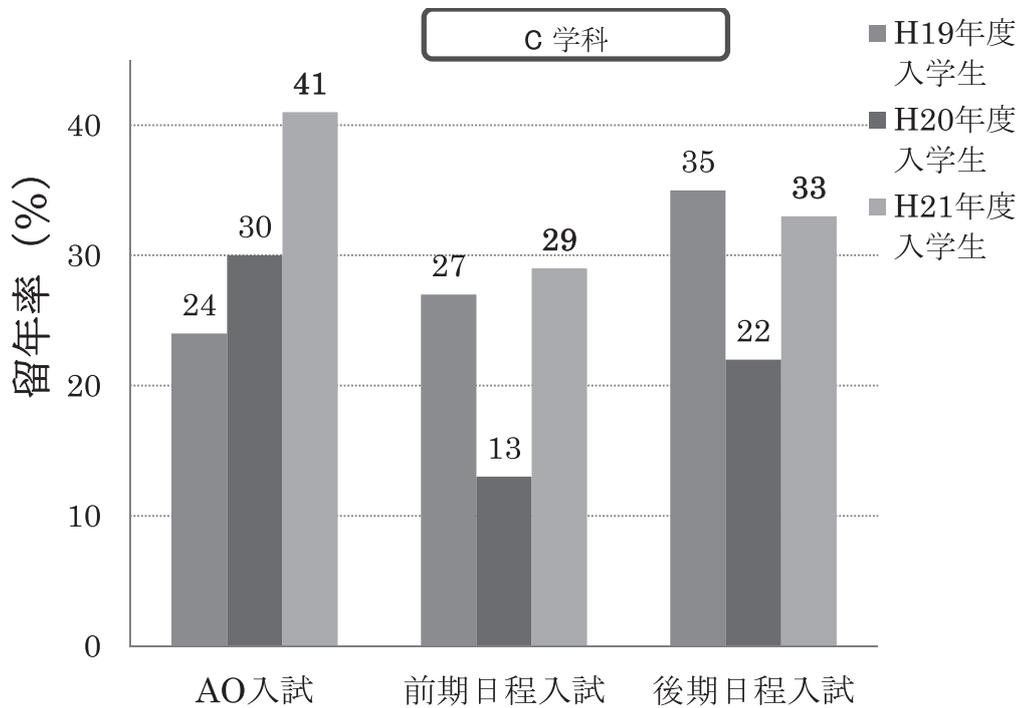
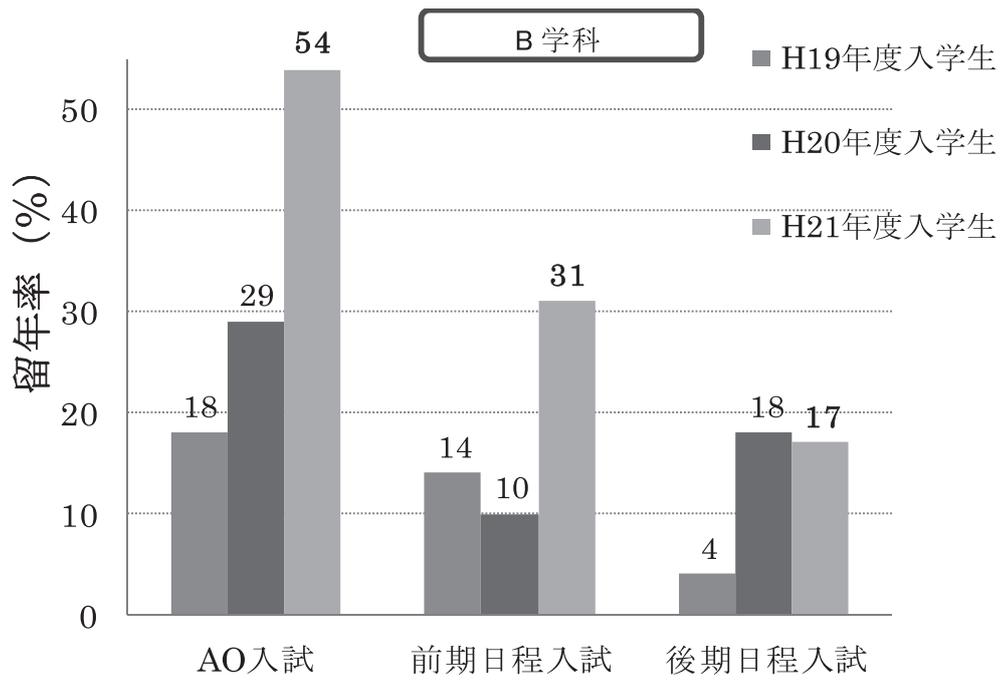
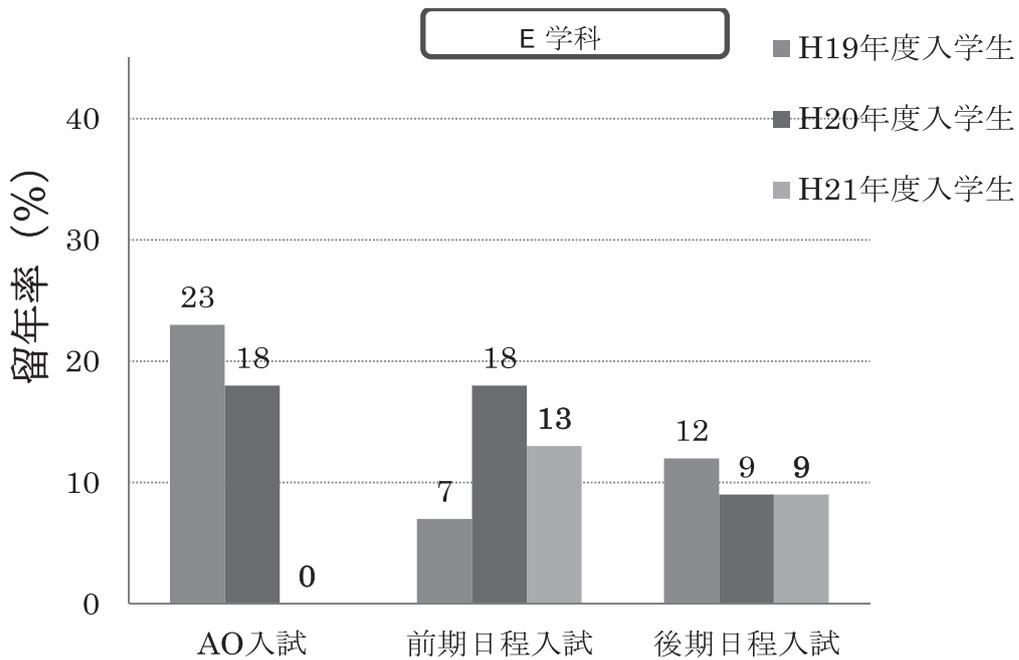
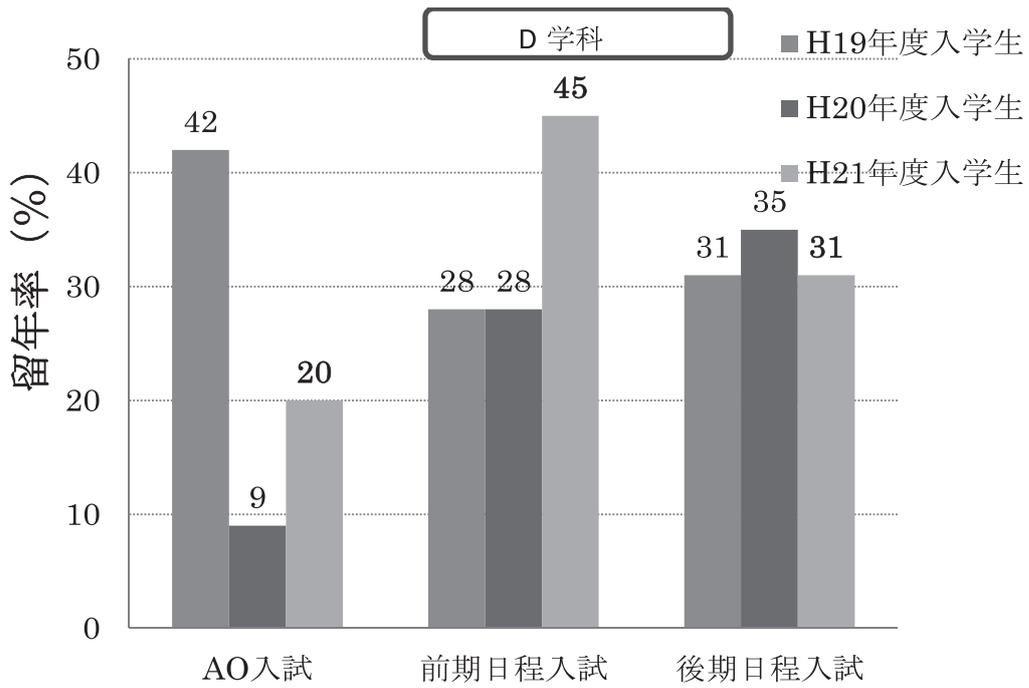
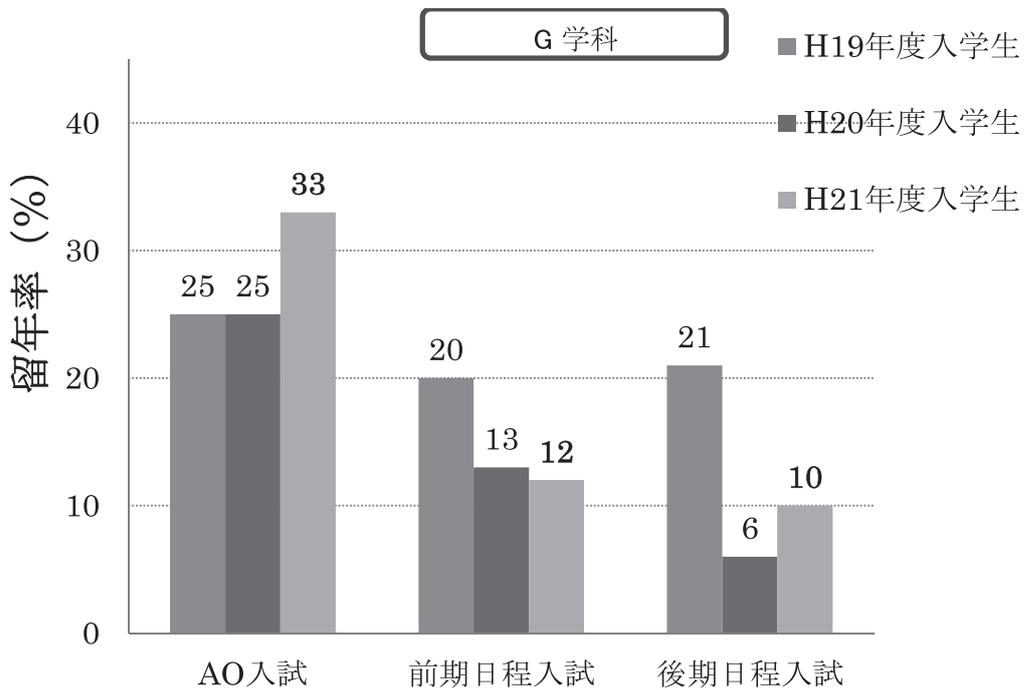
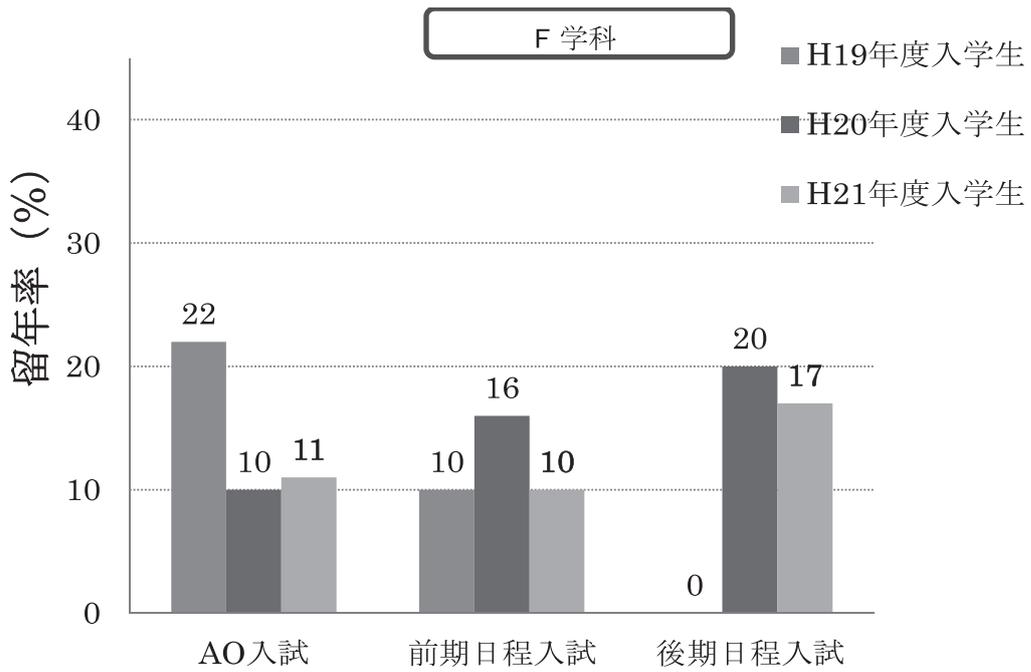


図-3. 2 入学者選抜方法別の留年率（平成 19、20、21 年度入学生）









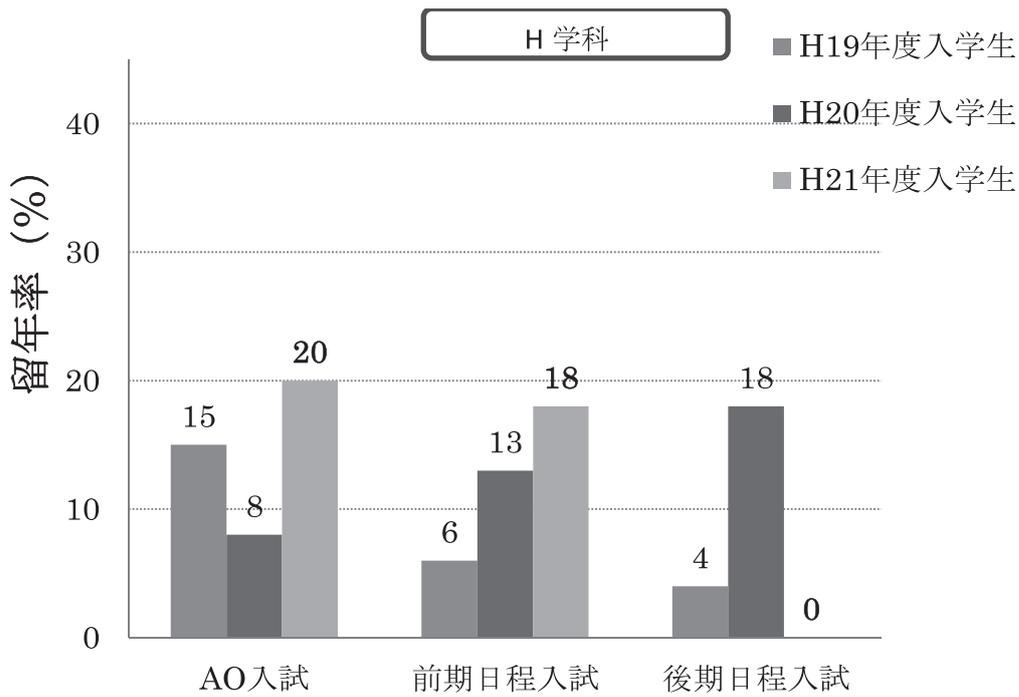


図-3.3 各学科における留年率（入学者選抜方法別）

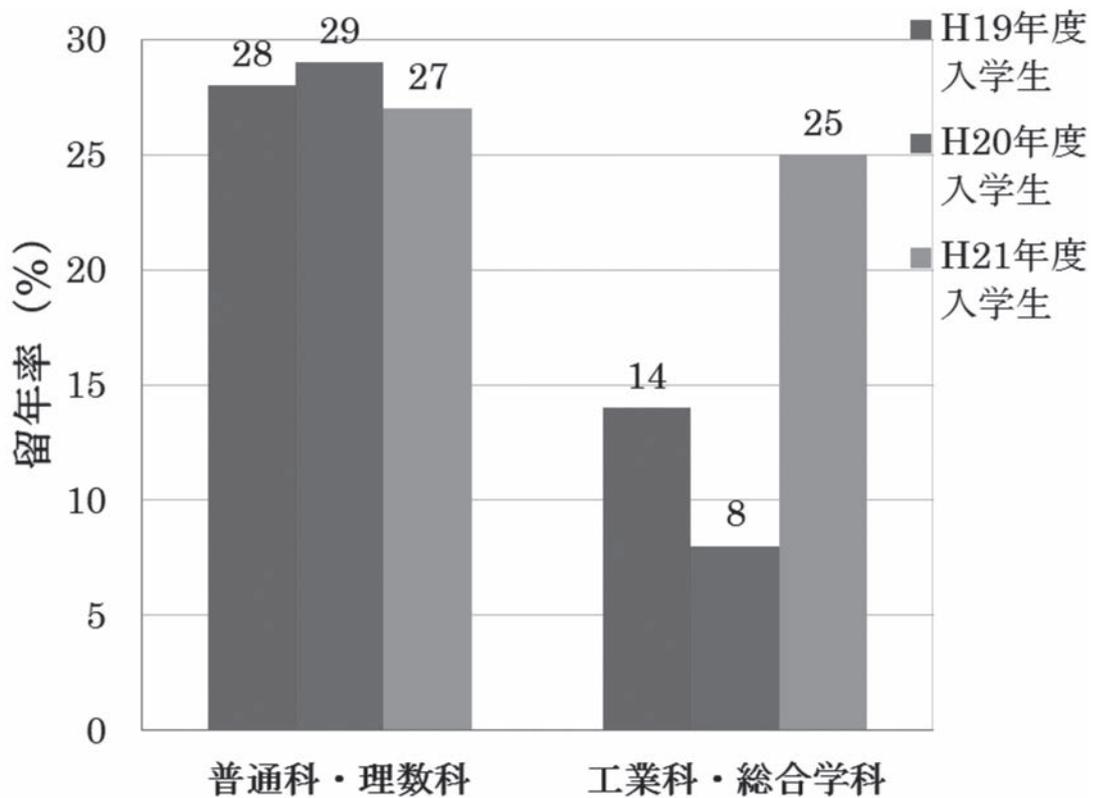


図-3.4 AO入試留年生の内訳

平成23年度AO入試I合格者のためのスクーリング

日 時：平成22年11月27日（土）13：00～16：00（12：30より受付）
 場 所：福井大学文京キャンパス総合研究棟I13階大会議室
 主 催：福井大学アドミッションセンター

<プログラム>

13：00～13：50（司会：大久保 貢）

○学部長歓迎あいさつ（10分）

教育地域科学部長 梅澤 章男
 工学部長 小倉 久和

○AO入試入学生の学業成績と大学生活（15分）

アドミッションセンター 大久保 貢

○AO入試在学生の話（20分）

教育地域科学部学校教育課程障害児教育コース 1年
 工学部生物応用化学科 4年

○アドミッションセンター長あいさつ（5分）

アドミッションセンター長（副学長（教育・学生）） 寺岡 英男

（入試課からの事務連絡の後、臨床教育科学・障害児教育コースは懇談会場へ移動）

—— 休憩 ——

14：00～14：20

○入学前教育の実施方法について

アドミッションセンター 東光 正浩

14：20～15：10

○プレースメントテスト 数学（基礎学力チェック）

—— 休憩 ——

15：20～16：00

○プレースメントテスト 英語（基礎学力チェック）

平成 24 年度 推薦入試 I 合格者のためのスクーリング

日 時 : 平成 23 年 12 月 24 日 (土) 13:00~16:00 (12:30 より受付)
 場 所 : 福井大学文京キャンパス 教育系 1 号館 2 階 202 講義室
 主 催 : 福井大学アドミッションセンター

<プログラム>

(司会: 大久保 貢)

- 13:00 アドミッションセンター長あいさつ
 アドミッションセンター長 (副学長 (教育・学生)) 寺岡 英男
- 13:10 推薦入試入学生の学業成績と大学生活
 アドミッションセンター 大久保 貢
- 13:30 推薦入試 在学生の話
 教育地域科学部 保健体育サブコース 学生
 教育地域科学部 技術科教育サブコース 学生
- 13:50 科学実験講義「LED の魅力を体験しよう」
- 14:50 入学前教育の実施方法について
- 15:00 —— 休憩 ——
- 15:10 ~ 16:00 コースにて懇談 もしくはプレースメントテスト
 保健体育サブコース: プレースメントテスト (数学)
 技術科教育サブコース: コースにて懇談

平成 25 年度 A O 入試 I 合格者のためのスクーリング

日 時 : 平成 24 年 12 月 1 日 (土) 13:00~16:00 (12:30 より受付)
場 所 : 福井大学 文京キャンパス
主 催 : 福井大学アドミッションセンター

<プログラム>

(司会: 大久保 貢)

- 13:00 アドミッションセンター長あいさつ
アドミッションセンター長 (副学長 (教育・学生)) 寺岡 英男
- 13:10 A O 入試入学生の学業成績と大学生活
アドミッションセンター 大久保 貢
- 13:30 A O 入試在学生の話
- 13:50 科学実験講義「LED の魅力を体験しよう」
- 14:50 入学前教育の実施方法について
- 15:00 —— 休憩 —— (入試課からの事務連絡)
- 15:10 ~ 16:00 各コースにて、懇談

平成 25 年度 推薦入試 I 合格者のためのスクーリング

日 時 : 平成 24 年 12 月 22 日 (土) 13:00~16:00 (12:30 より受付)
 場 所 : 福井大学文京キャンパス
 主 催 : 福井大学アドミッションセンター

<プログラム>

(司会: 大久保 貢)

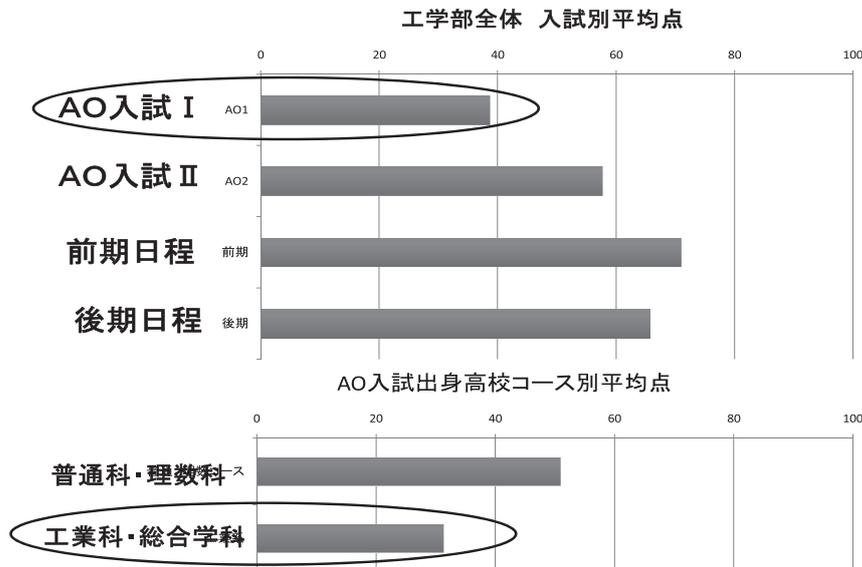
- 13:00 アドミッションセンター長あいさつ
 アドミッションセンター長 (副学長 (教育・学生)) 寺岡 英男
- 13:10 推薦入試入学生の学業成績と大学生活
 アドミッションセンター 大久保 貢
- 13:30 推薦入試 在学生の話
 教育地域科学部 保健体育サブコース 学生
 教育地域科学部 技術科教育サブコース 学生
- 13:50 科学実験講義「LED の魅力を体験しよう」
- 14:50 入学前教育の実施方法について
- 15:00 —— 休憩 ——
- 15:10 ~ 16:00 コースにて懇談 もしくはプレースメントテスト
 保健体育サブコース: プレースメントテスト (数学)
 技術科教育サブコース: コースにて懇談

【工学部A O入試入学生の学業成績と意識・態度の調査結果と 入学前教育の効果とその改善】

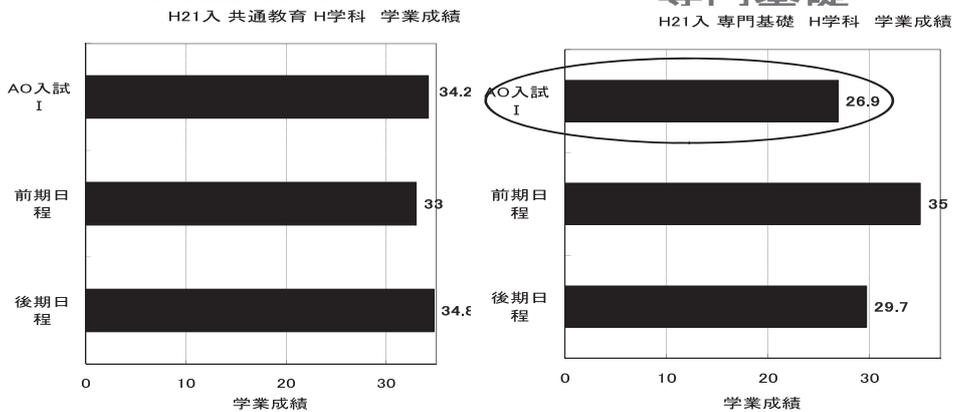
AO入試小委員会資料 アドミッションセンター 2010.6.11

・(学業成績の現状)

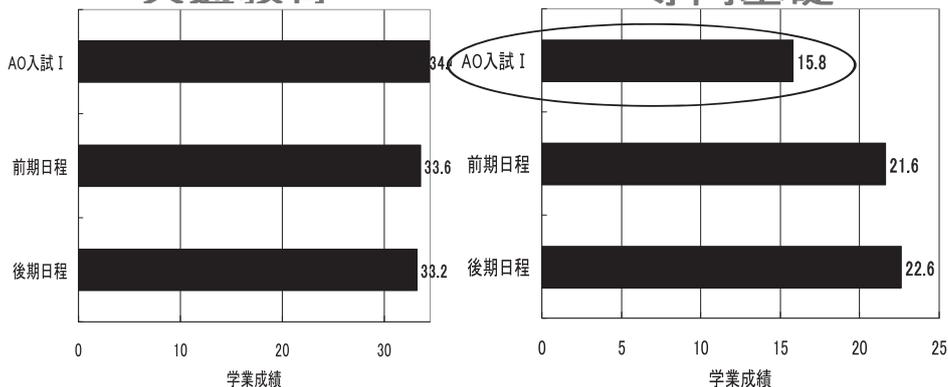
今年度のプレースメントテスト成績(現1年生)



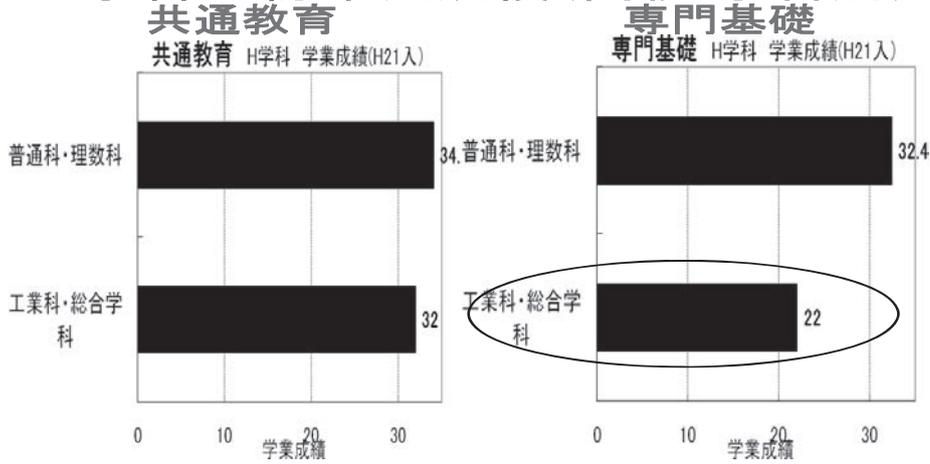
H学科の初年次成績(入試別)



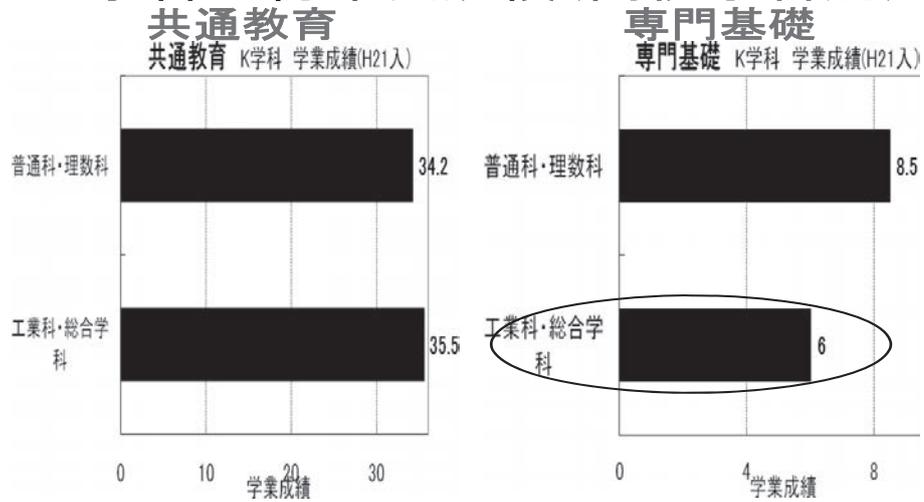
B学科の初年次成績(入試別)



H学科の初年次成績(高校 学科別)

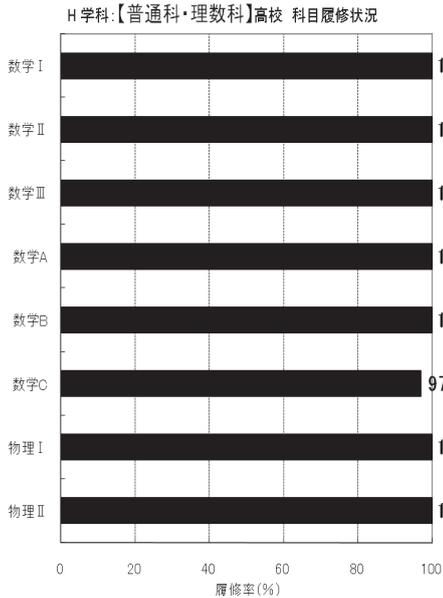


K学科の初年次成績(高校 学科別)

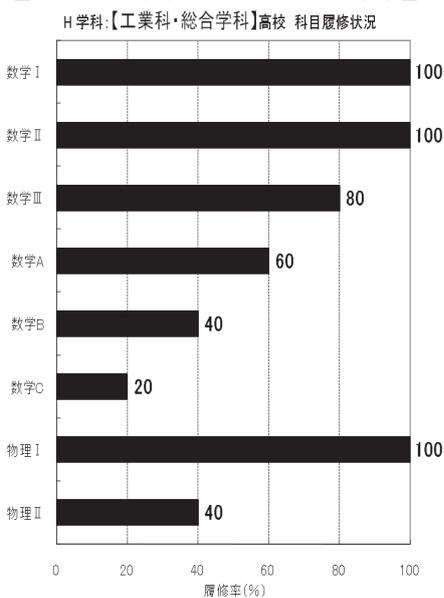


H学科 数学・物理の履修状況(高校 学科別)

【普通科・理数科】



【工業科・総合学科】



・(意識・態度の現状)

入学者選抜方法別による各要因の特徴

	因子名	比較
進路決定要因	内容重視	AO入試 I > 前期日程, 後期日程 AO入試 II > 後期日程
	インフラ重視	AO入試 I > 前期日程, 後期日程 AO入試 II > 後期日程
	地元志向	AO入試 I, AO入試 II が地元志向強い
	受験条件	AO入試 I だけが受験条件を重視していない。
高校までに身に付いたスキル	総合力	AO入試 I > 前期日程
	理解力	有意な差なし
高校時代の勉学態度	学校中心	AO入試 I > 前期日程, 後期日程
	マイペース	AO入試 I > 前期日程, 後期日程
	効率重視	有意な差なし

入学者選抜方法別による各要因の特徴

	因子名	比較
大学での勉学	自信満々	後期日程 > AO入試 I
	将来意欲	有意な差なし
	満足	AO入試 I > 前期日程, 後期日程
大学生生活	生活着実	有意な差なし
	友人充実	AO入試 I > 前期日程, 後期日程, AO入試 II
学科適性	—	AO入試 I > 後期日程

入学者選抜方法別による各要因の特徴 (まとめ)

AO入試 I 入学生 (センター試験課さない) の特徴 顕著

「進路決定要因」、「高校までに身に付いたスキル」、「高校時代の勉学態度」、「大学での勉学」、「大学生生活」で傑出

Why?

**積極的で Positive で前向き
勉学について「自信満々」でない**



【現行の入学前教育】

- ・スクーリング（1回）と数学、英語、国語の通信教育（3回）
- ・各学科・コースからの独自の課題

【入学前教育の改善】

- ・スクーリング（2回）1回目：これまで通り取り組み
2回目：（前半）基礎学力に関する試験を実施する。
（後半）初年次教育に関する講演・・・外部講師
《アドミッションセンターが主導して実施》
- ・工業科・総合学科出身合格者に対し、未履修科目の補習授業を実施する。
・・・講師：高校定年退職された先生

*これまで実施している3回の通信教育や各学科・コースの課題は継続する。

【1 福井大学への受験について】

以下の設問に該当する項目番号に○を付けてください。

- 問1 福井大学に志願することを決めた時期はいつ頃ですか？
- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 高校入学前 | 2. 高校1年 |
| 3. 高校2年 | 4. 高校3年の4~8月 |
| 5. 高校3年の9月以降センター試験以前 | 6. 高校3年のセンター試験以降 |
| 7. 浪人時のセンター試験以前 | 8. 浪人時のセンター試験以降 |

- 問2 福井大学のアドミッションポリシーを知っていましたか？
1. 知っていた。 2. 知らなかった。

- 問3 問2. で「1. 知っていた。」と回答した人に質問します。
福井大学のアドミッションポリシーはどのような情報源から得られたものですか？
(複数回答可)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. オープンキャンパス | 2. 体験授業や公開講座 |
| 3. 高校での学部ガイダンス・出前講義 | 4. 進学説明会（高校以外） |
| 5. 大学公開資料（大学案内等） | 6. ホームページ |
| 7. 受験情報誌 | 8. 高校の先生の進路指導 |
| 9. 塾・予備校からの情報 | 10. その他（ ） |

- 問4 問2. で「1. 知っていた。」と回答した人に質問します。福井大学のアドミッションポリシーをどのように受け止めていますか？
各項目にあてはまる番号を 1つ選んで ○をつけて下さい。

項 目	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	ある程度そ う思う	非常にそう 思う
志望校を決める上で参考になる	1	2	3	4
表現は分かりやすい	1	2	3	4
難解な言葉	1	2	3	4
内容が分かりにくい	1	2	3	4
合致する生徒はいない	1	2	3	4

- 問5 本学では、高校生にもっとよく大学のことを知ることができるような様々な施策を講じています。進学先を選ぶ段階で実際に役立ったことがあるのはどれですか？
(複数回答可)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. オープンキャンパス | 2. 体験授業や公開講座 |
| 3. 高校での学部ガイダンス・出前講義 | 4. 進学説明会（高校以外） |
| 5. 大学公開資料（大学案内等） | 6. ホームページ |
| 7. 受験情報誌 | 8. 高校の先生の進路指導 |
| 9. 塾・予備校からの情報 | 10. その他（ ） |

問 6 大学受験の時に重視したことがらについて伺います。あなたは福井大学を選ぶ際に以下のことがらをどの程度重視しましたか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

項 目	重視 しなかった	あまり重視 しなかった	ある程度 重視した	重視した
1. 入学の難易度・偏差値【難易度】	1	2	3	4
2. 受験科目が少ないこと【受験科目】	1	2	3	4
3. 面接や内申書だけで入学できること【面接・内申書】	1	2	3	4
4. 大学の教育内容【教育内容】	1	2	3	4
5. 大学の研究内容【研究内容】	1	2	3	4
6. 取得できる資格【資格取得】	1	2	3	4
7. 入学金・授業料等が安いこと【入学金等】	1	2	3	4
8. 大学の社会的評価【評価】	1	2	3	4
9. 将来の職業との関連【職業との関連】	1	2	3	4
10. 大学の知名度【知名度】	1	2	3	4
11. 家庭の経済状況【経済状況】	1	2	3	4
12. 自分の興味関心【興味関心】	1	2	3	4
13. 受験科目の得意・不得意【得意・不得意】	1	2	3	4
14. センター試験の成績【センター試験】	1	2	3	4
15. 国立大学だということ【国立大学】	1	2	3	4
16. 親のすすめ【親】	1	2	3	4
17. 高校や予備校の先生のすすめ【先生】	1	2	3	4
18. 自宅から通えること【自宅】	1	2	3	4
19. 街の中にあること【立地条件】	1	2	3	4
20. 希望の学科【専門】	1	2	3	4
21. 地元の大学であること【地元】	1	2	3	4
22. 良い先生がいること【教授】	1	2	3	4
23. 設備が優れていること【設備】	1	2	3	4
24. 卒業生の就職状況【就職状況】	1	2	3	4

【2 高校時代の履修状況】

以下の設問に該当する項目番号に○を付けてください。

問1 以下に示す教科・科目について、高等学校で履修した科目をすべて教えてください。

(国語) 1. 国語(現代文) 2. 国語(古典)

(地歴) 1. 世界史A 2. 世界史B 3. 日本史A 4. 日本史B 5. 地理A
6. 地理B

(公民) 1. 現代社会 2. 倫理 3. 政治・経済

(数学) 1. 数学I 2. 数学II 3. 数学III 4. 数学A 5. 数学B 6. 数学C

(理科) 1. 理科基礎 2. 理科総合A 3. 理科総合B 4. 物理I 5. 物理II
6. 化学I 7. 化学II 8. 生物I 9. 生物II
10. 地学I 11. 地学II

(外国語) 1. 英語I 2. 英語II 3. オーラルコミュニケーション 4. リーディング
5. ライティング 6. 英語以外の外国語

問2 高等学校時代の校内成績について伺います。それぞれの科目について、1～5のうち、最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。履修、あるいは、選択したおぼえがない場合には、「選択せず」欄に○をつけてください。

(校内成績)

1. 下位 2. 中位の下 3. 中位 4. 中位の上 5. 上位

科 目	校 内 成 績					選択せず
	1(下位) ← 3(中位) → 5(上位)					
国 語	1	2	3	4	5	
世界史	1	2	3	4	5	
日本史	1	2	3	4	5	
地 理	1	2	3	4	5	
現代社会	1	2	3	4	5	
倫 理	1	2	3	4	5	
政治・経済	1	2	3	4	5	
数 学	1	2	3	4	5	
物 理	1	2	3	4	5	
化 学	1	2	3	4	5	
生 物	1	2	3	4	5	
地 学	1	2	3	4	5	
英 語	1	2	3	4	5	
総合成績	1	2	3	4	5	/

問3 以下に示すような知識や技能について、高校までの教育でどの程度身についたと思いますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. 全く身につかなかった
2. あまり身につかなかった
3. 多少身についた
4. とても身についた

項 目	高校までの教育			
	1(全く身につかなかった)← →4(とても身についた)			
① 基本的な公式や法則、事柄などを記憶し必要に応じて思い出す力【記憶】	1	2	3	4
② 言葉や他の記号（イラストなども含む）の意味を解釈する力【解釈】	1	2	3	4
③ 表・図・地図・グラフが読めること【読む】	1	2	3	4
④ 脈絡にあった表現、語彙、文法を正しく使うこと【使用】	1	2	3	4
⑤ 文章を要約すること【要約】	1	2	3	4
⑥ 表やグラフが書けること【書く】	1	2	3	4
⑦ プレゼンテーション（発表/アレンジ/ディスプレイすること）【発表】	1	2	3	4
⑧ まとまりのある長い文章を書く力【長文】	1	2	3	4
⑨ 自分の考えをわかりやすく説明できること【説明】	1	2	3	4
⑩ 物事を比較して客観的に評価できる力【評価】	1	2	3	4
⑪ 与えられた前提から結論を推論すること【推論】	1	2	3	4
⑫ 自分のアイデアを実現するための方策を講じる力【方策】	1	2	3	4
⑬ 仮説・仮定を立てること【仮説】	1	2	3	4
⑭ 他人の意見・行動に根拠のある批判ができること【批判】	1	2	3	4
⑮ 直面する状況に対して適切に判断することができる力【判断】	1	2	3	4
⑯ 必要な情報を探しだし整理する力【整理】	1	2	3	4

問4. 高校時代を振り返ってみて、勉強に対するあなたの態度はどのような様子でしたか。
 あてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. どちらとも言えない
4. やや当てはまる
5. 当てはまる

項 目	勉学の態度				
	1(当てはまらない)← →5(当てはまる)				
1. 学校から出された課題にはまじめに取り組んだ	1	2	3	4	5
2. 学校の受験指導に素直にしたがった	1	2	3	4	5
3. 受験科目以外のものはまじめに勉強しなかった	1	2	3	4	5
4. 学校の授業はまじめに聞いていた	1	2	3	4	5
5. 受験とは関係なく、関心や興味を持った科目を自分で勉強していた	1	2	3	4	5
6. 好きな本を読むなど、広い視野を身につけるために自分で授業科目以外の勉強をしていた	1	2	3	4	5
7. どうしてもやらなければならないこと以外、勉強する気にはなれなかった	1	2	3	4	5
8. 普段は勉強などせずに、テストの前になると急に勉強を始めた	1	2	3	4	5
9. 受験勉強は特にしなかった	1	2	3	4	5
10. 自ら主体的に意欲を持って学習した	1	2	3	4	5

【3 福井大学での勉学について】

問1. 以下のようなことがらについて、今、あなたはどのように感じていますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ややそう思う
5. そう思う

項 目	大学での勉学				
	1(そう思わない)← →5(そう思う)				
1. 授業はよく理解できる	1	2	3	4	5
2. 面白くて興味を持てる授業が多い	1	2	3	4	5
3. 大学での授業のやり方は、期待していたものと違う	1	2	3	4	5
4. 授業の内容は簡単すぎる	1	2	3	4	5
5. ほとんどの授業についていける自信がある	1	2	3	4	5
6. 全ての科目について努力して勉強している	1	2	3	4	5
7. 成績は気にせず、留年しない程度にのんびりとやりたい	1	2	3	4	5
8. よく勉強して、良好な成績で卒業したい	1	2	3	4	5
9. 将来、大学院に進学してみたい	1	2	3	4	5
10. 福井大学に入学して満足している	1	2	3	4	5

問2. 以下のようなことがらについて、今、あなたはどのように感じていますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ややそう思う
5. そう思う

項 目	大学での勉学				
	1(そう思わない)← →5(そう思う)				
1. 大学での友人関係はうまく行っている	1	2	3	4	5
2. 先生はよく面倒を見てくれる	1	2	3	4	5
3. 勉強に割く時間は十分に取れている	1	2	3	4	5
4. 勉強のことを聞くことができる友達が居る	1	2	3	4	5

5. 規則正しい生活を送っている	1	2	3	4	5
6. 自分の将来に希望をもっている	1	2	3	4	5
7. 自由になる時間は十分にある	1	2	3	4	5
8. 自由になるお金は十分にある	1	2	3	4	5
9. アルバイトで忙しい	1	2	3	4	5
10. 生活面で不便を感じる人が多い	1	2	3	4	5

問3. 現在、所属している学科についてどう思いますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

項 目	そう思 わない	あまりそう 思わない	ある程度 そう思う	そう思う
自分の性格にあっている	1	2	3	4
自分の興味・関心にあっている	1	2	3	4
自分の能力を生かすことができる	1	2	3	4
高校時代の得意科目を生かすことができる	1	2	3	4
希望する職業に就くことができる	1	2	3	4
自分の求めている生き方ができる	1	2	3	4
現在の専門を学んでいることに誇りに思う	1	2	3	4

問4. 大学の授業でわからない時、どうしていますか。(複数回答可)

1. 自分で調べている。
2. 友達に聞いている。
3. 大学の先生に聞いている。
4. そのままにしている。
5. その他 ()

問5. 大学生活に関する要望を自由に書いて下さい。

御協力、ありがとうございました。

【1 福井大学への受験について】

以下の設問に該当する項目番号に○を付けてください。

- 問1 福井大学に志願することを決めた時期はいつ頃ですか？
- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 高校入学前 | 2. 高校1年 |
| 3. 高校2年 | 4. 高校3年の4~8月 |
| 5. 高校3年の9月以降センター試験以前 | 6. 高校3年のセンター試験以降 |
| 7. 浪人時のセンター試験以前 | 8. 浪人時のセンター試験以降 |

- 問2 福井大学のアドミッションポリシーを知っていましたか。？
1. 知っていた。 2. 知らなかった。

- 問3 問2. で「1. 知っていた。」と回答した人に質問します。
福井大学のアドミッションポリシーはどのような情報源から得られたものですか。？
(複数回答可)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. オープンキャンパス | 2. 体験授業や公開講座 |
| 3. 高校での学部ガイダンス・出前講義 | 4. 進学説明会（高校以外） |
| 5. 大学公開資料（大学案内等） | 6. ホームページ |
| 7. 受験情報誌 | 8. 高校の先生の進路指導 |
| 9. 塾・予備校からの情報 | 10. その他（ ） |

- 問4 問2. で「1. 知っていた。」と回答した人に質問します。福井大学のアドミッションポリシーをどのように受け止めていますか。？
各項目にあてはまる番号を 1つ選んで ○をつけて下さい。

項 目	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	ある程度そ う思う	非常にそう 思う
志望校を決める上で参考になる	1	2	3	4
表現は分かりやすい	1	2	3	4
難解な言葉	1	2	3	4
内容が分かりにくい	1	2	3	4
合致する生徒はいない	1	2	3	4

- 問5 本学では、高校生にもっとよく大学のことを知ることができるような様々な施策を講じています。進学先を選ぶ段階で実際に役立ったことがあるのはどれですか？
(複数回答可)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. オープンキャンパス | 2. 体験授業や公開講座 |
| 3. 高校での学部ガイダンス・出前講義 | 4. 進学説明会（高校以外） |
| 5. 大学公開資料（大学案内等） | 6. ホームページ |
| 7. 受験情報誌 | 8. 高校の先生の進路指導 |
| 9. 塾・予備校からの情報 | 10. その他（ ） |

問 6 大学受験の時に重視したことがらについて伺います。あなたは福井大学を選ぶ際に以下のことがらをどの程度重視しましたか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

項 目	重視 しなかった	あまり重視 しなかった	ある程度 重視した	重視した
1. 入学の難易度・偏差値【難易度】	1	2	3	4
2. 受験科目が少ないこと【受験科目】	1	2	3	4
3. 面接や内申書だけで入学できること【面接・内申書】	1	2	3	4
4. 大学の教育内容【教育内容】	1	2	3	4
5. 大学の研究内容【研究内容】	1	2	3	4
6. 取得できる資格【資格取得】	1	2	3	4
7. 入学金・授業料等が安いこと【入学金等】	1	2	3	4
8. 大学の社会的評価【評価】	1	2	3	4
9. 将来の職業との関連【職業との関連】	1	2	3	4
10. 大学の知名度【知名度】	1	2	3	4
11. 家庭の経済状況【経済状況】	1	2	3	4
12. 自分の興味関心【興味関心】	1	2	3	4
13. 受験科目の得意・不得意【得意・不得意】	1	2	3	4
14. センター試験の成績【センター試験】	1	2	3	4
15. 国立大学だということ【国立大学】	1	2	3	4
16. 親のすすめ【親】	1	2	3	4
17. 高校や予備校の先生のすすめ【先生】	1	2	3	4
18. 自宅から通えること【自宅】	1	2	3	4
19. 街の中にあること【立地条件】	1	2	3	4
20. 希望の学科【専門】	1	2	3	4
21. 地元の大学であること【地元】	1	2	3	4
22. 良い先生がいること【教授】	1	2	3	4
23. 設備が優れていること【設備】	1	2	3	4
24. 卒業生の就職状況【就職状況】	1	2	3	4

【2 高校時代の履修状況】

以下の設問に該当する項目番号に○を付けてください。

問1 以下に示す教科・科目について、高等学校で履修した科目をすべて教えてください。

(国語) 1. 国語(現代文) 2. 国語(古典)

(地歴) 1. 世界史A 2. 世界史B 3. 日本史A 4. 日本史B 5. 地理A
6. 地理B

(公民) 1. 現代社会 2. 倫理 3. 政治・経済

(数学) 1. 数学I 2. 数学II 3. 数学III 4. 数学A 5. 数学B 6. 数学C

(理科) 1. 理科基礎 2. 理科総合A 3. 理科総合B 4. 物理I 5. 物理II
6. 化学I 7. 化学II 8. 生物I 9. 生物II
10. 地学I 11. 地学II

(外国語) 1. 英語I 2. 英語II 3. オーラルコミュニケーション 4. リーディング
5. ライティング 6. 英語以外の外国語

問2 高等学校時代の校内成績について伺います。それぞれの科目について、1～5のうち、最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。履修、あるいは、選択したおぼえがない場合には、「選択せず」欄に○をつけてください。

(校内成績)

1. 下位 2. 中位の下 3. 中位 4. 中位の上 5. 上位

科 目	校 内 成 績					選 択 せ ず
	1(下位) ← 3(中位) → 5(上位)					
国 語	1	2	3	4	5	
世界史	1	2	3	4	5	
日本史	1	2	3	4	5	
地 理	1	2	3	4	5	
現代社会	1	2	3	4	5	
倫 理	1	2	3	4	5	
政治・経済	1	2	3	4	5	
数 学	1	2	3	4	5	
物 理	1	2	3	4	5	
化 学	1	2	3	4	5	
生 物	1	2	3	4	5	
地 学	1	2	3	4	5	
英 語	1	2	3	4	5	
総合成績	1	2	3	4	5	/

問3 以下に示すような知識や技能について、高校までの教育でどの程度身についたと思いますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. 全く身につかなかった
2. あまり身につかなかった
3. 多少身についた
4. とても身についた

項 目	高校までの教育			
	1(全く身につかなかった)← →4(とても身についた)			
① 基本的な公式や法則、事柄などを記憶し必要に応じて思い出す力【記憶】	1	2	3	4
② 言葉や他の記号（イラストなども含む）の意味を解釈する力【解釈】	1	2	3	4
③ 表・図・地図・グラフが読めること【読む】	1	2	3	4
④ 脈絡にあった表現、語彙、文法を正しく使うこと【使用】	1	2	3	4
⑤ 文章を要約すること【要約】	1	2	3	4
⑥ 表やグラフが書けること【書く】	1	2	3	4
⑦ プレゼンテーション（発表/アレンジ/ディスプレイすること）【発表】	1	2	3	4
⑧ まとまりのある長い文章を書く力【長文】	1	2	3	4
⑨ 自分の考えをわかりやすく説明できること【説明】	1	2	3	4
⑩ 物事を比較して客観的に評価できる力【評価】	1	2	3	4
⑪ 与えられた前提から結論を推論すること【推論】	1	2	3	4
⑫ 自分のアイデアを実現するための方策を講じる力【方策】	1	2	3	4
⑬ 仮説・仮定を立てること【仮説】	1	2	3	4
⑭ 他人の意見・行動に根拠のある批判ができること【批判】	1	2	3	4
⑮ 直面する状況に対して適切に判断することができる力【判断】	1	2	3	4
⑯ 必要な情報を探しだし整理する力【整理】	1	2	3	4

問4. 高校時代を振り返ってみて、勉強に対するあなたの態度はどのような様子でしたか。
 あてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. どちらとも言えない
4. やや当てはまる
5. 当てはまる

項 目	勉学の態度				
	1(当てはまらない)← →5(当てはまる)				
1. 学校から出された課題にはまじめに取り組んだ	1	2	3	4	5
2. 学校の受験指導に素直にしたがった	1	2	3	4	5
3. 受験科目以外のものはまじめに勉強しなかった	1	2	3	4	5
4. 学校の授業はまじめに聞いていた	1	2	3	4	5
5. 受験とは関係なく、関心や興味を持った科目を自分で勉強していた	1	2	3	4	5
6. 好きな本を読むなど、広い視野を身につけるために自分で授業科目以外の勉強をしていた	1	2	3	4	5
7. どうしてもやらなければならないこと以外、勉強する気にはなれなかった	1	2	3	4	5
8. 普段は勉強などせずに、テストの前になると急に勉強を始めた	1	2	3	4	5
9. 受験勉強は特にしなかった	1	2	3	4	5
10. 自ら主体的に意欲を持って学習した	1	2	3	4	5

【3 福井大学での勉学について】

問1. 以下のようなことがらについて、今、あなたはどのように感じていますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ややそう思う
5. そう思う

項 目	大学での勉学				
	1(そう思わない)← →5(そう思う)				
1. 授業はよく理解できる	1	2	3	4	5
2. 面白くて興味を持てる授業が多い	1	2	3	4	5
3. 大学での授業のやり方は、期待していたものと違う	1	2	3	4	5
4. 授業の内容は簡単すぎる	1	2	3	4	5
5. ほとんどの授業についていける自信がある	1	2	3	4	5
6. 全ての科目について努力して勉強している	1	2	3	4	5
7. 成績は気にせず、留年しない程度にのんびりとやりたい	1	2	3	4	5
8. よく勉強して、良好な成績で卒業したい	1	2	3	4	5
9. 将来、大学院に進学してみたい	1	2	3	4	5
10. 福井大学に入学して満足している	1	2	3	4	5

問2. 以下のようなことがらについて、今、あなたはどのように感じていますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ややそう思う
5. そう思う

項 目	大学での勉学				
	1(そう思わない)← →5(そう思う)				
1. 大学での友人関係はうまく行っている	1	2	3	4	5
2. 先生はよく面倒を見てくれる	1	2	3	4	5
3. 勉強に割く時間は十分に取れている	1	2	3	4	5
4. 勉強のことを聞くことができる友達が居る	1	2	3	4	5

5. 規則正しい生活を送っている	1	2	3	4	5
6. 自分の将来に希望をもっている	1	2	3	4	5
7. 自由になる時間は十分にある	1	2	3	4	5
8. 自由になるお金は十分にある	1	2	3	4	5
9. アルバイトで忙しい	1	2	3	4	5
10. 生活面で不便を感じる人が多い	1	2	3	4	5

問3. 現在、所属している学科についてどう思いますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

項 目	そう思 わない	あまりそう 思わない	ある程度 そう思う	そう思う
自分の性格にあっている	1	2	3	4
自分の興味・関心にあっている	1	2	3	4
自分の能力を生かすことができる	1	2	3	4
高校時代の得意科目を生かすことができる	1	2	3	4
希望する職業に就くことができる	1	2	3	4
自分の求めている生き方ができる	1	2	3	4
現在の専門を学んでいることに誇りに思う	1	2	3	4

問4. 大学の授業でわからない時、どうしていますか。(複数回答可)

1. 自分で調べている。
2. 友達に聞いている。
3. 大学の先生に聞いている。
4. そのままにしている。
5. その他 ()

問5. 大学生活に関する要望を自由に書いて下さい。

御協力、ありがとうございました。

平成 24 年度 新入生を対象とするアンケート

アドミッションセンター

このアンケートは本年度の新入生を対象に、

- (1) 高等学校での科目履修実態
- (2) 福井大学の受験に至った理由や経緯
- (3) 現時点での本学における勉学の状況や勉学についての考え方
- (4) 本学での学生生活の状況

を把握しようとするものです。福井大学ではこれまで、一般選抜（前期・後期）や推薦入学、さらに平成 13 年度からはアドミッション・オフィス（AO）入試など多様な形態の入学選抜を実施し、優秀かつ多様な能力を持った人材に広く門戸を開くよう努めています。

上記 4 つの情報は、次のような目的のために必要としています。

- (1) これらの選抜方法を正しく評価して、よりよい方法を工夫する。
- (2) 受験生の皆さんがよりよい志望校を選択できるように、大学に関するより豊かで、正確な情報を提供する。
- (3) 入学後により実りある大学生活を送ることができるよう支援する。

大学の活力は学生の皆さんの活動に負うところが大きいと考えられます。本アンケートの趣旨を理解して頂き、よりよい大学を実現するために、福井大学の新たな一員として、ご協力をお願いします。なお、本アンケートはすべて上に述べたような目的のために企画されたものであり、その他の目的に転用されることは一切ありません。みなさんのプライバシーは固くお守りします。

あなた自身について該当するものに○をつけるか、お答え下さい。

課程： 学校教育課程 地域科学課程

出身 府県： _____ 県・府 **出身高校：** _____ 高 校

卒業校の種類： 普通科 理数科 総合学科 工業系 商業系 農業系
その他 []

現浪： 現役 浪人（ 浪）， **居住形態：** 自宅 自宅外， **性別：** 男 女

合格した入学試験の種類：

一般(前期日程) 一般(後期日程) AO I 推薦 I 推薦 II その他 []
(AO・推薦の I はセンター試験を課さない、II は課す を表します)

【1 福井大学への受験について】

以下の設問に該当する項目番号に○を付けてください。

- 問1 福井大学に志願することを決めた時期はいつ頃ですか？
- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 高校入学前 | 2. 高校1年 |
| 3. 高校2年 | 4. 高校3年の4~8月 |
| 5. 高校3年の9月以降センター試験以前 | 6. 高校3年のセンター試験以降 |
| 7. 浪人時のセンター試験以前 | 8. 浪人時のセンター試験以降 |

- 問2 福井大学のアドミッションポリシーを知っていましたか？
1. 知っていた。 2. 知らなかった。

- 問3 問2. で「1. 知っていた。」と回答した人に質問します。
福井大学のアドミッションポリシーはどのような情報源から得られたものですか？
(複数回答可)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. オープンキャンパス | 2. 体験授業や公開講座 |
| 3. 高校での学部ガイダンス・出前講義 | 4. 進学説明会（高校以外） |
| 5. 大学公開資料（大学案内等） | 6. ホームページ |
| 7. 受験情報誌 | 8. 高校の先生の進路指導 |
| 9. 塾・予備校からの情報 | 10. その他（ ） |

- 問4 問2. で「1. 知っていた。」と回答した人に質問します。福井大学のアドミッションポリシーをどのように受け止めていますか？
各項目にあてはまる番号を 1つ選んで ○をつけて下さい。

項 目	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	ある程度そ う思う	非常にそう 思う
志望校を決める上で参考になる	1	2	3	4
表現は分かりやすい	1	2	3	4
難解な言葉	1	2	3	4
内容が分かりにくい	1	2	3	4
合致する生徒はいない	1	2	3	4

- 問5 本学では、高校生にもっとよく大学のことを知ることができるような様々な施策を講じています。進学先を選ぶ段階で実際に役立ったことがあるのはどれですか？
(複数回答可)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. オープンキャンパス | 2. 体験授業や公開講座 |
| 3. 高校での学部ガイダンス・出前講義 | 4. 進学説明会（高校以外） |
| 5. 大学公開資料（大学案内等） | 6. ホームページ |
| 7. 受験情報誌 | 8. 高校の先生の進路指導 |
| 9. 塾・予備校からの情報 | 10. その他（ ） |

問 6 大学受験の時に重視したことがらについて伺います。あなたは福井大学を選ぶ際に以下のことがらをどの程度重視しましたか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

項 目	重視 しなかった	あまり重視 しなかった	ある程度 重視した	重視した
1. 入学の難易度・偏差値【難易度】	1	2	3	4
2. 受験科目が少ないこと【受験科目】	1	2	3	4
3. 面接や内申書だけで入学できること【面接・内申書】	1	2	3	4
4. 大学の教育内容【教育内容】	1	2	3	4
5. 大学の研究内容【研究内容】	1	2	3	4
6. 取得できる資格【資格取得】	1	2	3	4
7. 入学金・授業料等が安いこと【入学金等】	1	2	3	4
8. 大学の社会的評価【評価】	1	2	3	4
9. 将来の職業との関連【職業との関連】	1	2	3	4
10. 大学の知名度【知名度】	1	2	3	4
11. 家庭の経済状況【経済状況】	1	2	3	4
12. 自分の興味関心【興味関心】	1	2	3	4
13. 受験科目の得意・不得意【得意・不得意】	1	2	3	4
14. センター試験の成績【センター試験】	1	2	3	4
15. 国立大学だということ【国立大学】	1	2	3	4
16. 親のすすめ【親】	1	2	3	4
17. 高校や予備校の先生のすすめ【先生】	1	2	3	4
18. 自宅から通えること【自宅】	1	2	3	4
19. 街の中にあること【立地条件】	1	2	3	4
20. 希望の学科【専門】	1	2	3	4
21. 地元の大学であること【地元】	1	2	3	4
22. 良い先生がいること【教授】	1	2	3	4
23. 設備が優れていること【設備】	1	2	3	4
24. 卒業生の就職状況【就職状況】	1	2	3	4

【2 高校時代の履修状況】

以下の設問に該当する項目番号に○を付けてください。

問1 以下に示す教科・科目について、高等学校で履修した科目をすべて教えてください。

(国語) 1. 国語(現代文) 2. 国語(古典)

(地歴) 1. 世界史A 2. 世界史B 3. 日本史A 4. 日本史B 5. 地理A
6. 地理B

(公民) 1. 現代社会 2. 倫理 3. 政治・経済

(数学) 1. 数学I 2. 数学II 3. 数学III 4. 数学A 5. 数学B 6. 数学C

(理科) 1. 理科基礎 2. 理科総合A 3. 理科総合B 4. 物理I 5. 物理II
6. 化学I 7. 化学II 8. 生物I 9. 生物II
10. 地学I 11. 地学II

(外国語) 1. 英語I 2. 英語II 3. オーラルコミュニケーション 4. リーディング
5. ライティング 6. 英語以外の外国語

問2 以下に示すような知識や技能について、高校までの教育でどの程度身についたと思いますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. 全く身につかなかった
2. あまり身につかなかった
3. 多少身についた
4. とても身についた

項 目	高校までの教育			
	1(全く身につかなかった)← →4(とても身についた)			
① 基本的な公式や法則、事柄などを記憶し必要に応じて思い出す力【記憶】	1	2	3	4
② 言葉や他の記号（イラストなども含む）の意味を解釈する力【解釈】	1	2	3	4
③ 表・図・地図・グラフが読めること【読む】	1	2	3	4
④ 脈絡にあった表現、語彙、文法を正しく使うこと【使用】	1	2	3	4
⑤ 文章を要約すること【要約】	1	2	3	4
⑥ 表やグラフが書けること【書く】	1	2	3	4
⑦ プレゼンテーション（発表/アレンジ/ディスプレイすること）【発表】	1	2	3	4
⑧ まとまりのある長い文章を書く力【長文】	1	2	3	4
⑨ 自分の考えをわかりやすく説明できること【説明】	1	2	3	4
⑩ 物事を比較して客観的に評価できる力【評価】	1	2	3	4
⑪ 与えられた前提から結論を推論すること【推論】	1	2	3	4
⑫ 自分のアイデアを実現するための方策を講じる力【方策】	1	2	3	4
⑬ 仮説・仮定を立てること【仮説】	1	2	3	4
⑭ 他人の意見・行動に根拠のある批判ができること【批判】	1	2	3	4
⑮ 直面する状況に対して適切に判断することができる力【判断】	1	2	3	4
⑯ 必要な情報を探しだし整理する力【整理】	1	2	3	4

問 3. 高校時代を振り返ってみて、勉強に対するあなたの態度はどのような様子でしたか。
あてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. どちらとも言えない
4. やや当てはまる
5. 当てはまる

項 目	勉学の態度				
	1(当てはまらない)← →5(当てはまる)				
1. 学校から出された課題にはまじめに取り組んだ	1	2	3	4	5
2. 学校の受験指導に素直にしたがった	1	2	3	4	5
3. 受験科目以外のものはまじめに勉強しなかった	1	2	3	4	5
4. 学校の授業はまじめに聞いていた	1	2	3	4	5
5. 受験とは関係なく、関心や興味を持った科目を自分で勉強していた	1	2	3	4	5
6. 好きな本を読むなど、広い視野を身につけるために自分で授業科目以外の勉強をしていた	1	2	3	4	5
7. どうしてもやらなければならないこと以外、勉強する気にはなれなかった	1	2	3	4	5
8. 普段は勉強などせずに、テストの前になると急に勉強を始めた	1	2	3	4	5
9. 受験勉強は特にしなかった	1	2	3	4	5
10. 自ら主体的に意欲を持って学習した	1	2	3	4	5

【3 福井大学での勉学について】

問1. 以下のようなことがらについて、今、あなたはどのように感じていますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ややそう思う
5. そう思う

項 目	大学での勉学				
	1(そう思わない)← →5(そう思う)				
1. 授業はよく理解できる	1	2	3	4	5
2. 面白くて興味を持てる授業が多い	1	2	3	4	5
3. 大学での授業のやり方は、期待していたものと違う	1	2	3	4	5
4. 授業の内容は簡単すぎる	1	2	3	4	5
5. ほとんどの授業についていける自信がある	1	2	3	4	5
6. 全ての科目について努力して勉強している	1	2	3	4	5
7. 成績は気にせず、留年しない程度にのんびりとやりたい	1	2	3	4	5
8. よく勉強して、良好な成績で卒業したい	1	2	3	4	5
9. 将来、大学院に進学してみたい	1	2	3	4	5
10. 福井大学に入学して満足している	1	2	3	4	5

問2. 以下のようなことがらについて、今、あなたはどのように感じていますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ややそう思う
5. そう思う

項 目	大学での勉学				
	1(そう思わない)← →5(そう思う)				
1. 大学での友人関係はうまく行っている	1	2	3	4	5
2. 先生はよく面倒を見てくれる	1	2	3	4	5
3. 勉強に割く時間は十分に取れている	1	2	3	4	5
4. 勉強のことを聞くことができる友達が居る	1	2	3	4	5

5. 規則正しい生活を送っている	1	2	3	4	5
6. 自分の将来に希望をもっている	1	2	3	4	5
7. 自由になる時間は十分にある	1	2	3	4	5
8. 自由になるお金は十分にある	1	2	3	4	5
9. アルバイトで忙しい	1	2	3	4	5
10. 生活面で不便を感じる人が多い	1	2	3	4	5

問3. 現在、所属している学科についてどう思いますか。各項目についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけて下さい。

項 目	そう思 わない	あまりそう 思わない	ある程度 そう思う	そう思う
自分の性格にあっている	1	2	3	4
自分の興味・関心にあっている	1	2	3	4
自分の能力を生かすことができる	1	2	3	4
高校時代の得意科目を生かすことができる	1	2	3	4
希望する職業に就くことができる	1	2	3	4
自分の求めている生き方ができる	1	2	3	4
現在の専門を学んでいることに誇りに思う	1	2	3	4

問4. 大学の授業でわからない時、どうしていますか。(複数回答可)

1. 自分で調べている。
2. 友達に聞いている。
3. 大学の先生に聞いている。
4. そのままにしている。
5. その他 ()

問5. 大学生活に関する要望を自由に書いて下さい。

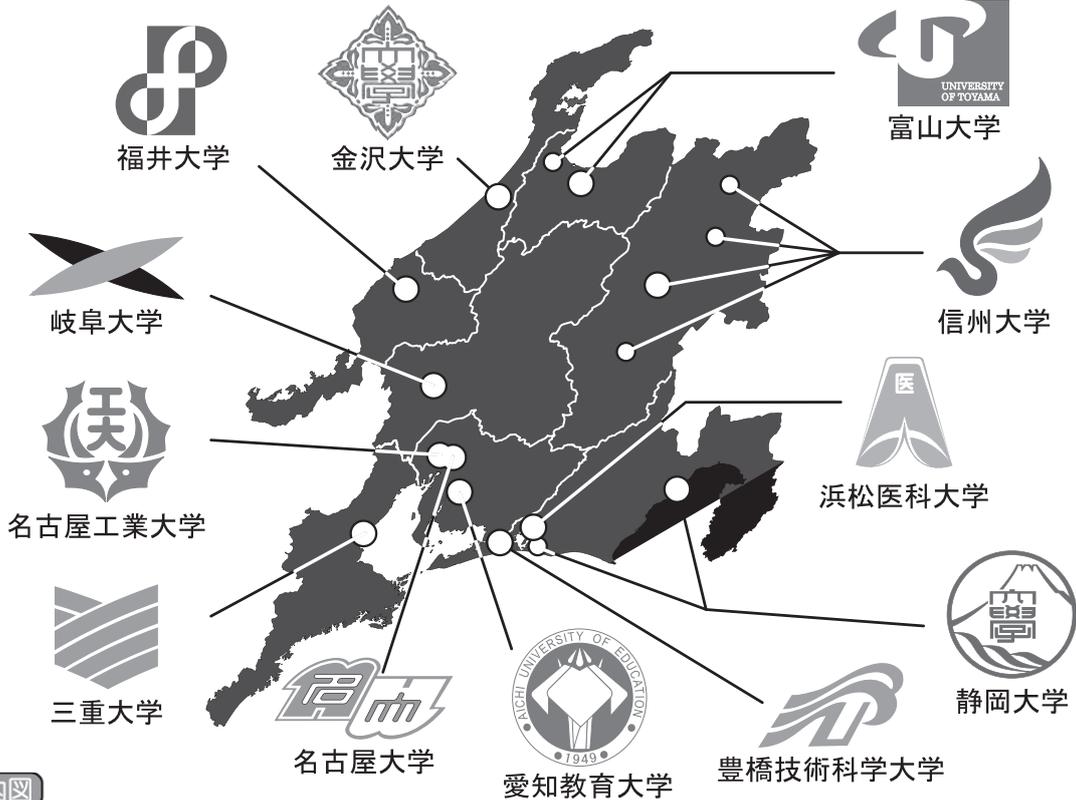
御協力、ありがとうございました。

東北
海陸
信州

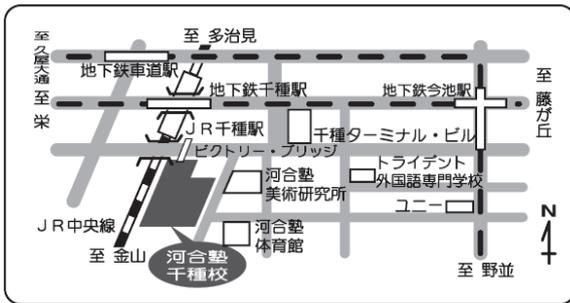
地区 国立12大学合同進学説明会

9/26 (日) 名古屋 (河合塾千種校)

主催: 国立12大学入試広報連絡会



会場案内図



JR千種駅・地下鉄千種駅・市バス千種駅前 各徒歩1分

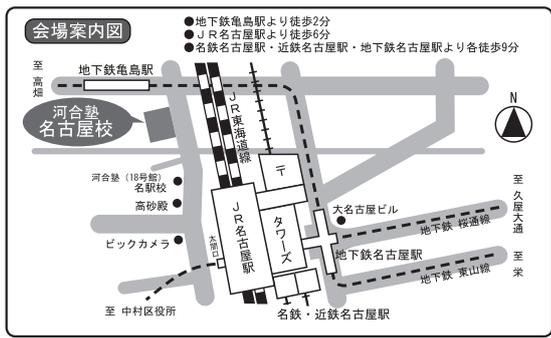
時間 : 10:00~16:30
 内容 : 講演・大学紹介 10:40-15:45
 個別相談 10:00-16:30
 備考 : 入場無料, 予約不要

携帯はこちら

詳細は国立12大学のHPで!
<http://www.daigaku-jp.org/12daigaku/>



予告: 国立12大学合同願書配布会 11/27(土)
 河合塾名古屋校16号館



※詳細は参加大学入試課にお問い合わせください。

- 愛知教育大学: 0566-26-2202
- 金沢大学: 076-264-5169
- 岐阜大学: 058-293-2157
- 静岡大学: 054-238-4464
- 信州大学: 0263-37-3450
- 富山大学: 076-445-6100
- 豊橋技術科学大学: 0532-44-6581
- 名古屋大学: 052-789-5765
- 名古屋工業大学: 052-735-5083
- 浜松医科大学: 053-435-2205
- 福井大学: 0776-27-9927
- 三重大学: 059-231-9063

※この説明会は参加大学の主催で行っています。



国立12大学

最後の願書配布会

日時 1月22日(土) 13:00~16:30

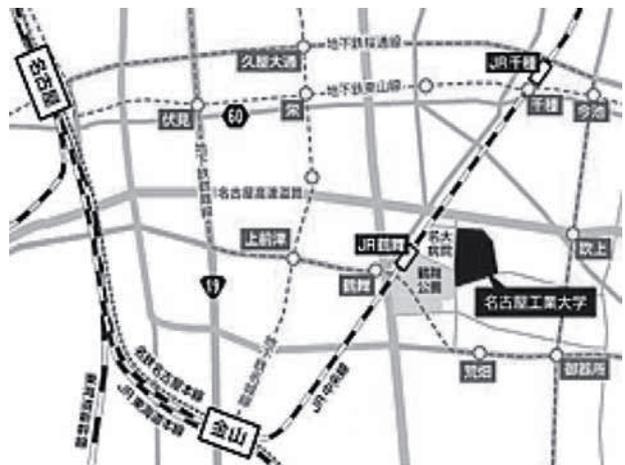
場所 名古屋工業大学講堂

名古屋で、国立12大学の願書を一度に入手することができる最後のチャンスです。是非、ご利用ください！

愛知教育大学，金沢大学，岐阜大学，静岡大学，信州大学，名古屋工業大学，
富山大学，豊橋技術科学大学，浜松医科大学，福井大学，三重大学

名古屋大学は名工大から近いので，下見も兼ねて直接取りに行ってください。
当日は土曜日ですが，守衛室で受け取ることができます。

事前調査協力の御願い
当日用意する願書の数を把握したいので
下のQRコードにアクセスしてください！



<問い合わせ先>

名古屋工業大学入試室 Tel 052-735-5083

暖房があまり効いていない場所なので，暖かい服装で来てください。

入場無料

東海
北陸
信州

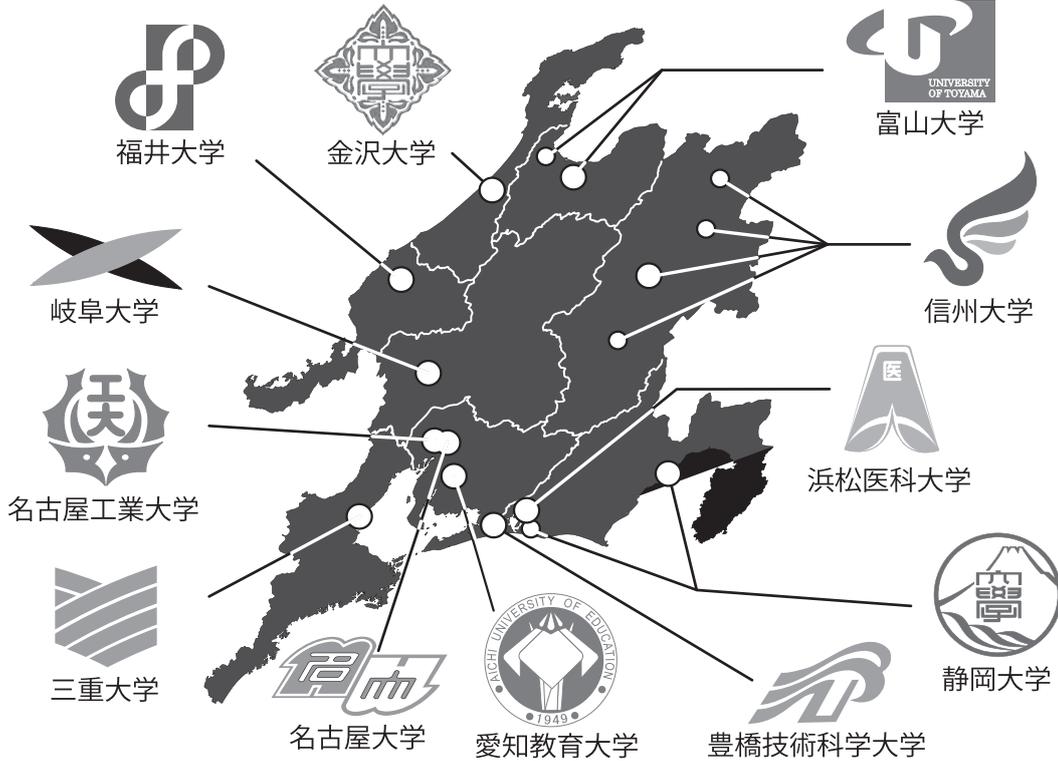
地区

国立12大学合同進学説明会

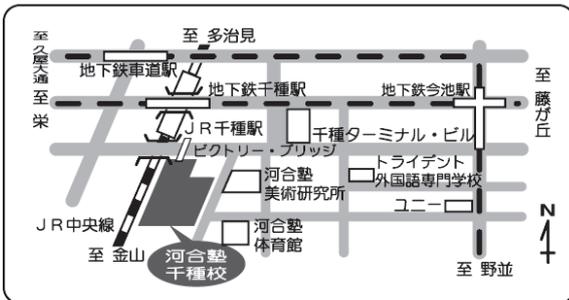
9/25(日)名古屋(河合塾千種校) 10:00~16:30

入場無料,予約不要

主催:国立12大学入試広報連絡会



会場案内図



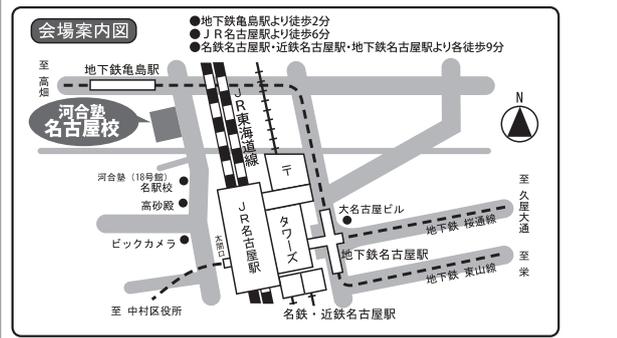
JR千種駅・地下鉄千種駅・市バス千種駅前 各徒歩1分

内容:大学紹介は上の地図の順で行います
 大学紹介 1 10:30 - 12:20 (名古屋大学から右回り)
 基調講演「理系のための学科選び」12:40 - 13:20
 大学紹介 2 13:20-15:40 (信州大学から右回り)
 個別相談 10:00-16:30

詳細は国立12大学のHPで!
<http://www.daigaku-jp.org/12daigaku/>

「国立12大学」で検索!

予告:国立12大学合同願書配布会 12/03(土)
 河合塾名古屋校16号館



12/03に願書配布会を河合塾名古屋校16号館で開催

※詳細は参加大学入試課にお問い合わせください。

- 愛知教育大学:0566-26-2202
- 金沢大学:076-264-5169
- 岐阜大学:058-293-2157
- 静岡大学:054-238-4464
- 信州大学:0263-37-3450
- 富山大学:076-445-6100
- 豊橋技術科学大学:0532-44-6581
- 名古屋大学:052-789-5765
- 名古屋工業大学:052-735-5083
- 浜松医科大学:053-435-2205
- 福井大学:0776-27-9927
- 三重大学:059-231-9063

※この説明会は参加大学の主催で行っています。



C57-242

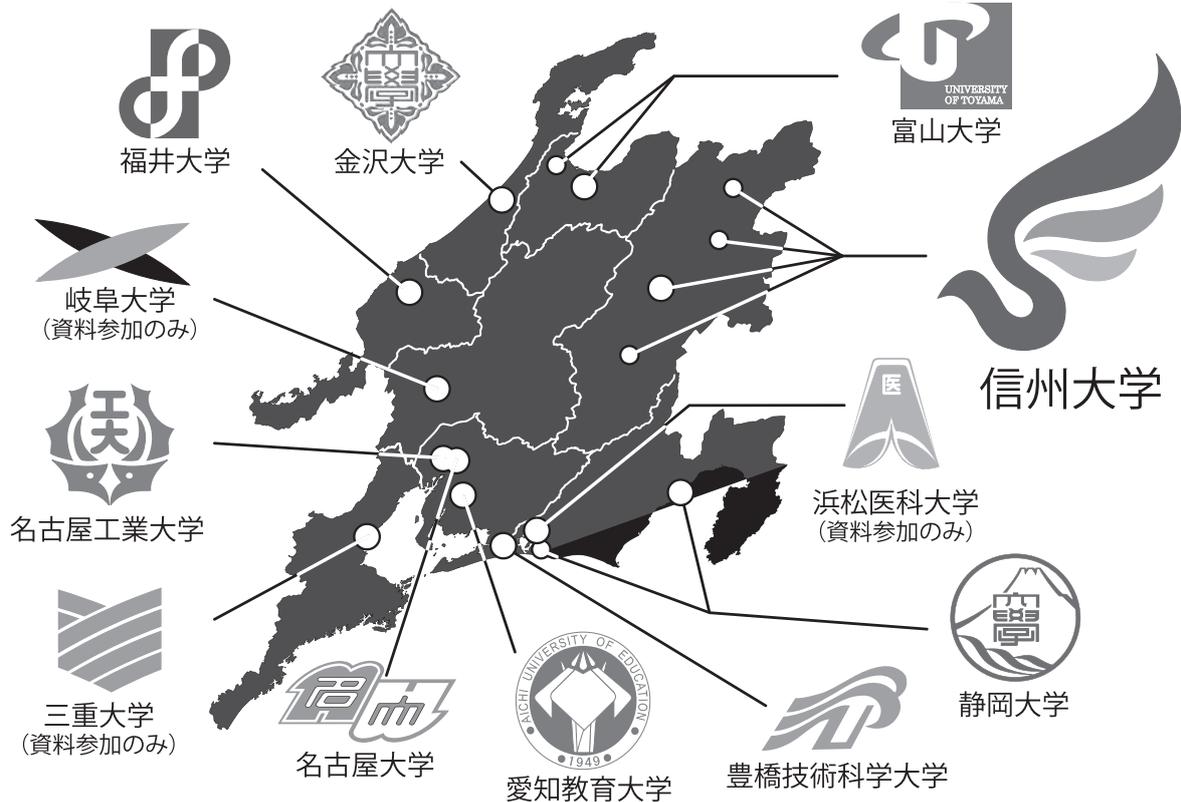
東海
北陸
信州

地区

国立12大学合同進学説明会

10/2(日)松本(信州大学)

主催：国立12大学入試広報連絡会



会場：信州大学松本キャンパス
人文学部・経済学部新棟

時間：11:30～15:30

対象：高校生(1・2年生も可),
保護者, 高校教諭等

内容：基調講演・個別相談・資料配付

備考：入場無料, 予約不要

基調講演等

12:00～12:30 「信州大学への招待」

信州大学 アドミッションセンター広報部門長 今井章

12:30～13:10 「理系のための学科選び」

名古屋工業大学 アドミッション・オフィス長 高木繁

詳細は国立12大学のHPで!

<http://www.daigaku-jp.org/12daigaku/>



※詳細は参加大学入試課にお問い合わせください。

愛知教育大学:0566-26-2202

金沢大学:076-264-5169

岐阜大学:058-293-2157

静岡大学:054-238-4464

信州大学:0263-37-3450

富山大学:076-445-6100

豊橋技術科学大学:0532-44-6583

名古屋大学:052-789-5765

名古屋工業大学:052-735-5083

浜松医科大学:053-435-2205

福井大学:0776-27-9927

三重大学:059-231-9063

※この説明会は参加大学の主催で行っています。



国立12大学

最後の願書配布会

日時 1月27日(日) 13:00~16:00

場所 名古屋工業大学 講堂 (正門からすぐ)

名古屋で、名古屋大学を除く国立12大学の願書を一度に入手することができる最後のチャンスです。是非、ご利用ください！

愛知教育大学、金沢大学、岐阜大学、静岡大学、信州大学、名古屋工業大学、富山大学、豊橋技術科学大学、浜松医科大学、福井大学、三重大学個別相談コーナーを設置する大学もあります。詳細はHPで確認してください。

<http://www.daigaku-jp.org/> (「国立12大学」で検索)

名古屋大学は名工大から近いので、下見も兼ねて直接取りに行ってください。当日は日曜日ですが、「バス停南の総合案内所」で受け取ることができます。

事前調査協力の御願い
当日用意する願書の数を把握したいので
下のQRコードにアクセスしてください！



PCの方はこちら <http://takagi5.kyy.nitech.ac.jp/cgi-bin/qnaire1.cgi>

<問い合わせ先>

名古屋工業大学入試室 Tel 052-735-5083

風邪など引かないように、暖かい服装で来てください。

入場無料

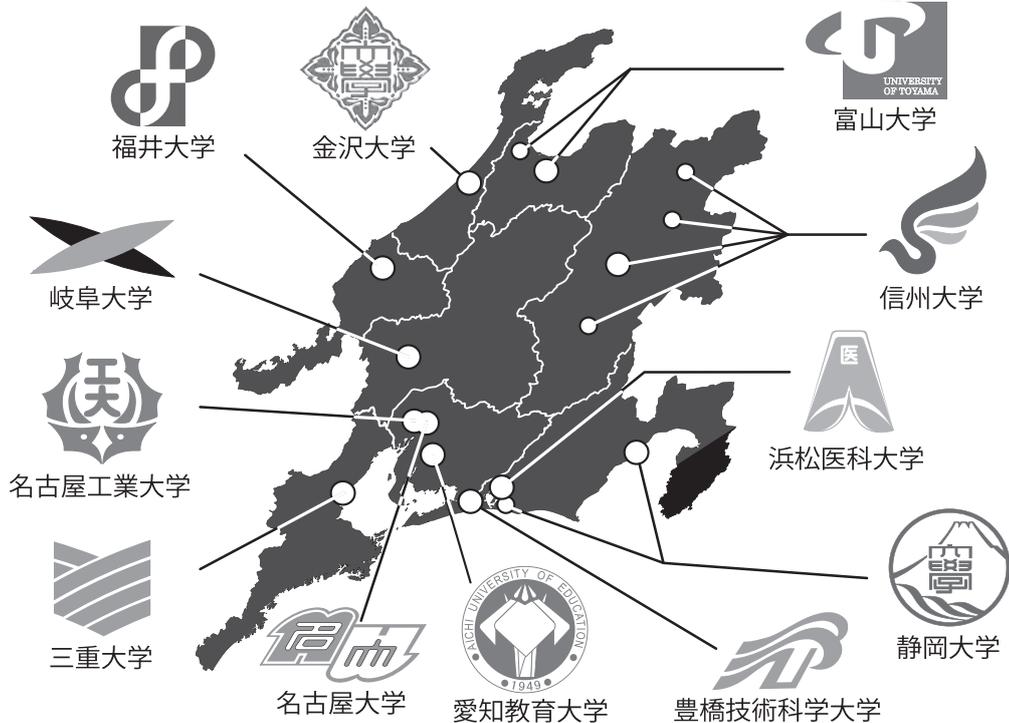
東海
北陸
信州

地区 国立12大学合同進学説明会

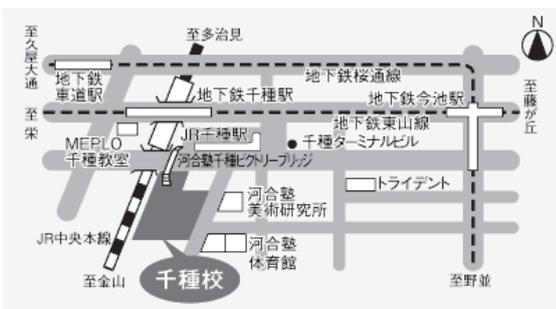
9/30(日)名古屋(河合塾千種校) 10:00~16:30

入場無料,予約不要

主催:国立12大学入試広報連絡会



会場案内図



【プログラム】

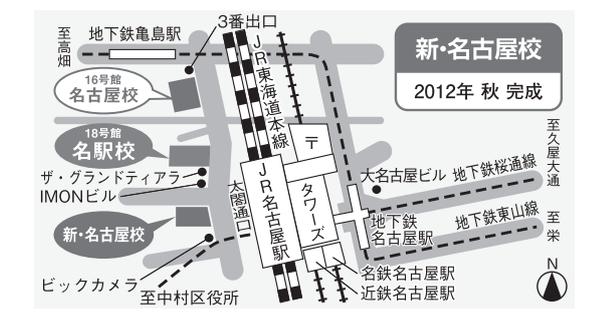
- 10:00-16:30 各大学個別相談・資料配付
 - 10:40-12:10 大学紹介(1) 名古屋, 三重, 岐阜, 福井
 - 12:30-13:10 基調講演「理系のための学科選び」名工大
 - 13:30-14:50 大学紹介(2) 金沢, 富山, 信州, 浜松医科,
 - 15:00-16:00 大学紹介(3) 静岡, 豊橋技術科学, 愛知教育
- ※大学紹介は上にした順で各大学約20分ずつ
(名古屋大学は30分, よって三重大学は11:10より)

詳細は国立12大学のHPで!

<http://www.daigaku-jp.org/12daigaku/>

12月1日(土)に願書配布会を河合塾新・名古屋校で開催

予告:国立12大学合同願書配布会 12/01(土)
河合塾新・名古屋校 13:00~16:00



「国立12大学」で検索!

※詳細は参加大学入試課にお問い合わせください。

- 愛知教育大学:0566-26-2202
- 金沢大学:076-264-5169
- 岐阜大学:058-293-2157
- 静岡大学:054-238-4464
- 信州大学:0263-37-3450
- 富山大学:076-445-6100
- 豊橋技術科学大学:0532-44-6583
- 名古屋大学:052-789-5765
- 名古屋工業大学:052-735-5083
- 浜松医科大学:053-435-2205
- 福井大学:0776-27-9927
- 三重大学:059-231-9063

※この説明会は参加大学の主催で行っています。



平成25年度入試

北陸国立3大学 理工系進学相談会

福井大学 / 金沢大学 / 富山大学
特別参加：名古屋工業大学

科学技術で地球の未来を拓く。

11月13日(土)

13:00~16:00

会場：秀英予備校 名古屋校 (7F・8F)

◎会場へのアクセス：JR千種駅より徒歩1分。



開催内容

- 大学個別相談コーナー=13:00~16:00
- 願書・資料配布コーナー=13:00~16:00
- ★大学別理工系学部紹介プレゼンテーション
 - ①14:00~14:20 福井大学
 - ②14:30~14:50 金沢大学
 - ③15:00~15:20 富山大学
- 理系のための学科選び(北陸版) 協力：名古屋工業大学 15:30~16:00
- センター入試対策講座(数学)=13:10~14:00
「センター数学攻略法~8割突破のために~」
講師：秀英予備校 吉田尚史先生

◎主催：北陸国立3大学 ◎お問い合わせ先：福井大学アドミッションセンター TEL.0776-27-9927

福井大学・金沢大学・富山大学

国立大学 合同相談会


 入場無料

inメルパルク京都

開催日時

2011年11月12日(土) 13:00 ~ 16:00

会場 メルパルク京都

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676番13

4年間、北陸で学ぼう。
近畿地方からもアクセスが良い北陸地方には、
学びの環境がすべて整っている国立大学があります。

講演

1 『北陸で学ぶ魅力』について

 13:10~13:30 ◆福井大学 大久保貞 先生
「就職率全国第一位の取り組み」

 13:40~14:00 ◆金沢大学 ○○○○ 先生
「演題未定」

 14:10~14:40 ◆富山大学 船橋伸一 先生
「演題未定」

2 進路指導の先生や保護者の方へ

 14:50~15:20 ◆講師 ○○○○ (株式会社大学通信)
「今年の入試はどうか？」

イベント

- スクール形式による入試相談
※各大学の募集要項も配布します

同時開催

- 関西出身の現役大学生と
語ろうのコーナー

入試相談ではできない一人暮らしのこと、
食事のこと、アルバイトのこと…。
色々聞いてみよう。

 京都駅から各県への
アクセス
 ※特急利用時の最短時間

京都	→	福井	…1時間28分
京都	→	金沢	…2時間18分
京都	→	富山	…3時間09分

来場者プレゼント (使い方もミニ講座つき!!)
 来場者全員に節電や再生可能エネルギーの
LEDと太陽電池をプレゼント。

お問い合わせ

事務局/株式会社大学通信 〒102-0084 東京都千代田区二番町11-7 住友不動産二番町ビル1階 TEL.01-2345-6789

協力/有限会社メディアックス 〒604-8112 京都市中京区柳馬場通 六角上る榎屋町93-1 六角アーバンリス504 TEL.075-708-8139

高校生全学年対象
[保護者の方もお来場ください]

入試要項を配布します

進学相談会 in 京都

4大学合同

金沢大学・富山大学・福井大学・石川県立大学

入場無料

講演 入退場自由

1 「北陸で学ぶ魅力」について

- 12:10~12:30「金沢大学(仮)」
- 12:40~13:00「富山大学(仮)」
- 13:10~13:30「福井大学(仮)」
- 13:40~14:00「石川県立大学(仮)」

2 進路指導の先生や保護者の方へ

- 14:10~14:40「国公立大学で学ぶ意義」
講師 / 安田 賢治 (株式会社大学通信)

イベント

ブース形式による
入試相談
※各大学の募集要項も配布します

同時開催

関西出身の現役大学生
と語るコーナー

入試相談ではできない一人暮らしのこと、
食事のこと、アルバイトのこと…。
色々聞いてみよう。



京都駅から 各県へのアクセス

- 福井…1時間28分
- 金沢…2時間18分
- 富山…3時間09分

※特急利用時の最長時間

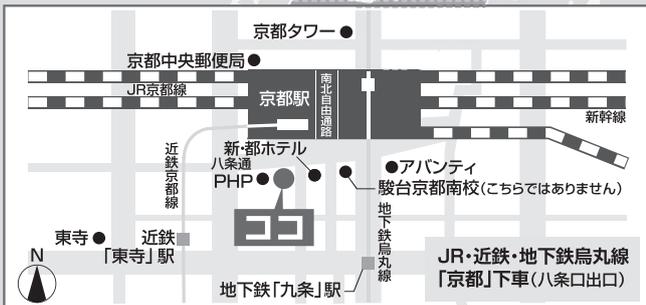
4年間、北陸で学ぼう。

近畿地方からもアクセスが良い北陸地方には、
学びの環境がすべて整っている国公立大学があります。

開催日時

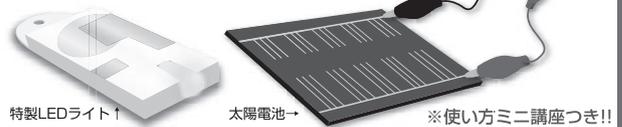
2012年11月11日(日) 11:00~16:00

会場 駿台 京都駅前校 〒601-8411 京都府京都市南区西九条北ノ内町13-1 京都南校ではありません



来場者プレゼント 先着100名

来場者の方に省エネLEDライトと
再生可能エネルギーを体感できる
太陽電池をプレゼント!



主催 北陸4国公立大学(福井大学・金沢大学・石川県立大学・富山大学)

お問い合わせ

福井大学アドミッションセンター TEL.0776-27-8644
事務局 / 株式会社大学通信 TEL.03-3515-3591 協力 / 有限会社メディアックス TEL.075-708-8139

はじめに

この冊子は平成 22 年度の高大連携事業「テーマ：プラスチック成形加工の基礎を学ぶ」の報告書である。

昨今、高校生の「理科離れ」や「学力低下」の懸念が様々な場面で指摘されているなか、文部科学省は 2002 年度より推進する科学技術・理科、数学教育を充実させるため、「科学技術・理科大好きプラン」の一環として、中学、高校等と大学、研究機関等との連携により先進的な科学技術・理科、数学教育等を実施するための高大連携事業を行っている。この事業は高校生の科学技術・理科、数学に関する興味・関心と知的好奇心などを一層高める機会を充実するため、大学と高校の連携の在り方について調査・研究することと、同時に高校生の理科離れを食い止めることを目的として実施している。

現在の高等教育にとって多様な指向を持つ高校生の高校教育から大学教育への円滑な移行は、大変重要なテーマである。そのため積極的に高大連携に取り組んでいる大学が増えている。高大連携のメリットは、高校生に大学の教育や研究などの情報や望ましい学生像を大学側が積極的にアピールできることである。これまでの高大連携活動は単発なものが多く、一時的な刺激になっても恒常的なものにはなっていないのが現状である。

そこで、福井大学アドミッションセンターが中心となって、これまでに福井大学工学部及び同アドミッションセンターの教員で構成される研究組織が、学術・地域交流事業の一環として長期的視野にたった新しい形の高大連携システム構築のための基礎研究を行なっている。

本研究のねらいは高校生が大学を 3 回以上訪問し、研究テーマについての講義、実験、研究成果発表などを通して日常の学習意欲を喚起し、自ら学ぶ力を育成・支援することである。この高大連携活動の成果に対し、この活動に関係する業務に直接携わる関係者をはじめ、中等教育・高等教育に関わる方々に広く関心を持っていただき、本事業の成果をそれぞれの教育現場で活用していただけることを期待している。

研究代表者： 大久保 貢
(福井大学アドミッションセンター・教授)

研究組織

研究代表者：大久保 貢 (福井大学アドミッションセンター・教授)

研究分担者：田上 秀一 (福井大学大学院工学研究科・准教授)

研究協力者：堀澤信介 (福井大学大学院工学研究科博士前期課程 2年)
鈴木達也 (福井大学大学院工学研究科博士前期課程 2年)
上田久偉 (福井大学大学院工学研究科博士前期課程 1年)
鈴木健夫 (福井大学大学院工学研究科博士前期課程 1年)
辻 智司 (福井大学大学院工学研究科博士前期課程 1年)
巽 伸明 (福井大学工学部材料開発工学科 4年)

1. 目的

福井大学では高校教育の多様化に伴い、積極的に高大連携活動に取り組んでいる。これまでの高校との連携は、出張講義、大学体験入学（1～2日間）、大学のオープンキャンパスへの高校生の参加など、様々な試みを行っている。しかしながら、これらの試みは一度きり、または単発なことも多く、一時的な刺激になっても恒常的なものにはなっていないのが現状である。高校側の要望としては、単発でなく長期的視野にたって連携できないかとか、高校生に大学の専門教育の体験入学（例えば研究室への体験入学）をさせたいとの意見が多かった。

そこで、高大連携事業は以下の①～③のねらいで実施した。

① 福井大学の社会貢献の一環として県内および近隣府県の高校と連携し、理科離れの防止と高校と大学の連携の在り方を調査・研究すること。② プラスチック成形加工技術の現状などを講義および実験などを通して理解し、しかも問題解決能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力などを育成・支援する。また、この活動を通して高校生が大学での研究を理解することにより、高校生の学問への興味を喚起し、日頃の学習意欲を高め、日常生活でのプラスチック成形加工技術との関わりを体験してもらうこと。③実験などのサポートとして6名の大学生・大学院生を活用する。ティーチングアシスタントとして大学生・大学院生を活用した場合、高校生にとっても大学生・大学院生にとってもそれぞれメリットが生じるのであれば、それを試みる価値があるのでないかと考える。これは高大連携活動の新しい方法論の創出を目指して高校生、大学生・大学院生、双方にとっていかに高い教育効果を生むかについて検討すること。

以上のように、高大連携を通して高校生に学問に対するモチベーションの向上が期待でき、しかも高校生や高校教諭に大学での教育や研究の内容を示し、

フィードバックを得ることは高校と大学における教育の連携に有益と考える。

本研究は、小規模で実践的な高大連携活動の試みでありながら、大規模に実施された場合にも効果ある方法論を検討する試みである。

2. 研究テーマ・参加高校

- ◎ 研究テーマ：「プラスチック成形加工の基礎を学ぶ」
- ◎ 協力高校：静岡県立吉原工業高校、愛知県立一宮南高校、岐阜県立海津明誠高校、敦賀気比高校（福井）
- ◎ 協力研究室：福井大学工学部 田上研究室

3. 研究方法

1 日目 : 2010 年 9 月 11 日 10:30~16:00

① テーマに関する講義

この学習内容は「プラスチック成形加工」に関する講義や実験内容について説明し、実際に 5 つのテーマの実験を体験した。本講座の第 1 回目前半は、プラスチック材料ならびにプラスチック成形加工に関する基礎的な内容の講義を行った。後半は 5 つのグループに分れ、各テーマの実験概要を説明した。5 つの実験テーマについては下記に示す。その後、実験計画を立てて、サンプル成形の試作を行った。この時、T A が実験補助を行った。

実験テーマ

「プラスチック成形加工」に関する実験テーマは以下の 5 テーマである。

<テーマ 1>

プラスチックのリサイクル回数と製品の強度の関係

<テーマ 2>

プラスチックの種類および成形温度と製品の強度の関係

<テーマ 3>

プラスチックの種類とその溶融体の流動現象との関係

<テーマ4>

射出成形実習 優れた射出成形品をつくるには

<テーマ5>

二種類のプラスチック混合物の引張特性

* 実験テーマを5テーマにて実施することのメリット

高大連携実践終了後、「福井大学元気プロジェクトまつり」にて成果発表会を予定している。そこで、「プラスチック成形加工」に関する幅広いテーマで実験することによって、参加者のみならず参加できなかった生徒にもプラスチック成形加工に関して幅広くしかも深く理解できることが期待できる。

2日目 : 2010年9月18日 10:30~16:00

② プラスチック成形加工に関する実験

第2回目は「プラスチック成形加工」に関する5つのテーマの実験を実施した。(テーマ1) プラスチックのリサイクル回数と製品の強度の関係。(テーマ2) プラスチックの種類および成形温度と製品の強度の関係。(テーマ3) プラスチックの種類とその溶融体の流動現象との関係。(テーマ4) 射出成形実習 優れた射出成形品をつくるには。(テーマ5) 二種類のプラスチック混合物の引張特性。これらの実験を実施することにより、プラスチック成形加工の仕組みを理解した。TAが各グループに張り付き、実験補助を行った。各実験テーマの問題点を生徒に示して、その問題点に対してどのようにアプローチして解決するかを講師やTAが実験装置を使用して実験を支援した。これらの実験により問題解決能力や論理的思考力、講師やTAとのコミュニケーション能力などを育成した。

3日目 : 2010年9月25日 10:30~16:00

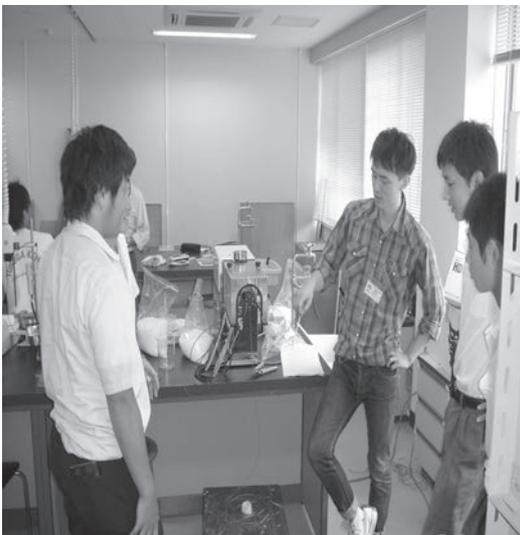
③ プラスチック成形加工の実験とその成果発表会

第3回目は「プラスチック成形加工」に関する実験結果をまとめ、グループ毎に実験成果の発表を行った。3回目の前半は、実験結果をまとめ発表用のパワーポイントの作成を行った。パワーポイント作成にはTAが指導した。後半は、成果発表会を行い、生徒の発表に対し大学教員、TA、高校教員によりコンサルテーションを行った。これにより問題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、文章表現力などを育成した。

講義の様子



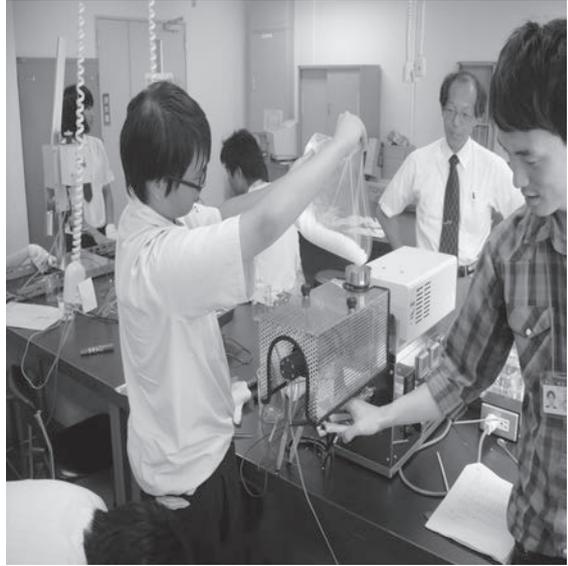
T A（大学生・大学院生）による支援の様子



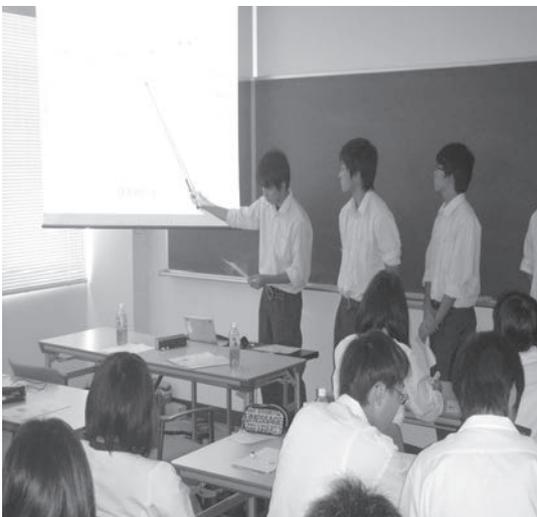


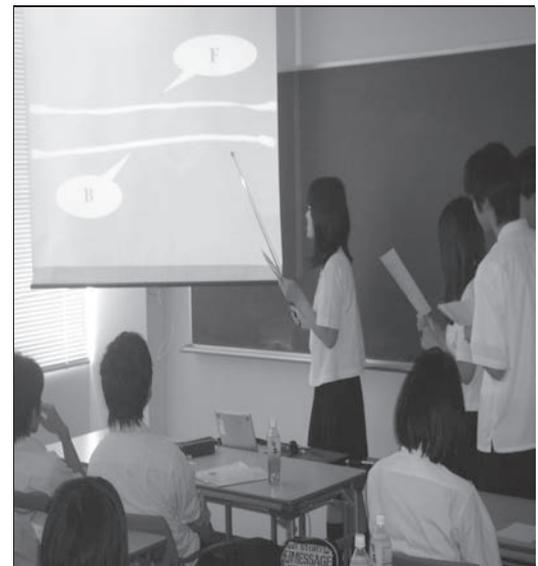
実験の様子





成果発表会





【高大連携活動の成果と今後の課題】

本研究ではこれまでの高大連携活動で実践した経験を基に、福井県内外の高校教員と福井大学の教員との連携により、「学びの基盤」を育てる高大接続教育を創造する課題探求型の実践を行った。この実践を通して人材育成に対する学習支援の構築を目指した。

【研究の学術的背景】

福井大学に入学する学生の最近の傾向は、学士課程における勉学の基盤的素養であると考えられる「学びの基盤」である「学ぶ意欲」「主体的学びの姿勢」「粘り強く考える力」に大きな問題を抱えている。この傾向は学士課程における学びに悪循環をもたらしている。

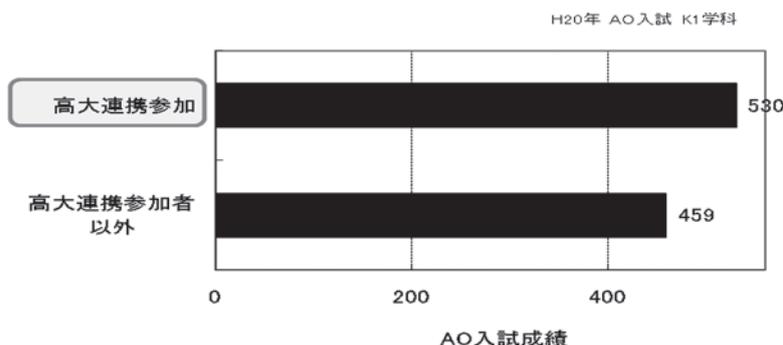
福井大学工学部は、平成16年度から「創造力と実現力を体感する主体的グループ活動を通じた能力育成」を人材育成目標に掲げ、「学際実験・実習」を実践している。この取組では大学入学時から卒業研究に至るまで継続的に学際的・総合的テーマに関する学生主体の共同研究活動を実施している。このプログラムを通じて、問題提示/問題解決能力、自主性、実践的能力といった従来型の授業では得難い能力を修得している。

しかし、初年次からこうした取組を開始しても教育目標を達成するには時間的に苦しいのが実情である。従って、高校教育段階で少なくとも「学びの基盤」である「学ぶ意欲」「主体的学びの姿勢」「粘り強く考える力」を付けてほしい、との声が学内から出ている。

そこで、本研究ではこれまで工業高校と連携して実践した経験をもとに、高校に対して福井大学が「学びの基盤」を身につける等の学習支援を行う。これまでの高大連携活動の成果として明確な目的意識を持った学生が入学している。これらの高大連携活動に参加した学生のAO入試成績は【グラフ1】のような成績であった。

高校独自の取組でなく、高校と大学が連携して、この課題研究を実践することにより、高校生に「学ぶ意欲」「主体的学びの姿勢」「粘り強く考える力」を付けることができる。このことから入学後の「学際実験・実習」プログラムに繋げることができる考える。

【グラフ1】



さて、今回の高大連携活動の第 1 日目の「テーマに関する講義」から最後の「研究成果発表会」まで実施した結果、「**学びの意欲**」について参加した高校生の約 8 割が、「今まで以上に勉強しようと思った」や「自らチャレンジしていく意欲がわいた」と感じており、参加した生徒の学習意欲向上になったことが分かった。また、「**主体的学びの姿勢**」については、実施前は約 2 割の生徒が理系（工学系）の課題（問題点）について自分で調べていると回答していましたが、実施後は約 7 割の生徒が自分で調べるようになったことが明らかになった。これにより日頃の学習意欲を喚起し、自ら学ぶ力を育成・支援することができたと考える。高校までの教育（受け身の教育：Teaching）から大学での教育・研究（主体的に自ら問題を探し解決すること：Learning）への橋渡しが少しでもできたなら嬉しいことである。

そしてこの高大連携活動により知的刺激を与え、しかもチャレンジ精神を喚起したこともわかった。生徒同士のコミュニケーション能力について約 9 割の生徒が、また問題解決能力についても約 8 割の生徒が、またプレゼンテーション能力については、約 7 割の生徒が習得できたことがわかった。この高大連携活動において知識や受験学力などの「見える学力」でなく、問題解決能力や学習意欲といった「**見えない学力**」を育成・支援できたことは本講座の成果でないかと考える。

また、TAとして大学生・大学院生を導入した教育的効果については、大きな成果があった。大学では教えられる受け身の立場にある大学院生にとって、自分の専門的技術や知識を活かして高校生に教える立場になり、これまでに体験したことのない貴重な経験をした。そこで、大学生・大学院生は多くのことを学んだことがわかった。それは間違ったことを教えてならないという緊張感や高校生にいかにわかりやすく説明するにはどうすれば良いのかという責任感などが動機になり、自分自身の専門を確実に学び直し、しかも、高校生との会話によりコミュニケーション能力の大切さを感じ取ったことである。これらの経験は日頃の大学生・大学院生活（大学での教育や研究）では決して得られないものを得たと考える。これは大学生・大学院生に対する教育であり、高大連携を通して得られた大学側の大きな成果である。以上のことから、高校生にとっても大学生・大学院生にとっても教育的効果が明らかになり、TAを導入した教育的効果の有効性が実証されたことが判明した。これらの結果は昨年度と同様な結果が得られた。

そして今回の高大連携活動に参加した生徒の中から本学の A0 入試 I 志願者が 2 名あった。このように大学側にとって志願者確保の観点から高大連携活動は有効な取り組みの可能性であることがわかった。これらの志願者の合否結果等、今後、追跡調査を行い、高大連携活動の大学側のメリットを見いだして行きたいと考える。

今後の課題として、実施内容の吟味や高校側と研究テーマに関する打ち合わせ、また実施形態の改良といった検討余地を多く残しているが、特に大学側の

協力研究室の負担軽減が大きな課題である。本研究は協力研究室の教員および大学院学生の意欲的な協力がなければ、実現は困難であった。今後、このような活動を大学側に根付かせるのであれば、さらに詳細な業務分担を作成し、準備を計画的に進める必要がある。

～ あとがき ～

平成 11 年の中教審答申以降、全国的に高大連携に取り組んでいる。取組の内容としては、「大学から高校への出前講義」や「大学での講義等への高校生の体験入学（1 日のみ）」が多く、一定の効果があると評価されている一方、高校での日常の授業との関係が低くイベント的であるとか、大学側のメリットへの疑問なども指摘されている。また、高大連携のかかる問題として、入学後の補完教育などの高校と大学の「学びの高大接続教育」にかかる問題などもある。

高大連携活動の問題点として、大学側の一方的なテーマの押し付けにより日常の授業との関連性が低くイベント的であることや入学後の補完教育などの高大接続教育が指摘されている。これらの問題点を解決するため、高校教員と大学教員で構成される「**高大連携数理教育研究会**」を設立して定期的に開催している。この研究会では高校と大学が連携して取り組むべき課題とその解決策を見出すための議論する場として開催している。高校側から数学・理科の授業方法や生徒の理解度そして大学入試に対する要望等について、一方、大学側から数学・理科の授業方法や学生の学習に対する意欲や気質について、それぞれ発表を行っている。その発表に対してそれぞれ意見交換することにより、今までわからなかった高大双方の教育現場の現状や問題点が少しずつ明らかになり、お互いの共通認識が醸成されつつある。

今後、数学や理科の科目について高大双方での授業参観を行い、そして高大接続のための教材開発、大学入試方法の改善などを議論する予定である。

研究代表者 大久保 貢

〒 910-8507 福井市文京 3-9-1

福井大学アドミッションセンター

TEL : 0776-27-8644

ohkubo@u-fukui.ac.jp

平成24年3月6日(火)
日刊県民福井

福井大 理数教育 高校と連携

シンポで取り組み紹介

文部科学省が国公立大の優れた教育の取り組みについて助成する「大学教育推進プログラム」の対象に選ばれた福井大の取り組みについて報告するシンポジウムが五日、福井市文京三丁目の福井大文京キャンパスで開かれた。教育関係者ら約五十人が参加した。

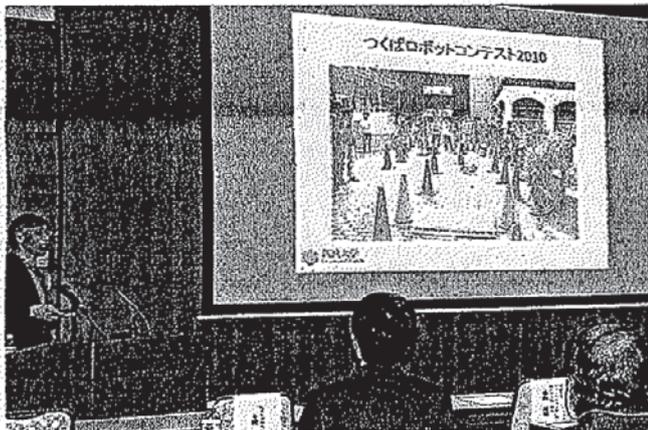
福井大では、学生が身に着けるべき力の向上のため、初年時教育の充実や学士方の向上などを図るための四本柱の取り組みを計

画。これが同プログラムに採択され二〇〇九年度から一一年度まで三年間助成を受けた。

しあい、高校から大学への学習をスムーズに行えるようにする取り組みを紹介した。

シンポでは取り組み内容を紹介した。大久保賢教授は「数理教育を核とした複合型高大連携の推進」で、高校、大学の指導陣が互いに授業参観して理数科目の指導内容を勉強

また、本田知己准教授は、学生がウェブ上で自分の学習を記録して振り返ることができるシステムについてなどを説明した。筑波大アドミッションセンター長の白川友紀教授に



「高大連携への期待～高大連携に寄り添う立場から～」と題して講演する白川友紀教授(左)＝福井市の福井大文京キャンパスで

よる「高大連携への期待～高大連携に寄り添う立場から～」と題した講演もあった。
(平林靖博)

平成 24 年 7 月 26 日

高大連携 課題探求型実践プロジェクト（情報・メディア系）の実施要項

1. 趣旨： 理科離れの防止と高校と大学の連携の在り方を調査・研究するために、貴校と福井大学との高大連携活動を行います。この高大連携活動は大学の講義および実験などを通して問題解決能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力など育成・支援します。この活動を通して高校生が大学での研究を理解することにより、高校生の学問への興味を喚起し、日頃の学習意欲を高めてもらうことがねらいです。
2. 対象生徒： 敦賀気比高校、福井県立金津高校 岐阜県立大垣南高校
京都府立工業高校、徳島科学技術高校の生徒。
3. 講座名： コンピュータを使った音声・音楽情報処理
4. 実施日： 8 月 10 日、11 日、12 日の間の 3 日間
5. 実施場所： 福井大学 工学部 情報・メディア工学科（文京キャンパス）
6. 第 1 日目は「コンピュータを使った音声情報処理」に関する講義と研究室体験入学そして実験を行う。まず、講義によりコンピュータを使った音声情報処理のしくみを学び、社会における音声情報処理技術の利用の現状についても学ぶ。また、研究室紹介は TA が率先して実施する。その後、10 グループに分かれ、コンピュータを使った音声情報処理に関する 10 テーマの課題実験を行う。1 テーマに 3～4 人の生徒と 1 人の TA を配属して実験を行う。(TA: Teaching Assistant の略で大学生、大学院生が担当します。)
7. 第 2 日目は、第 1 日目の実験を引き続き実施する。音声情報処理の原理について、音声分析プログラムソフトや声道模型などを使用して学ぶ。また、自ら実際に声道模型を作成する。自ら作成した声道模型で音声分析を行い、音声情報処理技術を体験する。これらの実験により問題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを育成・支援する。実験に際し、TA が実験補助および助言・指導を行う。

8. 第3日目は「コンピュータを使った音声情報処理」に関する課題実験の結果をまとめ、グループ毎に実験成果発表会を行う。生徒の発表用パワーポイント作成もTAが指導する。高校生の発表に対して、大学教員、TA、高校教員によりコンサルテーションを行う。これにより論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、文章表現力などを育成・支援する。最後に、高校生、高校教員、大学教員、TAにアンケート調査を行い、本講座を評価する。

9. 実施のスケジュール【予定】(1回目～3回目)

9 : 5 0	福井大学 着
1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0	講座学習
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼食・休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0	講座学習
1 5 : 4 0	福井大学 出発

10. 生徒および引率教員の送迎：各高校 ⇔ 福井大学への送迎バスは大学側が手配し、費用も負担します。

11. 当日の昼食：生徒および引率教員の昼食は大学側が手配し、費用も負担しません。

連絡先 研究代表者：福井大学アドミッションセンター 大久保 貢

TEL: 0776-27-8644 FAX: 0776-27-8010

ohkubo@u-fukui.ac.jp

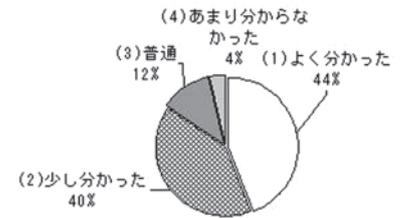
このプロジェクトは、【科学研究費補助金「普通科高校と大学の連携による高大接続教育を創造する課題研究の実践」基盤研究(C) 課題番号 24531189 研究代表：大久保 貢】により実施します。

■ 2010年度 工学部体験入学・アンケート結果 (学部全体)

【参加者数 102名】

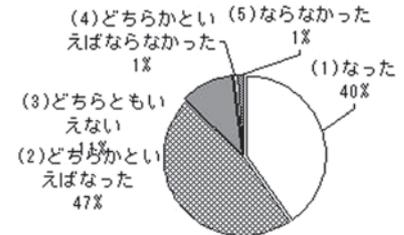
今回の体験入学を受けて、受講した学部や学科のことがよく分りましたか？

- (1) よく分かった (2) 少し分かった
(3) 普通 (4) あまりよく分からなかった (5) 分からなかった



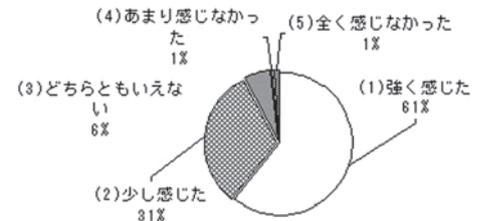
大学で実施されている研究について、具体的なイメージをもつようになりましたか？

- (1) なった (2) どちらかといえばなった (3) どちらともいえない
(4) どちらかといえばならなかった (5) ならなかった



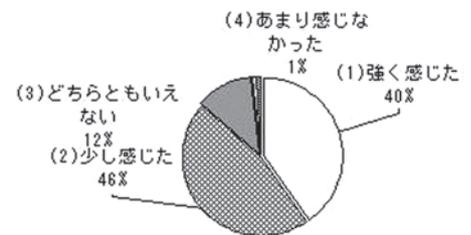
今回の体験入学で、いつもと違った体験ができて、有益でしたか？

- (1) 強く感じた (2) 少し感じた (3) どちらともいえない
(4) あまり感じなかった (5) 全く感じなかった



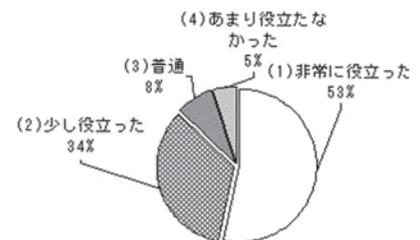
今回の体験入学で、自らチャレンジしていく意欲がわきましたか？

- (1) 強く感じた (2) 少し感じた (3) どちらともいえない
(4) あまり感じなかった (5) 全く感じなかった



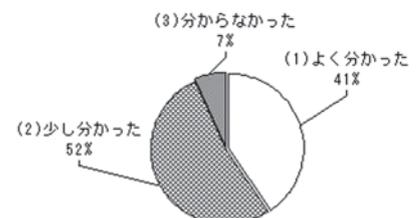
今回の体験入学は、あなたの将来の進路選択を考える上で、役に立ったと思いますか？

- (1) 非常に役立った (2) 少し役立った (3) 普通
(4) あまり役立たなかった (5) 全然役立たなかった



今回の体験入学を受けて、受講した学科のアドミッション・ポリシー (求める学生像) が分かりましたか？

- (1) よく分かった (2) 少し分かった (3) 分からなかった



この体験入学で経験した講義や実験について自由に感想を書いてください。

学科	感想
機械工学科	高校の勉強とは一味違う勉強を基本とした発展的、専門的な授業を受けることができたので、大学でどういった授業をするのかについてよく分かった。むずかしかったけど自分なりに考え、今後の考えの参考になることができると思った。大変だったけど、とても有意義な時間を過ごすことができた。また機会があれば参加したいと思う。
	今回の体験入学をふまえて、この大学が何について学習し、何について研究をしているのかが分かりました。ふだん体験することができない体験をすることができたので、貴重な時間だと思いました。これらの体験や講義をふまえたうえで、いっそう勉学に励みたい。
電気・電子工学科	今回、福井大学工学部の体験入学に参加して、高校の数学や理科がとても基礎になっているということがわかりました。また、体験入学での先生たちがとても優しく親切に教えてもらったので理解しやすかったです。とても、とても楽しかったです。
	講義を受けて、高校で習うこととは違うことを学ぶことができた。少し分からなかったこともあるけれども、興味深い話を聞くことができたし、自分の進みたい道の参考にすることができた。
建築建設工学科	2日間いろいろな話を聞いて、より建築に興味をもった。ぜひとも、この学科をうけたいと思った。
	すごくわかりやすく将来に役立つ内容でよかったと思います。将来は、耐震についての仕事につきたいので、ぜひ入って勉強したいです。
材料開発工学科	講義の内容は難しかったので、あまり理解できませんでしたが、高校の勉強をおろそかにすると大学の内容についていけなさそうなので、しっかり基礎をかためておきたいです。今回は特にリチウム電池が参考になりました。
	講義などは難しくよくわからないこともあったが、この経験を受験に活かせるといいなと思った。
生物応用化学科	私は DNA について学び、研究したいと考えているので、今回の講義と実験は「福大に行きたい」という思いが強くなりました。今後の進路を考えるうえで、大きな判断材料になりました。
	オープンキャンパスだけでは分からない事をたくさん知ることができて、大変よかった。
物理工学科	超流動や超伝導については、わかる場所とわからない場所があったが、充実した体験入学だった。
	物理工学が自分たちの生活の中によくあることが認識された。
知能システム工学科	実際にロボットを作れ、また他の学校の人と交流できて、とても楽しかった。初めての体験で戸惑うことも多かったが非常に充実した2日間だった。この学科を志望する気持ちがまた一つ強くなった。
	自分から進んで学んだり、意見を発表したりすることで自分の精神力を高めていくことができることを学んだ。また、他の人と協力して行うことの楽しさを学べたので、この体験入学は非常に有意義だった。

(参考) 今回の工学部体験入学に参加した高校3年生 69名のうち、16名がAO入試Ⅰに志願しました。

第4回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成22年6月19日（土）13:30～16:30

場所：工学部多目的会議室

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、吉田孝文（福井県立金津高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、鈴木彰（静岡県立吉原工業高校）

【大学側】：小野田信春、堀邊稔、保倉理美、浅田拓志、古閑義之、橋本貴明、大久保貢

話題

- 【1】（大学側からの事例報告）「福井大学AO入試合格者のための入学前教育（数学）」
- 【2】（高校側からの事例報告）「工業高校における数学教育の実態」
- 【3】（高校側からの報告）「教科に関するアンケート（ベネッセ調査結果）」
- 【4】（大学からの提案）「2 Way インターンシップについて」

- 【1】「福井大学AO入試合格者のための入学前教育（数学）」と題して大久保准教授が報告した。

福井大学AO入試合格者のための入学前教育に関する報告の要点は次の4点であった。

- (1) AO入試I合格発表の1週間後に合格者を対象にスクーリングを実施した。
 - ☛スクーリングの目的は、入学前教育の意義を徹底させる。
 - ☛AO入試入学生の入学後の追跡調査結果（専門基礎科目の成績が特に低い。）を報告する。
- (2) 入学前教育は他大学のように業者に丸投げでなく、学内教員が作題し添削指導している。
- (3) 白紙の答案を提出した生徒および極めて成績の低い生徒を呼び出して、個人的に指導している。
- (4) 入学前教育の成果として、入学直後のプレースメントテストの成績（数学）が上がってきている。そして、入学後の数学のステップアップ授業の受講者にAO入試入学生の割合が近年、減少している。（平成18年度は50%以上であったが、平成21,22年度では、30%台である。）

- 【2】高校側からの事例紹介として吉原工業高校の鈴木先生が「工業高校における数学教育の実態」と題して報告した。報告の要点は次のようであった。

(1) はじめに

本題に入る前に、簡単に本校の紹介をさせていただきます。

本校は、特進・進学・教養という、それぞれが特徴を持った三つのコースを持つ私立普通科高校です。人数構成は特進が50名、進学が70名、教養が90名で、募集定員から言えば、各コースあと10名ずつ、合計30名ほど満たない状況です。

次に本校の進学実績についてですが、京都、大阪、名古屋をはじめとする国公立大学や東京六大学や関関同立といった私立大学への進学者がおり、それなりの実績を残していると自負している。ちなみに福井大学の場合4名が入学しており、入学先の学部は医学部1名、地域教育学部1名、工学部2名となっている。

(2) 高校生の学習実態

高校1年生に対して、小学校5年生で学習する算数の内容、中学校の2年で学習する数学の内容である濃度に関する問題を出題したところ、その正解率は、20%しかなかった。この問題を解けるようにするために、私は冬休みの補習3時間を利用して、質量パーセント濃度の授業をする予定をしている。このように、本来高校で行う必要のないことを、授業で行わなくてはならないという生徒の実態がある。

ベネッセという会社から出されている「VIEW 21」という雑誌の12月号には、特集記事として「学力下位層の拡大にどう向き合うか」が掲載され、第1回の高大連携数理研究会の折の声と重なるアンケート結果が出ている。また、その席で大学側から「初年度教育をどのようにするか」という問題提起がなされたが、実は高校でも同様の問題を抱えており、その深刻さが顕著になってきている。

(3) 高校教科書の実態

こうした生徒の実態を踏まえた現在の教科書は、化学であれば「気体の状態方程式」や「浸透圧」、そして「沸点上昇・凝固点降下」といった計算が必要な分野を無くし、物理であれば「電気」や「波」といった分野から入るが、実際には概念的な理解に止め、三角関数を利用した計算は取り扱わないなど、生徒が苦手とする計算の分野であったり思考力が必要とされることを後回しにするといったことが行われている。しかし高校では、もっと深く生徒の抱える問題に向きあった対応をしています。先程紹介した「VIEW21」には、いくつかの学校事例が紹介してあるが、これをまとめると、当然の結論と言うべき次のことが浮かび上がる。

第1に「生徒の姿を見て授業する」こと、第2に「生徒のモチベーションをいかに高めるか」を工夫すること、そして、第3は学習意欲を高める「教材研究」の開発です。

教材研究に関する私自身のポイントは、次の3点です。第1の視点は「一話完結型」にするということ、第2の視点として取り組んでいることは「板書」の研究、つまり「見直しがしやすいノートに仕上げる事が出来る板書」の工夫をすること、第3の視点は「キャリア発達を促す話題提供」を行うことです。第3の「キャリア発達を促

「話題提供」を行うことが必要だと感じたのは、アメリカの教科書は、今学んでいることが将来何に役立つのかということをはっきり示す形で編集されていることを知ったからによる。アメリカの教科書を使えば、教員は何もしなくても、生徒達が勝手に将来に夢をはせることができる。

これに対して日本の教科書には、その様な記載は含まれていません。だから、生徒のキャリア発達を願うならば、教員は積極的に学んだことが何に役立つのかを調べ、まとめて、伝えるという作業を行わなくてはならない。もし、それが出来ないならば「コレは試験に出るからな」というしかない。

言い換えるならば、日本の教科書は試験のための本だと言えるのかもしれない。

このような教科書の実態からは、高校教育の現場で起きている二極化を、右の表のようにまとめられる。このような「教科書重視型」の教育と「生徒対応型」の教育の違いは、高校による格差や、教員の格差を生み出している。

教科書重視型	学習指導のタイプ	生徒対応型
放置	中高ギャップ	学習習慣の指導
放置	基礎的計算力	事前学習
大学受験	学習内容の意識付け	将来との関連性の提示
倍用問題集	学習副教材	独自教材の開発
自己責任	理解・定着の促進	個別指導
無視	高等教育への橋渡し	3学期補習の実施

表. 二つの学習指導

(4) 高大連携の必要性

以上のような高校の実態からは、「高大連携」の必要性を強く感じます。特に本校のように、学力中位クラスの生徒を集め、その学力を押し上げて大学にねじこむと言ったことを行っている学校にとっては、死活問題です。つまり、こちらでは優秀な生徒を送ったつもりでも、大学にとっては学力や潜在能力的には下位集団に属する生徒である可能性が高く、こうした生徒達に入学した大学で頑張ろうという意欲がなかったら、必然的に留年問題が浮上します。

同じ大学で、こうしたことが続きようであるならば、当然入試判定にも影響を及ぼすでしょうし、結果的には高校の進学実績を落とすことになると考えられるからだ。そこで望むことは、次の二つのことである。まず一つ目は、高大接続教材の開発である。大学には「少なくとも高校ではここまで教えてほしい」というレベルがあり、高校には「このあたりまでしか教えられない」という限界がある。今大学の初年度教育で問題になっているのは、大学の要求レベルと高校の学習指導限界が重なり合っていないからだと考えられ、実際には大きな溝になっているのではないか。

そこで、どのような溝があり、どこにどのような橋を架けるとスムーズに高校と大学を接続できるかを考え、それにあつた教材、いうならば「高大接続教材」が開発できればと考える。そのためには、高校の学習指導の限界がどのあたりかを確定することと、大

学側として、どの程度までは学んでほしいかを確定することが必要である。

さて二つ目ですが、試験制という第一の入試選抜、推薦制という第二の入試選抜にかわる第三の入試選抜方法が導入できないのかなと思っている。提案したい第三の選抜方式のイメージは、今ある A0 入試を大規模にしたもので、SPP 講座のような大学主催講座への複数回の参加経験を出願条件にした入試選抜を行う方法であり、次のようなメリットがある。大学主催の講座に続けて受講すると、その大学の校風を知る機会になる。また、その大学でどのような教育が行われているかを体験することで、大学で研究を行うには、高校でどのようなことを学んでおく必要があるかをよく知ることになる。さらに、大学に入ってモチベーションが下がるというのは、目的の喪失によることが大きな要因と考えるが、大学において何をするのか具体的に知ることができ、入学後の目的喪失を防ぐことになる。

特に、第3のメリットに関しては、第1に高大間の学習領域のギャップ、第2に高校の問題には「正解が一つしかない」のに対して大学以降の研究には「答えがないものすらある」というギャップ、という「高大ギャップ」の解消にもつながるのではないかと。後者のギャップを埋めるには、「答えがないものに挑戦する」機会を持つこと以外似なく、こうした意味において、大学主催の SPP 講座に強い関心と魅力を感じており、できる限り生徒に参加させようと考えている。

(5) おわりに

今、大学では初年度教育の重要性に目が向けられている。しかし、その原因は高校にあり、同じ生徒を3年ほど先に受け入れる高校では、こうした問題は日常茶飯事のこととなっている。今回、高校での取り組みの一端を紹介したが、これが大学の抱える問題解決の参考になれば幸いである。

【3】(大学側からの事例報告)「先進的な高大連携を実践している大学の視察報告」と題して大久保准教授が報告した。

(1) 石巻専修大学 高大接続研究事業

高校と研究事業の協定を結び、2007 年度から大学の開講科目の履修により高校と大学の双方で単位が認められる高大連携を実施している。

【事業の狙い】

大学としては初年次教育を今まで以上に充実させるために、高校生の実態を詳しく知りたかった。しかし、単発の出前授業だけでは不十分であった。そこで高校と大学の双方にメリットのある長期的な協定を設けることになった。

石巻商業高校の生徒が大学の授業を履修・・・単位認定・・・入学者の確保(学長命令)
高大接続方式入試(指定校枠)・・・書類+面接・・・(足入れ入学)

入学後の追跡調査・・・ミスマッチなし。退学者が減少している。県内の 2 校を実践して好評のため、他の高校からも依頼がある。

(2) 山形大学 高大連携

山形大学と高校の数学教員との研究交流会 ～山形大学理学部～

【メンバー】

山形大学理学部を卒業した高校の数学部会の教員と理学部教員とが 1 回/年（半日）、研究交流会を開催している。高校教員と大学教員が対等の立場で議論している。

【実施方法】

2003 年から数学を接点にフリートーキングをしている。

高校、大学の授業参観は行っていない。

費用は学長裁量経費で実施。

外部講師を招待して基調講演している。

高校側、大学側の窓口を設置

【成果】

この研究会より入学してくる学生の変化は未定。（追跡調査していない。）

たぶん変化していないと思う。

高校の先生の考え方がこの交流会により理解できた。

【2008 年の研究交流会 スケジュール】

1. 開会
2. 山形大学からのあいさつ
3. 県高教研数学部会長あいさつ
4. 講演 「最近の数学教育の話題より」
(大学側) 山形大学理学部教授 「三角関数の極限」
(高校側) 天童高校教諭 「基礎学力テストによる 1 年生の基礎力分析と今後の課題」
講演についての意見交換
5. 情報交換会
6. 閉会

【山形大学の課題】

教育の格差により地方国立大学への影響

都会の中高一貫校からは山形大学へ進学しない

地元の一流の進学校からは山形大学へ進学しない

以前は一流校から 100 名ぐらいは入学していたが、今は 10 名ほどが医学部へ入学している。

(3) お茶の水女子大学 高大連携

高大連携の目的

「女性の能力開発」モデルの考案を企画し、基礎・基本に根ざした教養の涵養を目的とする、大学と附属高校が連携して研究・開発を実施する特別教育プログラム（平成17年度～）

高校授業のカリキュラム共同開発と高校での大学教員による授業（出前授業）

「教養基礎」

- 国語・数学・英語の3教科について既存の高校における教科教育を基本線に、高校、大学の教員の連携・協力により実施する学校設定科目
- 1・2年必修（国語4単位、数学2単位、英語3単位）
- 3年選択（国語4単位、数学2単位、英語2単位）

高校生が受講する大学の既存の授業

大学の授業を受講（2・3年希望者）

- 放課後の時間を利用して、大学が附属高校生に開放する入門的内容の科目を受講。
- 試験・レポート・評価等は大学生と同様に課される。
- 単位はお茶の水女子大学に進学した場合は、大学の単位として認定される。

大学が高校生のために用意した特別授業

「選択基礎」（3年希望受講許可者）

- 大学教員が担当する、生徒志望専門分野の基礎教育を中心に行うプログラム（大学2単位）
- 応募資格：学習評定4.0以上、1・2年必修の教養基礎科目をすべて修得済みであること。
- 単位はお茶の水女子大学に進学した場合は、大学の単位として認定される。

高大連携研究追跡のための特別入試（推薦入試）

「高大連携特別入試」平成19年度～

- 特別教育プログラム履修生の追跡調査のために行う附属高校生対象特別選抜（指定校推薦）制度
- 募集人員：若干名（10名程度）、各学科・コースに原則1名
- 応募資格：高大連携特別プログラム（「教養基礎」・「選択基礎」）の受講と修得
- 調査書の学習成績概評、原則A以上
- 選抜方法：特別教育プログラムにおける評価、調査書、一般推薦入試（学科試験、小論文、面接等）と同じ選抜方法
- 19年度（現 大学2年）8名、平成20年度（現 大学1年）7名

組織

- 高大連携実施委員会（お茶の水女子大教員とお茶の水女子高校教員で組織）
- 人間発達教育研究センター・子ども発達教育研究部門

A0入試（センター試験課さない）

定員10名 今年度の倍率13倍

- 選抜方法：第1選考 出願書類審査、第2次選考 模擬講義、討論、レポート、面接、小論文を課し総合的に判定。
- 入学前教育：これにより合格者のモチベーションがアップした。
 - ① 合格者研修会、② センター試験の義務付け（一応受験してもらう程度）③ 自分の興味のあるテーマでレポート（添削して返送）④ 英語教育（カセット＋ドリルの教材）⑤ 大学教育・生活についての質問を受け付け
- A0 入試入学生の入学後の学業成績：ダントツの良い成績を修めている。
（センター試験の成績は下位であるが、入学後は上位になっている。）

【4】意見交換

- ・3月に実施される高大連携シンポジウムの開催時期について
 - ・今後の方向性について・・・
 - ① 福井大学工学部に入学して勉強に必要な数学の基礎学力をどのように確保するか。
 - ② 高校で実践してきた高大連携活動（SPP 事業など）で培った能力を工学部に入学後の専門教育にどのように繋げるのか。
- この2つの視点から別々に議論した方が良いのではないか。

2010.10.25 大久保

第5回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成22年10月23日（土）13:30～16:30

場所：福井大学工学部多目的会議室（文京キャンパス）

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、吉田孝文（福井県立金津高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生工業高校）、鈴木彰（静岡県立吉原工業高校）

【大学側】：小野田信春、浅田拓志、古閑義之、橋本貴明、大久保貢、田中均（島根大学）

話題

【1】（招待講演）

「隗より始める高大接続—授業参観から共通言語を見つけ出す—」

【2】（高校側からの事例報告）

「武生工業での授業実践」

【3】（大学側事例報告）

「平成22年度 高大連携活動の成果報告」

【4】 高大双方による授業参観についての意見交換

【1】「隗より始める高大接続—授業参観から共通言語を見つけ出す—」

と題して島根大学入試センター副センター長 教授 田中均先生が報告した。

報告の要点は次の3点であった。

(1) 島根大学での高大接続事業

島根大学では高校教育と大学教育が円滑に接続することで受け入れた学生に、より豊かな学びの場を提供するために、島根大学入試センターが中心に様々な高大接続研究事業を積極的に実施している。

(2) 高大双方による授業参観

高大接続事業の中で、高校と大学双方の教員が授業を互いに参観し合う高大接続授業公開は中核をなす事業として位置づけられ2008年度から実施している。

(3) 島大キャンパスアカデミー

キャンパスアカデミーでは、高校生の「課題探究力」を高めて、大学に進学しようという強くて深い動機を持ってもらうことを目指している。実施方法としては、①課題探究論文の提出、②島根大学研究室訪問、③スクーリング相談会、④プレゼンテーション、⑤レポートである。

【2】高校側からの事例紹介として福井県立武生高校の小松先生が「武生工業での授業実践」と題して報告した。報告の要点は次のようであった。

- ・福井県立武生工業高校の数学の授業の実践について、報告がありました。

【3】大学側からの事例紹介として福井大学の久保先生が「平成 22 年度 高大連携活動の成果報告」と題して報告した。報告の要点は次のようであった。

- ・平成 22 年度の高大連携活動は、以下の研究テーマと連携高校によって実施した。

研究テーマ：「プラスチック成形加工の基礎を学ぶ」

連携高校：静岡県立吉原工業高校、愛知県立一宮南高校、岐阜県立海津明誠高校、敦賀気比高校

成 果：・大学での実験、研究とはどのような取り組み方をしているか知るきっかけになったと思います。

- ・高大連携により自分らが考えて手法や解析を行う意義について、視点を向けることができたと思います。

- ・大学での勉強をイメージするうえで、とても良い経験をさせて頂いた。

- ・大学を知るという意義は大きかったと思う。大学の理系の学部の内容について知ることができた。

【4】高大双方による授業参観について、数学分科会と理科分科会に分かれて意見交換を行った。

2010.12.25 大久保

第6回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成22年12月18日（土）13:30～16:30

場所：福井大学工学部多目的会議室（文京キャンパス）

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、吉田孝文（福井県立金津高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生工業高校）、鈴木彰（静岡県立吉原工業高校）

【大学側】：小野田信春、浅田拡志、古閑義之、橋本貴明、保倉理美、本田知己、大久保貢

話題

【1】（招待講演）

「北海道高大連携フォーラムの軌跡とこれからの北海道における

高大連携の推進について」

【2】（報告）

「数学分科会からの報告」

【3】（討論）

「数学分科会と理科分科会に分かれて高大双方による授業参観について意見交換」

【4】 高大双方による授業参観についての意見交換

【1】「北海道高大連携フォーラムの軌跡とこれからの北海道における

高大連携の推進について」

と題して北海道教育庁 学校教育局 高校教育課 普通教育指導グループ元紺谷先生が報告した。報告の要点は次の4点であった。

（1）北海道の高大連携の現状

北海道の高大連携の実施状況（全道）は、加盟校310校のうち、163校が実施している（平成20年度）。地区別では石狩地方が70%と一番高く、一方、道央が39%と一番低いことが分かった。

（2）北海道の高大連携の協定締結状況

高大連携実施校163校のうち、協定締結している高校は58校であった。

（3）連携内容

131件と圧倒的に多いのは、大学から高校への出前授業で、その次に多いのは59件の大学での講義・実習に高校生が参加であった。

(4) 単位認定の状況

大学における科目等履修生などの学修を高校の科目の単位として認定している高校は13校で高校在学中に取得した大学の単位を当該大学進学後に既修得単位として認定している高校は10校であった。なお、148校は特に行っていない。

【2】【数学分科会】における意見交換について、福井県立三国高校の竹澤先生から報告がありました。

この分科会では、先日開催されました第5回高大連携数理教育研究会の結果を踏まえて、主に高校数学の新学習指導要領、高大双方による授業参観について議論を行いました。まず、高校側から現行の学習指導要領と新学習指導要領の違いについて報告があり、平成24年度から始まる新学習指導要領では数学Ⅲは現行の数学Ⅲと数学Cを合わせた科目になり、行列が削除され複素数平面が復活すると説明がありました。そして高大双方による数学の授業参観については、大学教員が来年2月下旬に福井市内の2つの高校を訪問して数学の授業を参観し、一方、高校教員が来年6月頃、本学の数学の授業を参観することに決まりました。その後の意見交換では、高校教員と大学教員が交流することにより高校教員が地元の福井大学工学部をさらに大事にするよう意識を変化させることが必要でないかと高校側から意見が出されました。

この高大双方の授業参観は大学入学前後の高校生・大学生の「学びの転換」を考える機会となり、高大双方の教員が情報交換や意見交換をすることを通して、高大接続の意義と課題について共有することができるのではないかと報告がありました。

【3】高大双方による授業参観について、数学分科会と理科分科会に分かれて意見交換を行った。

その結果、平成23年2月22日に福井県内の高校2校（福井県立高志高校と福井県立羽水高校）で授業参観を実施することに決定した。

2011.4.25 大久保

第7回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成23年4月23日（土）13:30～16:30

場所：工学部多目的会議室

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、吉田孝文（福井県立金津高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、鈴木彰（静岡県立吉原工業高校）、伊藤憲人（名城大学附属高校）、吉村三智頼（敦賀気比高校）

【大学側】：堀邊稔、浅田拓志、古閑義之、橋本貴明、葛生伸、東光正浩、本田知己、大久保貢

話題

- 【1】「高校における授業参観」
- 【2】「2 way - インターシップ in 吉原工業高校」
- 【3】「高校における新教育課程への対応の近況に関する情報交換」
- 【4】「大学における授業参観に関する意見交換」

【1】「高校における授業参観」について三国高校の竹澤先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

- (1) 平成23年2月22日に実施した高校における授業参観について、授業を担当した高校教員を対象としたアンケート結果について報告した。
 - ・ (I) 授業担当の先生方の感想および意見。
 - ・ (II) 過去に工学部に進学している生徒が不足していると感じているところ。
 - ・ (III) 大学の初年次教育で高校側から望むこと。
 - ・ (IV) 福井大学の入試に望むこと。
- (2) 大学側から授業参観に参加した大学教員に対するアンケート結果について下記のとおり報告があった。
 - ・ (I) 高校の生徒の様子について
 - ・ (II) 担当した高校教員の指導方法について
 - ・ (III) その他

【2】「2 way - インターシップ in 吉原工業高校」について大学側から報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

- (1) 大学側から 2 way - インターシップについての概要について説明後、吉原工業高校で実施した卒業生による「大学で学ぶ意義」の講話について報告があった。講話を聴いた生徒を対象とした感想は以下のとおりであった。
- ・ 年齢の近い学生さんの話で親近感を持った。
 - ・ 大学で学ぶ意義について、分かりやすかった。
- (2) 次に、今回の講話について高校側の成果について鈴木先生から報告があった。
- ・ 卒業生が期待以上のことを発表し、一層たくましくなったと感じた。
 - ・ 高大接続がうまくいった、とホットしています。

【3】「高校における新教育課程への対応の近況に関する情報交換」

報告の要点は下記のとおりであった。

- (1) 小松先生から数学についての新教育課程への対応の近況についての報告。
- ・ 数学基礎を数学活用に組み替え、数学Ⅰのみ必修科目として設定
 - ・ 数学Cを廃止し、数学Ⅲを5単位にした。
 - ・ 【移行】数学B「統計とコンピュータ」→数学Ⅰ
 - ・ 【新設】複素数平面（数学Ⅲ）整数の性質（数学A）
 - ・ 【削除】数値計算とコンピュータ（数学B）
- (2) 吉田先生から理科についての新教育課程への対応の近況についての報告。
- ・ 県立高校における教育課程の編成スケジュールの概要について報告した。
 - ・ 平成24年度教育課程試案で数学と理科関係について報告した。
- (3) 河端先生から理科の新学習指導要領に向けた取り組みについての報告。
- ・ センター試験における理科の出題選択パターンについて下記のとおり報告した。
- Aパターン**：「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」および「地学基礎」の4科目から2科目又は1科目を選択
- Bパターン**：「物理」、「化学」、「生物」および「地学」の4科目から1科目を選択
- Cパターン**：「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」および「地学基礎」の4科目から2科目又は、1科目並びに「物理」、「化学」、「生物」および「地学」の4科目から1科目を選択
- Dパターン**：「物理」、「化学」、「生物」および「地学」の4科目から2科目を選択
- A～Dパターンについて、高大双方で意見交換を行った。

【4】「大学における授業参観に関する意見交換」

大学側から「大学における授業参観」について、日程、授業科目について提案があ

った。その結果、平成 23 年 6 月 10 日の午後 1 時から 2 時 30 分まで授業参観し、その後、高校教員と大学教員とで意見交換することに決定した。また、多くの高校教員が参加してもらうため、案内文を高校長会に提出した方が良いのではないかとの提案があった。

2011.8.12 大久保

第8回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成23年7月23日（土）13:30～16:30

場所：福井大学 アカデミーホール

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、伊藤憲人（名城大学附属高校）、吉村三智頼（敦賀気比高校）、阿部憲市（徳島科学技術高校）、遠山一郎（静岡県立科学技術高校）

【大学側】：堀邊稔、浅田拓志、古閑義之、橋本貴明、大久保貢

話題

- 【1】「スーパーサイエンス教科の学校設定科目「数理特論」の取組」
- 【2】「H24年新学習指導要領（数学Ⅰ）実施に向けて」
- 【3】「大学における授業参観について」
- 【4】「数学分野、物理分野における今後の高大連携について」

【1】「スーパーサイエンス教科の学校設定科目「数理特論」の取組」について名城大学附属高校の伊藤先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

平成18年度より文科省事業のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、教育研究を展開してきた。今年は二回目の研究契約の初年度であり、これまでの取り組みをさらに深化、発展させる旨の話が、研究概要とともに資料（小冊子）に基づき説明された。

学校設定科目

研究内容には高大連携による幾多の取り組みがあるが、中でも指導要領によらない独自の学校設定科目、その意義・目的について、研究開発実施報告書に基づき説明された。

数理特論

学校設定科目のうちの一つ「数理特論」の実践について、過去五年の研究開発実施報告書の抜粋に基づき説明された。数理特論は高大の数学・理科（物理）の教員の協同により、早期の動機付けと進化した学びを追求する科目で、教科科目や学齢により隔てられた溝を埋めて、体系化することが目標である。

まとめ

生徒の関心喚起の効果は高いが、基礎学力いわゆる偏差値の向上には直接結びつくことは難しい。ただし、定量的なアンケート結果により独創性や探究力、創造性などに寄与する効果が認められた。

【2】「H24年新学習指導要領（数学Ⅰ）実施に向けて」について石川県立金沢商業高校の宮田先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

1. 『数学Ⅰ』の改訂

「数と式、図形と計量、二次関数、データの分析」からなっているのは、中学校における4つの領域「数と式、図形、関数、資料の活用」に対応させたものであり、内容の掲載順序も中学校の領域掲載順序に準じている。

2. 改訂にともなう主な変更点（データの分析）

中学校で扱っている資料の散らばりの考え方を更に発展させて四分位数、四分位範囲、四分位偏差、分散、標準偏差、散布図及び相関係数などを扱う。四分位数に関連して箱ひげ図を扱うことも考えられる。

3. 新しい学習指導要領（数学）

高等学校での数学教育における見かけ上の大きな変化として、必修科目である「数学Ⅰ」の内容に「データの分析」が含まれた。現行より明らかに統計教育が重視され取り入れられている。

4. データの分析を担当するにあたり

数学Ⅰは全員履修の必修科目で、「データの分析」や「集合」が入って教える内容が増加する一方で、標準単位数は3単位と変化がないことにより時間数が非常に足りなくなることが想定される。

【3】「大学における授業参観」について福井大学の久保教授から報告があった。

報告の要点は下記のとおりであった。

大学の授業について

・物理基礎を見学させて頂きました。学生が前向きに静かに講義を受けていて感心しまし

た。参加する姿勢、意欲を感じました。教員の発問に対して積極的に意見を述べる、挙手する。又、教員の演示実験を手伝うなど、インタラクティブな講義でどちらかと言えば高校の授業に近い雰囲気でした。

- ・ 高校を卒業し大学に行った生徒達の様子を見ることができました。大学をさぼることなく、熱心に授業を受けている姿を見て、とてもうれしく感じました。(ほっとしました) また、古閑先生が非常にご丁寧に授業をして下さっており、小テストやレポートなど親切に面倒を見て下さっており感謝しております。

高校（自身）の授業を振り返ってみて

- ・ 留年率が高いことを伺い、高校での指導法を見直さなければならないと痛感しました。自分で自分を伸ばしていく生徒達を、高校で育てていきたいと強く思いました。
- ・ 高校では、三角関数の知識、偏微分などの式の展開、論理的思考、人前で主張・意見をしっかり述べる等のスキルをしっかり育てておく必要があると思いました。
- ・ 大学入試のために問題が解けるようにならないといけない部分もあるのだが、それ以上に物理の本質とは何かということを伝えていき、興味を持ってもらうことが大切だと感じた。常に頭にいれて日々を送っていきたいと思いました。

【4】「数学分野、物理分野における今後の高大連携」について、福井大学の大久保教授から「福井大学 数理教育・アカデミー」の提案があった。

「福井大学 数理教育・アカデミー」(案) について

【企画趣旨】

本プロジェクトは、大学教育への適合性をもった高校生を育成を目指して、大学教員と高校教員が連携して諸課題の解決方策を追究する高大接続研究の一環です。本プロジェクトでは、進路選択を考える機会を生かし、知的な興味・関心を現実の社会・文化・自然とのかかわりの中で学習課題として練り上げ、課題を解決する方策を見い出そうとする力を「課題探求力」と定義し、高校生のキャリア形成をより深いところで図ることを目指します。また、当該分野の大学教員からの示唆を得ることや、大学院生・大学性との交流や相談活動の機会を得ることで、大学教育の場で行われる「知の創造」のプロセスを体験し、大学進学への強く深い動機が生まれることをめざします。

【実施規模】

約 20 名

自薦による公募。県内外からひろく公募します。応募にあたっては、所属の高校の先生（クラス担任、教科担任など）の協力をいただける生徒を対象とする。

この件に対して、数学分野、物理分野に分かれて、議論を行った。

2011.11.5 大久保

第9回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成23年11月5日（土）13:30～16:30

場所：福井大学 多目的会議室（文京キャンパス）

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、伊藤憲人（名城大学附属高校）、吉村三智頼（敦賀気比高校）、阿部憲市（徳島科学技術高校）、遠山一郎（静岡県立科学技術高校）

【大学側】：堀邊稔、古閑義之、橋本貴明、小野田、東光、保倉、大久保貢

話題

- 【1】「アドバンス物理研究会で取り組んだ新しい高大連携の試み」
- 【2】「生徒の積極性と自主性を伸ばす IPT 活動」
- 【3】「数学分野、物理分野における今後の高大連携について」

【1】「アドバンス物理研究会で取り組んだ新しい高大連携の試み」と題して同志社中学・高校の山崎先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

1. アドバンス物理研究会の活動

例会を月に1～2回、日曜日10時～17時に現在まで10年で150回開催した。参加者は約10名であった。授業での実践検討として教材を貸し出ししている。実験書と教材セットを10 高校5大学などに貸し出し。ねらいは、日本の物理教育のカリキュラムの改革することである。

2. 高校教員と大学教員共同の取り組みが継続できたこと

できるだけみんなで任務（和訳）を分担し、へたでもいい忙しかったら代行者も。そして、一人ひとりの得意分野を生かした。

3. 新しい高大連携のあり方を提案

高校教員と大学教員が共同でカリキュラムを作りあげる場に。そして、高校大学を見通した日本の物理教育の課題を明確化にして授業と結びつけてカリキュラムを変革していく。

【2】「生徒の積極性と自主性を伸ばす IPT 活動」について福井県立金津高校の吉田先生が報告した。報告の要点は下記のとおりであった。

1. ねらい
知力を鍛錬し、高度に知的な問題にも対応できる能力を育てる学習をねらいとしている。
2. IPT 活動の取り組み
金曜日の 7 限目（15:25～16:15）を中心に総合的な学習の時間に実践している。クラスの副担任がまとめている。
3. IPT 活動の基本方針
 - ① 体験活動を多く取り入れる。
 - ② 活動は時間内で終わらせるものにする。
 - ③ 該当生徒にあわせて、よりよい内容に改善していく。
 - ④ 誰もが担当者になれるようにマニュアルを蓄積する。
 - ⑤ 教員の負担は少なく、生徒は充実するような内容を検討する。

【3】「数学分科会」、「理科分科会」に分かれて、議論を行った。

2012.3.12 大久保

第 10 回高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成 24 年 2 月 18 日（土）13:30～16:30

場所：福井大学 アカデミーホール

出席者（敬称略）

【高校側】：河端良斉（敦賀気比高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、阿部憲市（徳島科学技術高校）、吉田孝文（福井県立金津高校）

【大学側】：小野田信春、保倉理美、田嶋直樹、高木丈夫、葛生伸、浅田拓志、古閑義之、橋本貴明、本田知己、大久保貢、東光正浩

話題

- 【1】「学士力 GP の 3 年間の取組と今後の課題」
- 【2】「福井大学工学部の初年次の数学教育」
- 【3】「高大連携数理教育研究会の 3 年間の成果と今後の課題」
- 【4】「卒業論文着手判定不合格者の原因分析～工学部～」
- 【5】「【数学分科会】と【理科分科会】に分かれて、今後の取組について議論を行う。」

- 【1】「学士力 GP の 3 年間の取組と今後の課題」について本田先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

- ・学士力 GP の 3 年間の取組についての報告を行った。特に学生の“基盤“を“支え・築く初年次教育プログラム”についての成果を説明した。
- ・初年次の工学教育モデルについて、「補修授業と支援室」、「数理教育を核とした高大連携」、「ジュネリックスキル児湯育」、「JIBUN ポートフォリオとメンタルヘルスケア」は他大学の工学教育の一助となる。
- ・教育プログラムの改善について、ポートフォリオの IR 機能を活用しながら、取組の成果を「定量的」に明らかにし、さらなる向上を目指して工学教育プログラムの改善を行っていきたい。

- 【2】「福井大学工学部の初年次の数学教育」について古閑先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

- ・達成度別クラス編成の改善：満足度調査した結果、7 割が満足・ほぼ満足であった。そして、成績では不可が 12.9%から 8.9%に減少した。
- ・数学ステップアップクラスの倍増：満足度についてほとんどの学生が満足であった。

そして、成績は不可がほぼ半減した。

- ・ 数学学習支援室の設置：利用者数が年間でのべ約 400 名程度であった。

【3】「高大連携数理教育研究会の 3 年間の成果と今後の課題」について大久保先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

- ・ 3 年間で高大連携数理教育研究会を 10 回開催した。その結果、高校教員と大学教員との定期的な交流を図ることによって、高校と大学の現状への相互理解が深まった。
- ・ 高校の授業参観と大学の授業参観を実施した結果、高大双方の教え方を知ることが出来、今後の授業に役立つと考える。

【4】「卒業論文着手判定不合格者の原因分析～工学部～」について大久保先生が報告した。

報告の要点は下記のとおりであった。

- ・ 工学部における留年率についての報告があった。A0 入試入学生の 4 人に 1 人が留年していることが分かった。A0 入試入学生のうち、普通科理数科出身学生の約 3 割が留年し、工業科出身学生の約 1 割が留年していることが分かった。
- ・ 留年した学生の初年次成績を追跡調査した結果、専門基礎科目の成績が下位の学生が留年している割合が高いことが分かった。

【5】【数学分科会】と【理学分科会】に分かれて、今後の取組について議論を行った。

- ・ **【数学分科会】**では、以下の論点で意見交換を行った。大学に高校生を集めて数学の講義・演集を実施する。また高校教員を対象とした数学の講義を実施する。
- ・ **【理学分科会】**では、以下の論点で意見交換を行った。普通科高校を対象とした課題研究の試み。また高校教員を対象とした大学研究室の体験入学を実施する。

2012.5.9 大久保

第1回 高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成24年5月9日（土）18:00～19:45

場所：福井大学（文京キャンパス）アカデミーホール

出席者（敬称略）

【高校側】：竹澤浩樹（福井県立三国高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、松村剛（福井県立高志高校）、中山真（福井県立嶺北養護学校）

【大学側】：小野田信春、古閑義之、長谷川重弘、大久保貢

話題

- 【1】参加者の自己紹介
- 【2】今年度の取り組みについて
- 【3】高校の授業参観について

【1】研究会の開始にあたり参加者の自己紹介を行った。

【2】今年度の取り組みについて

- ◆ 今年度の取り組みとして次の3つの（案）を提案したい。
 - (1) 高校の数Ⅲと大学の微分積分の授業参観と高校教員と大学教員との交流会を行う。
 - (2) 高校数学が大学入学後の数学にどのように繋がっているかを考える。
 - (3) 高校生を対象に講習会について検討する。そして、数学に関するテキストを作成する。
- ◆ 教育地域科学部や医学部の数学の先生方にも参加して頂けるとありがたい。
- ◆ 昨年度のように高大双方の授業参観が継続できるように願いたい。そして、交流会では大学入試に関して議論できればと思います。
- ◆ 高校の数学が工学部の専門にどのように繋がっているか、考えていきたい。
- ◆ 自然界のことを数学で表現するようなテキストの作成や数学に関する講習会を高校生に提示していただけたらと考える。
- ◆ 工学部として数学の力がどこまで必要かでなく、各学科として数学がどこまで必要かを理解する必要があるかと思えます。たとえば、機械工学科と情報・メディア工学科とでは、必要とされる数学の力は異なっている。
- ◆ 大学の方から今年から3年間採択された科研費「普通科高校と大学の連携による高

大接続教育を創造する課題研究の実践」について説明があった。高校生が大学での体験入学（課題探求型の研究）のためのバス代などに支給したい。

- ◆ 上記の3つの案を中心に実施しては如何でしょうか。
- ◆ これまで実践してきた数学に関する課題研究のテーマを集めてテキストにする。また物理分野との関係も考える。
- ◆ 高校での進路説明会で大学教員の実験があると良いと思う。

【3】 高校での授業参観について

- ◆ 6月に科学技術高校と藤島高校の授業参観を行う。
- ◆ 藤島高校では6月上旬に数Ⅲ（行列）について指導中。
- ◆ 実施時期は、6月上旬に。

2012.7.2 大久保

第2回 高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成24年6月28日（土）18:00～19:45

場所：福井大学（文京キャンパス）アカデミーホール

出席者（敬称略）

【高校側】：竹澤浩樹（福井県立三国高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、松村剛（福井県立高志高校）、中山真（福井県立嶺北養護学校）、白崎照康（福井県立武生工業高校）、中田政晴（福井県立藤島高校）

【大学側】：小野田信春、古閑義之、大久保貢

話題

- 【1】高校の授業参観について
- 【2】大学の授業参観について
- 【3】今後の取り組みについて

【1】高校の授業参観について（報告）

6月7日に実施した高校の授業参観について、参加した先生方から感想などの報告があった。（実施終了後のアンケート調査結果を配布）

【2】大学の授業参観について

- ◆ 大学での授業について「重積分」あたりを参観したい。この授業内容に合わせて日程を考えると、12月第1週になる予定。
- ◆ 大学の授業参観に関して、補習授業のステップ・アップ（5限目：PM4:30～PM6:00）を参観する。7月の下旬あたりに実施予定。後日、日程を調整する。

【3】今後の取り組みについて

- ◆ 教育地域科学部の教員や大学院生に研究会に入って頂き、話を聞きたい。
- ◆ 大学2年前期「数理解析」の授業について、1年次の「微分積分Ⅰ、Ⅱ」や「線形代数Ⅰ、Ⅱ」との関連について講演する。（担当：古閑先生）
- ◆ 工学部の各学科における必要とされる数学の力を知りたい。研究会の時にある学科の先生にプレゼンしてほしい。

2012.7.30 大久保

第3回 高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成24年7月26日（木）18:00～20:10

場所：福井大学（文京キャンパス）アカデミーホール

出席者（敬称略）

【高校側】：竹澤浩樹（福井県立三国高校）、宮田毅一郎（石川県立金沢商業高校）、小松勇二、青木、松沢（福井県立武生高校）、松村剛、南良一、島田敏寿、福田 浩之（福井県立高志高校）、中山真（福井県立嶺北養護学校）、白崎照康（福井県立武生工業高校）、中田政晴（福井県立藤島高校）、落合（羽水高校）

【大学側】：小野田信春、古閑義之、保倉理美、横井、大久保貢

話題

- 【1】入学者選抜方法別による“プレースメントテスト（数学）”の成績
- 【2】福井大学工学部“プレースメント（数学）”
- 【3】“数理解析”（大学2年前期）の授業について

- 【1】 入学者選抜方法別による“プレースメントテスト（数学）”の成績
（アドミッションセンター 大久保 教授）

- ◆ 大学入学後の入学時の成績（プレースメントテスト）と入学後の学業成績（4年間、3.5年間、2.5年間、1.5年間の学業成績）との関係を入学者選抜方法別に示して、AO入試（普通科・理数科）入学生の成績が振るわない。一方、AO入試（工業系）入学生の成績の伸びが著しいことを発表した。
- ◆ 入学者選抜方法別による留年率について、AO入試（普通科・理数科）入学生の留年率が約3割、一方、AO入試（工業系）入学生の留年率は一般入試（前期日程、後期日程）入試入学生と変わらないことを発表した。

- 【2】 福井大学工学部“プレースメント（数学）”
（工学研究科 古閑 准教授）

- ◆ 数学ステップアップの概要について下記のとおり説明した。
 - ・ 数学Ⅲの内容を中心とする補習授業
 - ・ 平成22年度に受講生数を倍増
 - ・ 前期6クラス（達成度別）約200名、後期4クラス約60名が受講
- ◆ プレースメントテストの問題内容と成績

- ・設問：放物線の平行移動、三角関数の合成、対数の性質、2次関数と面積 など
- ◆ 数学ステップアップの担当教員（横井先生）から受講生の状況について説明があった。

【3】“数理解析”（大学2年前期）の授業について

（工学研究科 古閑 准教授）

- ◆ 高校の数学や大学1年次の専門基礎科目「微分積分Ⅰ、Ⅱ」や「線形代数Ⅰ、Ⅱ」との関連について説明。
- ◆ “数理解析”では多項式のなすベクトル空間の直交基底をテーマとしている。

2012.11.17 大久保

第4回 高大連携数理教育研究会 議事録

日時：平成24年11月9日（木）18:00～20:00

場所：福井大学（文京キャンパス）アカデミーホール

出席者（敬称略）

【高校側】：竹澤浩樹（福井県立三国高校）、小松勇二（福井県立武生高校）、松村剛、南良一（福井県立高志高校）、中山真（福井県立嶺北養護学校）、白崎照康（福井県立武生工業高校）、橋本宏之（福井県立藤島高校）、山田雅彦（福井県立羽水高校）、河端良斉（敦賀気比高校）、吉田孝文（福井県立金津高校）

【大学側】：小野田信春、古閑義之、保倉理美、田嶋直樹、橋本貴明、大久保貢

話題

- 【1】 大学2年の講義“応用数学Ⅱ”（フーリエ級数とラプラス変換）
- 【2】 高 志願倍率入試における入学者の入学後の学業成績と意識調査
- 【3】 大学における授業参観

- 【1】 「大学2年の講義“応用数学Ⅱ”（フーリエ級数とラプラス変換）」

（福井大学大学院工学研究科 物理工学専攻 教授 橋本 貴明 先生）

- ◆ “応用数学Ⅱ”（フーリエ級数とラプラス変換）について、初回から3回目の講義について、内容・講義方法について説明した。
- ◆ 参加者から教える学科についての理解度に関して、質問があった。化学系学科より物理工学科の学生の方が理解度は高い傾向との事だった。

- 【2】 「高 志願倍率入試における入学者の入学後の学業成績と意識調査」

（福井大学アドミッションセンター 大久保）

- ◆ 数学ステップアップの概要について下記のとおり説明した。
 - ・ 数学Ⅲの内容を中心とする補習授業
 - ・ 平成22年度に受講生数を倍増
 - ・ 前期6クラス（達成度別）約200名、後期4クラス約60名が受講
- ◆ プレースメントテストの問題内容と成績
 - ・ 設問：放物線の平行移動、三角関数の合成、対数の性質、2次関数と面積 など
- ◆ 数学ステップアップの担当教員（横井先生）から受講生の状況について説明があった。

【3】“数理解析”（大学2年前期）の授業について

（工学研究科 古閑 准教授）

- ◆ 高校の数学や大学1年次の専門基礎科目「微分積分Ⅰ、Ⅱ」や「線形代数Ⅰ、Ⅱ」との関連について説明。
- ◆ “数理解析”では多項式のなすベクトル空間の直交基底をテーマとしている。

あとがき

本自己点検・評価報告書は、アドミッションセンター設置以来 12 年経過した時点で、センターの将来への展望を明らかにするため、平成 22 年度～24 年度の 3 年間の活動記録を集約し、現状と課題をとりまとめたものである。最大の収穫はこれまでの活動経過を見直す機会になったことである。全体としての活動の方向を再確認することができ、同時に今後展開していかなければならない改善点が見えてきた。センターに期待されている活動は、計画的に進めておりそれなりの成果を得ていると判断している。

今後は、今回の自己点検・評価で明らかになった「改善を要する点」についての改善を含め、センターに期待されている活動を着実に進めながら「福井大学の入試はどうあるべきか」を中心に据え、活動を進める所存である。

アドミッションセンター
専任教員 大久保 貢

執筆分担

本報告書の執筆分担は下記の通りである。

第1章	学務部入試課
第2章	大久保貢
第3章	長谷川重弘
第4章	大久保貢
第5章	大久保貢
第6章	学務部入試課

福井大学アドミッションセンター自己点検・評価報告書
2015

平成27年1月15日 発行

編集・発行 福井大学アドミッションセンター

〒910-8507 福井市文京3-9-1

TEL: 0776-27-8644

